

783
259



* 0057005000 *

0057005-000

783-259

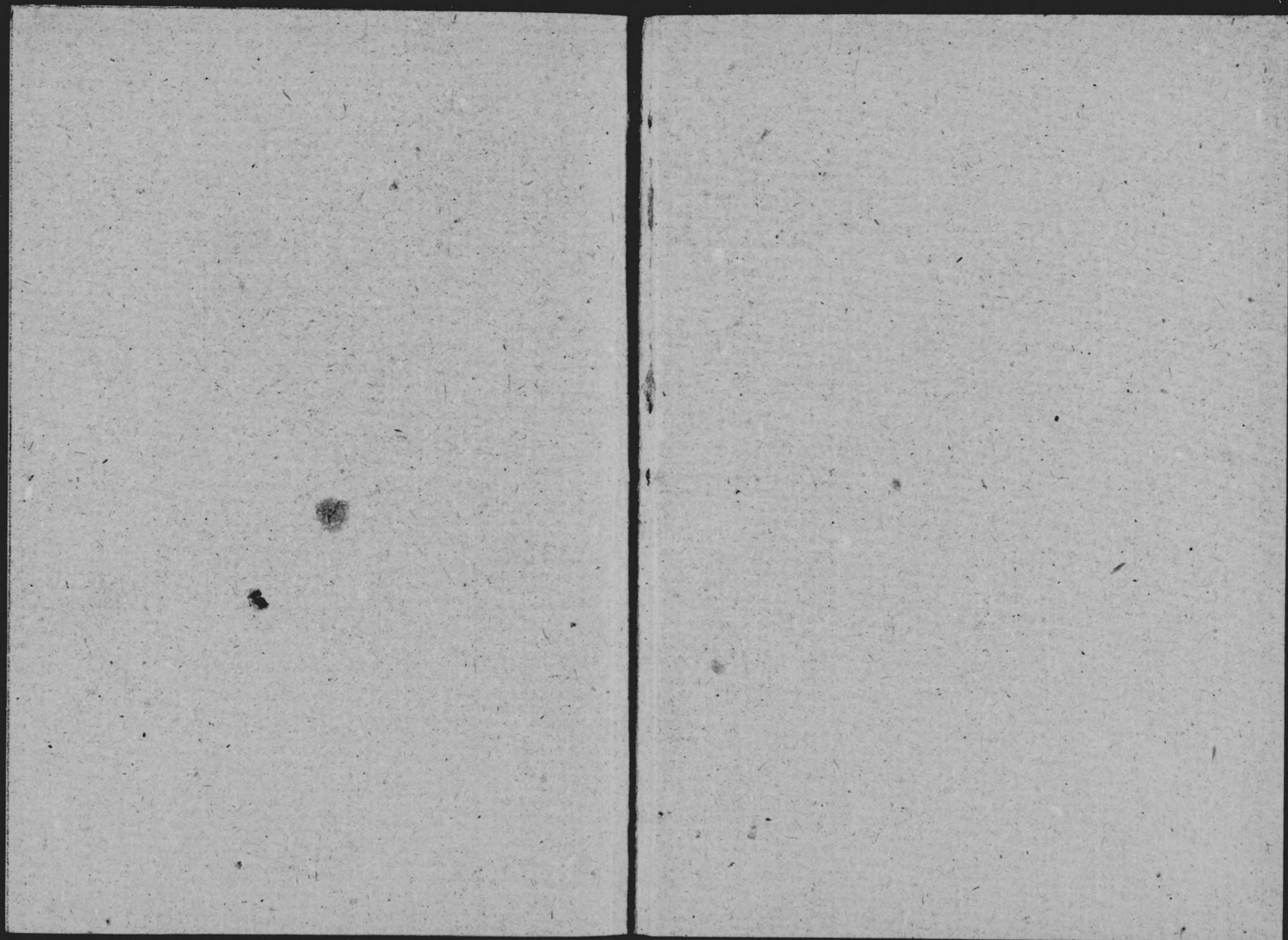
千九百三十八年發布ソ軍歩兵操
典

帝国在郷軍人会本部・訳編

軍人会館出版課

昭15

AJF





在總軍人會本部出版

千九百三十八年發布

ソ軍歩兵操典

(制式教練)



步兵操典



783
259

序

本書ハ一九三八年發布ノ「ソ」軍歩兵操典ヲ翻譯輯
録シタルモノナリ「ソ」軍歩兵ハ目下本操典ニ據リ
訓練セラレツツアルモノニシテ「ソ」軍歩兵訓練ノ
内容及歩兵戰術ノ趨向ヲ研究スル爲重要ナル文
獻ナリト認メ茲ニ刊行スルコトトセリ

昭和十五年六月

帝國在郷軍人會本部

ソ軍歩兵操典

目次

ソ聯國防人民委員會命令	一
第一篇 總 則	一
部隊内ニ於ケル指揮官及兵ノ心得	四
第二篇 各個教練	六
徒手各個教練	六
停止間ニ於ケル方向變換	七
行 進	九
目次	一

目次

行進間ニ於ケル方向變換……………二

執銃各個教練……………二四

銃ノ操法……………二五

躍進……………二三

匍匐……………二四

突擊……………二五

刺突……………二六

防拂……………二六

床尾ヲ以テスル打撃……………二三

瓦斯防毒具ノ著脱……………二三

「スキー」各個教練……………二六

第三篇 狙撃分隊……………二六

横隊……………二六
縦隊……………二五
分散隊形……………二五
「スキー」分隊隊形……………二六

第四篇 狙撃小隊……………二六

横隊……………二六
縦隊……………二六
疎開隊形……………二七

第五篇 狙撃中隊……………二七

横隊……………二七
縦隊……………二七

目次

疎開隊形.....四〇

第六篇 機關銃部隊.....三三

機關銃班.....三三

機關銃班ノ行進.....三六

機關銃分隊.....三九

橫隊.....三九

縱隊.....四〇

疎開隊形.....四〇

機關銃小隊.....四一

橫隊.....四一

縱隊.....四一

疎開隊形.....四一

機關銃中隊.....九

橫隊.....九

縱隊.....九

疎開隊形.....九

第七篇 狙擊大隊.....一〇五

展開隊形.....一〇五

行軍隊形.....一〇六

第八篇 狙擊聯隊.....一〇九

第九篇 特種部隊ノ集合隊形.....一一三

第十篇 特別隊形.....一一三

目次	六
觀兵式ノ隊形	一一三
軍旗ノ出迎	一一〇
軍旗ノ送出	一一三
迎送儀仗衛兵	一一三
送葬儀仗衛兵	一一三
附錄	
一、信號及記號表	一一六
二、行軍間兵ノ裝備法	一一七
三、兵ノ被服著脱法	一一三
四、機關銃材料廠勤務	一一九
五、軍隊符號	一二五

ソ軍歩兵操典目次終

ソ聯國防人民委員會命令 第五十六號

九三八年二月二十八日「モスクワ」市



今同公布ノ「ソ軍歩兵操典」ヲ實施スベシ
 九三四年歩兵操典草案」ヲ廢止ス

「ソ」軍各兵種（騎兵隊ヲ除ク）ハ兵器材料部隊ヲ伴ハザル徒歩教練實施ノ場合「ソ」軍歩兵操典ニ據ルベシ

ソ軍歩兵操典

第一篇 總 則

- 第一 隊形トハ小部隊ノ正シキ排列規定ヲ謂フ
- 第二 横隊トハ一列ニ排列スルヲ謂フ
二列横隊トハ一列横隊ノ後方一步ニ他ノ一列横隊ヲ重疊セルモノヲ謂フ其ノ場合第一列、第二列ト稱シ後向ヲ行フモ名稱ニ變化ナシ
四人以下ノ場合ハ常ニ一列横隊ニ排列ス
- 第三 伍トハ距離一步(手ヲ伸バス)ニテ前後ニ立チタル二人ヲ謂フ

- 二列横隊ニ於テ第二列ノ兵ヲ缺ク場合之ヲ缺伍ト謂フ
- 二列横隊ニ於ケル左翼ハ缺伍ナラザルヲ要ス
- 第一列ノ兵（指揮官）ヲ缺ク場合後列兵（指揮官）ハ前列ニ位置ス
後向ヲ行ヒタル場合缺伍ノ第一列兵（指揮官）ハ第二列ニ移動ス
- 第四 密集隊形ニ於ケル各兵ノ間隔ハ肘ノ間ヲ掌ノ幅トシ小部隊ニ在リテハ規定ノ間隔ヲ置ク
- 第五 分散隊形ニ於ケル各兵ノ間隔ハ一步或ハ指揮官ノ指示ニ依ル
- 第六 翼トハ隊列ノ左右端末ヲ謂ヒ後向ヲ行フモ其ノ名稱ハ變化セズ
- 第七 正面トハ兵ノ向フ方向ヲ謂ヒ右翼ハ右方ニ、左翼ハ左方ニ在リ
- 第八 背面トハ正面ノ反對方面ヲ謂フ
- 第九 正面幅トハ隊列兩翼間ノ幅員ヲ謂フ
- 第十 縦深トハ第一列（兵）ヨリ最後列（兵）ニ至ル間ノ距離ヲ謂フ
- 第十一 距離トハ前方部隊ノ後列（兵）ヨリ後方部隊ノ前列（兵）ニ至ル間ノ距離ヲ謂フ
- 第十二 間隔トハ正面ニ於ケル部隊、兵間ノ幅員ヲ謂フ

- 第十三 縦隊トハ隊列ノ縦深ガ其ノ幅ヨリ大ナルカ或ハ同等ナル隊形ヲ謂フ
- 第十四 縦隊ノ先頭トハ前方ニ在ル縦隊ノ部隊ヲ謂ヒ、縦隊ノ後尾トハ後方ニ在ル縦隊ノ部隊ヲ謂フ
- 第十五 横隊トハ規定ノ間隔ヲ以テ正面一線（二列横隊或ハ縦隊）ニ排列セラレタル部隊ノ隊形ヲ謂フ
- 第十六 行軍隊形トハ規定或ハ指揮官ノ命令ニ依リ指示セラレタル距離ヲ以テ縦長ニ排列セラレタル縦隊ノ隊形ヲ謂フ
- 第十七 疎開隊形トハ規定或ハ指揮官ノ命令ニ依リ指示セラレタル距離間隔ヲ以テ縦横ニ排列セラレタル隊形ヲ謂フ
- 第十八 嚮導トハ示サレタル目標ニ向ヒ前進スベキ兵（指揮官或ハ部隊）ヲ謂ヒ、他ノ兵（部隊）ハ目標ニ對シ自己ノ前進ヲ規正ス
- 後尾指揮官（兵）トハ縦隊ノ後尾ニ於テ前進スベキ指揮官（兵）ヲ謂フ
- 第十九 指揮ハ音聲、信號、記號及模範ニ依リ號令、命令ヲ以テ行フ指揮官ハ通視、傳達、指揮

ニ便ナル位置ニ在ルベシ

第二十 號令ハ豫令及動令ニ分ツ又「起テ」、「氣ヲ著ケ」、「伏セ」等ノ如キ動令ノミノ號令アリ豫令ハ隊列ニ在ルモノヲシテ指揮官ノ要求スベキ行動ヲ知得セシムル爲明瞭ニ高ク且長ク、動令ハ高ク短ク活潑ニ發唱シ其ノ間短時間ノ間ヲ存スベシ豫令ニ依リ行動ノ準備ヲ爲シ動令ニ依リ直チニ活潑ナル動作ヲ爲ス

第二十一 誤謬ヲ訂正シ或ハ舉動ヲ反復セシムル爲「止メ」ノ號令ヲ下ス此ノ號令ニ依リ號令前ノ姿勢ニ復ス

部隊内ニ於ケル指揮官及兵ノ心得

第二十二 一般心得

(イ)(ロ)(ハ) 部隊内ニ於テハ常ニ十分ナル靜肅ト注意トヲ保持ス
許可ナク部隊ヲ離ルルコトヲ得ズ
密集隊形内ニ在リテハ不動ノ姿勢ヲ取り前方ヲ直視シ且身體ヲ凝ルコトナク步調ヲ取り正面及伍ニ整頓ス

(ニ)(ホ)(ヘ) 常ニ指定ノ著裝ヲ爲ス
自己ノ銃ヲ十分ニ知悉シ汚損ニ注意シ常ニ行動ノ用意ヲ以テ執銃ス
常ニ軍事祕密ヲ嚴守シ其ノ言動ニ注意ス

第二十三 指揮官ノ心得

編成前

(イ)(ロ) 部隊ノ人員ヲ調査シ銃、資材及防毒具ノ整備ヲ點檢ス
服裝檢査ヲ行ヒ彈藥ノ數量及所持ノ適否ヲ點檢ス
列内

(イ)(ロ) 典令ノ要求ヲ正シク服行シテ自ラ模範ヲ示ス
兵ガ心得ヲ正シク服行スルヤ否ヤヲ監視ス

第二十四 兵ノ心得

編成前

(イ) 銃、資材、防毒具、工具、被服及彈藥ヲ點檢ス

(ロ) 被服及工具ヲ正シク著装シ修理ヲ行フ

列内

自己ノ定位ヲ記憶シ迅速機敏ニ定位ニ著ク

指揮官ノ命令、號令及信號ニ注意シ迅速靜肅ニ之ヲ實行ス

(ハ)(ロ)(イ)

指示及信號ヲ正シク高聲且明瞭(夜間ハ小聲)ニ傳達ス

列外

(ロ)(イ)

部隊ノ宿營及列外(市街其ノ他地方ニ於テ)ニ在ル場合常ニ服裝ヲ清潔ニ且正シクス

常ニ軍人的態度ヲ保持ス(物入ニ手ヲ入レザルガ如キ等)

第二篇 各個教練

徒手各個教練

第二十五 列内及列外ニ於ケル基本姿勢ハ「集レ」或ハ「氣ヲ著ケ」ノ號令ニ依リ姿勢ヲ取ル即

チ眞直ニ立チ兩踵ヲ揃ヘ兩足ハ正面ニ對シ足離長或ハ床尾ノ幅ニ開キ膝ヲ凝ルコトナク伸ベシ
手ハ自然ニ垂レ指ヲ股ノ中央ニ接シ指ハ輕ク伸ベシテ之ヲ竝ベ頤ヲ引キ前ノ方ヲ直視ス腹ヲ
引キ兩肩ヲ開キ頭ヲ眞直ニ保チ凝ルコトナク立チ直チニ行動シ得ル如ク準備ス
「氣ヲ著ケ」ノ號令後ハ動クベカラズ



第一圖 徒手基本姿勢

第二十六 「休メ」ノ號令ニ依リ定位

ヲ離ルルコトナク且注意ヲ怠ルコ

トナク自由ニ立ツ

「直レ」ノ號令ニ依リ定位ヲ離ル

ルコトナク被服、裝具ヲ正ス

指揮官ノ許可ナクシテ喫煙、談話

及列外ニ離ルルコトヲ許サズ

停止間ニ於ケル方向變換

第二十七 停止間ニ於ケル方向變換ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

第二篇 各個教練

右(左)向ケ 右(左)
半右(左)向ケ 右(左)
廻ハレ 左

右向及半右向ハ右踵及左足尖、左向、半左向及後向ハ左踵及右足尖ニテ廻ハル
旋廻ハ二舉動ニテ行ヒ先ツ姿勢ヲ正シク保チツツ旋回シ次デ後ロニ残りタル足ヲ速カニ引著ク
旋廻ニ際シ兩手ハ凝エズニ輕ク伸ベシ支フ

第二十八 「伏セ」ノ號令ニ依リ半右向ヲ爲シ右足ヲ半歩前ニ踏出シ迅速ニ左膝ヲ地ニ著ケタル
後左手及肘ヲ地ニ著ケ示サレタル方向ニ伏ス(第五圖)

第二十九 「起テ」ノ號令ニ依リ兩足ヲ揃ヘ兩足尖ヲ地ニ著ケ兩手頭ヲ肩ノ邊ニ引著ケ兩手ニテ
起チ左足ヲ一步前ニ出シ起立シ右足ヲ左足ニ引著ク

第三十 「氣ヲ著ケ」ノ號令ニ依リ迅速靜肅ニ基本姿勢ヲ取ル「休メ」ノ姿勢ニ在リタルトキハ
豫令ニ依リ基本姿勢ヲ取ル

第三十一 停止間ニ於ケル敬禮

列外停止敬禮ハ受禮者ニ向ヒ「氣ヲ著ケ」ノ姿勢ヲ取り受禮者ニ頭ヲ向ケテ注目ス
帽子ヲ冠リアルトキハ右ノ外右手頭ヲ帽子下縁前底ノ右側ニ添フ
指ハ之ヲ揃ヘ掌ヲ稍、外側ニ向ケ肘ハ肩ノ線上ト同ジ高サニス(第二圖)

行 進

第三十二 行進ハ速歩或ハ駈歩ヲ以
テ行ヒ規定ノ如ク先ツ左足ヨリ踏
出ス

第三十三 速歩ニハ儀式速歩及行軍
速歩アリ



第二圖 徒手敬禮

儀式速歩ハ儀式行進、行進間ニ於ケル敬禮及報告ノ爲上官ニ接近スル場合ニ行フ
行軍速歩ハ其ノ他總テノ場合ニ行フ

第三十四 速步行進ヲ起サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
前へ 進メ

豫令ニテ體軀ヲ稍前ニ傾ケ均勢ヲ取ル

動令ニ依リ一步前進ス

(イ) 儀式速歩ヲ行フ場合 足尖ニテ脚ヲ行進方向ニ出シ脚ヲ伸バシツツ毎歩強ク踏著ケ同時ニ體重ヲ前方ニ移ス兩手ヲ振り凝ルコトナク行進ヲ行フ手ハ前方ニ振ル場合帶革ノ高サニシ後方ニハ肩關節ノ許ス範圍迄振ル(右足前方ノ場合左手、左足前方ノ場合右手ヲ前ニ振ル)



第三圖 儀式速歩

(第三圖)

(ロ) 行軍速歩ヲ行フ場合 脚ヲ前ニ踏出シ膝ヲ屈スルコトナク足尖ヲ伸バサズ脚ヲ踏著ケ普通歩行ノ如ク行フ

第三十五 儀式及行軍速歩ノ速度ハ一分間ニ百二十歩、一步ノ長サ七十五乃至八十纏ヲ基準トシ山地、雪中、

砂地及耕地ニ於テハ歩度ヲ短縮ス

急歩ハ一分間ニ百三十五歩、一步ノ長サ八十乃至八十五纏トス

第三十六 足踏ヲ爲サシムルニハ「足踏ミ 進メ」ノ號令ヲ下ス(行進間ニ在リテハ「足踏ミ」)

脚ヲ膝ニテ曲ゲ上方ニ擧ゲ足尖ヲ地ヨリ離サズ速歩ノ速度トシ足ヲ踏著ケ兩手ヲ振ル

足踏ヨリ前進セシムルニハ左足ノ踏著ケト同時ニ「眞直ニ」ノ號令ヲ下シ右足ヲ一度踏ミ左足

ヨリ前進ス

第三十七 停止セシムルニハ「兵 止レ」ノ號令ヲ下ス 豫令ニテ足ヲ固ク踏著ケ動令ニテ一步

前ニ踏出シ次ノ足ヲ引著ケテ止ル

第三十八 行進速度ノ變換ヲ行フニハ左ノ號令ヲ下ス

歩幅ヲ 伸バセ

歩幅ヲ 縮メ

歩度ヲ 速メ

歩度ヲ 緩メ

常歩 進メ

第三十九 停止間ヨリ駢步行進ヲ爲サシムルニハ「駢歩 進メ」ノ號令ヲ下ス

豫令ニテ體軀ヲ前ニ傾ケ手ヲ自然ニ腰ノ傍ニ置キ動令ニテ左足ヨリ自然ノ歩行ヲ始メ活潑ニ駢歩前進ヲ爲ス

駢歩ノ速度ハ一分間ニ百八十歩迄、一步ノ長サハ一米ヨリ小ナラズ

速步行進中駢歩ヲ爲サシムルニハ左足ノ踏著ケト同時ニ「駢歩 進メ」ノ號令ヲ下ス動令ニテ右足ヲ一步前へ進メ左足ヨリ駢步行進ヲ爲ス

駢步行進ヨリ速歩ニ移ルニハ右足ノ踏著ケト同時ニ「速歩 進メ」ノ號令ヲ下ス 此ノ號令ニテ二步行進シ左足ヨリ速歩ニ移ル

第四十 長距離急行（急進）ノ場合ハ交互行進（駢歩及速歩）ヲ行フ

行進間ニ於ケル方向變換

第四十一 行進間方向變換ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右向ケ前へ 進メ

左向ケ前へ 進メ

斜ニ右へ 進メ

斜ニ左へ 進メ

廻ハレ左前へ 進メ

「右向」及「斜メ右向」ヲ行フ場合動令ハ右足ノ踏著ケト同時ニ下シ動令ニテ左足ヲ一步前進シ右足尖ニテ新方向ニ向キ同時ニ右足ヲ前方ニ踏出シ行進ス

「左向」及「斜メ左向」ヲ行フ場合動令ハ左足ノ踏著ケニ下シ動令ニテ右足ヲ一步前進シ右足尖ニテ新方向ニ向キ同時ニ左足ヲ前方ニ踏出シ行進ス

「廻ハレ左前へ」ヲ行フ場合動令「進メ」ハ右足ノ踏著ケニ下ス 此ノ動令ニテ左足ヲ一步前進シ次デ右足ヲ半歩前進シ左足尖ノ前ニ踏出シ兩足尖ニテ左轉回ヲ行ヒ左足ヨリ新方向ニ行進ス

駢步行進間「右向」、「斜メ右向」、「左向」、「斜メ左向」ヲ行フニハ速步行進間ニ於ケル要領ニ準ジテ行フ

驟歩行進間「廻ハレ左前へ」ヲ爲サシムルニハ四歩足踏中ニ左回轉ヲ行フ

第四十二 列外ニ於ケル行進間ノ敬禮

無帽ノ場合ハ受禮者ノ五歩前ニ於テ儀式速歩ニ移リ三步前ニテ受禮者ニ頭ヲ向ケ手ヲ振ルコトヲ中止ス

帽子ヲ冠リアル場合ハ少クモ受禮者ヨリ三步前ニテ受禮者ニ頭ヲ向ケ右手ヲ第三十一ニ示ス如クシ左手ヲ振ルコトヲ中止ス受禮者ノ通過スルヤ右手ヲ活潑ニ下ロシ行軍速歩ニテ前進ス

第四十三 行進間ノ「伏セ」ハ停止間ニ於ケル「伏セ」(第二十八)ト同一要領ニテ行ヒ次デ「起テ」ノ號令ニテ第二十九ニ示ス要領ニ依リ起立シ同時ニ行進ヲ續行ス

執銃各個教練

第四十四 執銃基本姿勢ハ徒手ニ於ケルト同一要領ナリ(第二十五)

第四十五 銃ハ自然ニ垂レタル右手ニテ支ヘ右足ノ傍ニ置キ床尾板ヲ地上ニ著ケ床嘴ヲ足尖ノ線ニ竝ベ右手ヲ自然ニ垂レ拇指ニテ銃床ヲ握リ他ノ指ヲ添フ(第四圖)



勢姿本基銃執 圖四第

第四十六 「伏セ」ノ號令ニテ第二十八ニ示ス姿勢ヲ取

リ銃ハ射撃準備ニテ保持ス(第五圖)

「起テ」ノ號令ニテ第二十九ニ示ス要領ニ依リ起立ス起立ノ際銃ニ凭ルベカラズ

銃ノ操法

第四十七 負銃ノ號令前小銃ハ安全裝置ヲ爲ス

負銃ハ「負ヘ銃」ノ號令ニテ三舉動ヲ以テ行フ

第二篇 各個教練



勢姿ノ臥伏銃執 圖五第



圖六第 動舉一第銃負



圖七第 動舉二第銃負



圖八第 動舉三第銃負

第一舉動 右手ヲ以テ銃ヲ上ゲ(體ヨリ離サズ)右足ノ前ニ置キ同時ニ負革ノ上部孔部ヲ肩ノ高サニシ負革ヲ左方ニ廻ハシ左手ヲ以テ銃床縱溝ヲ握ル(第六圖)

第二舉動 右手ノ拇指ト他ノ指ヲ以テ負革ノ上部孔部ノ所ニ於テ負革ヲ握ル(第七圖)

第三舉動 迅速ニ小銃ヲ肩ニ懸ケ左手ヲ垂レ右手

ニテ胸ノ高サニ負革ヲ持チ輕ク肘ニテ銃ヲ體ニ押著ク(第八圖)



圖九第 動舉一第ノ銃立リヨ銃負

第四十八 負銃ヨリ立銃ヲ爲スニハ「立テ銃」ノ號令ニテ三舉動ヲ以テ行フ

第一舉動 右手ニテ負革ヲ握リソツ床尾ヲ前ニ向ケ左手ニテ銃床縱溝ヲ握リ輕ク銃ヲ支フ(第九圖)

第二舉動 右手ヲ負革ヨリ離シ左手ニテ銃ヲ肩ヨリ右側ニ支ヘ右手ニテ銃床下部附著環ヨリ稍、高キ所ヲ握ル(第六圖)

第三舉動 左手ヲ迅速ニ下ロシ靜カニ銃ヲ地ニ著ケ立銃ノ姿勢ヲ取ル

第四十九 輕機關銃ノ負銃及立銃ノ動作ハ小銃ニ於ケルト同一要領ナリ

第五十 「背負ヘ」ノ號令ニテ擊鐵ヲ安全裝置ニ爲シ負革ヲ延バシ劍ヲ脱リ(著劍ノ場合)「劍輕

ニ納メ左肩ニ背負フ

「立テ銃」ノ號令ニテ背負ヨリ銃ヲ取り立銃ノ姿勢ヲ取ル

必要ニ依リ「著ケ劍」、「負革ヲ緊メ」、「撃銃ヲ解ケ」ノ號令ヲ下ス

備考

背囊アル場合ハ背負ハズ

第五十一 輕機關銃ノ背負ハ小銃ニ於ケルト同一要領ナリ

第五十二 擔銃ヲ爲スニハ「擔ヘ銃」ノ號令ニテ二舉動ヲ以テ行フ

第一舉動 右手ニテ銃ヲ體ニ近ク左側ニ移シ遊底ヲ前方ニ回轉ス次デ右手ニテ銃ヲ上ゲ左掌ヲ床尾板ノ下面ニ置キ左手先ニテ床尾ヲ握リ拇指ハ前ヨリ、他ノ指ハ床尾側面ニ添ヘ銃ヲ左肩前ニテ支ヘ床嘴ヲ前方ヨリ左大腿部ニ觸レシメ右肘ハ肩ノ高サニ置ク（第十圖）

第二舉動 右手ニテ銃ヲ輕ク後方ニ押シ左手ニテ迅速ニ銃ヲ持上ゲ彈倉ヲ肩ニ置キ左手頸ハ肘ヨリ稍、下ゲ同時ニ右手ヲ活潑ニ下ロシ左前膊ヲ横腹ニ著ケ肩ノ前ニテ銃床ヲ握リ之ヲ胸ニ凭ラセ側方ニ傾カザル如クス（第十一圖）



圖一十第 動舉二第銃擔

圖十第 動舉一第銃擔

擔ヒ方ノ不正ヲ修正スル爲「床尾ヲ正セ」「床尾正面」「銃劍高ク」「銃劍低ク」ノ號令ヲ下ス
第五十三 擔銃ヨリ立銃ヲ爲

スニハ「立テ銃」ノ號令ニテ三舉動ヲ以テ行フ

第一舉動 右手ニテ照準具ノ上ヲ握リ左手ヲ銃ト共ニ迅速ニ下方ニ下ロス

第二舉動 右手ニテ銃ヲ體ノ右側ニ移シ左手ニテ銃床上部附著環ノ所ヲ支ヘ銃ヲ地面ニ觸レシムルコトナク床嘴ガ足尖ノ線ニ來ル如ク腰ノ高サニ保ツ

第三舉動 左手ヲ定位ニ復シ右手ニテ銃ヲ靜カニ下ロス
備考 著劍セザル小銃及輕機關銃ハ擔銃ヲ爲サズ列中ニ在ルトキ「擔へ銃」ノ號令アラバ著劍セザル小銃及輕機關銃ハ負銃ヲ爲ス



第二十圖 銃構ノ作動

第五十四 擔銃ニテ行進中構銃ヲ爲サシムルニハ左足ノ踏著ケノトキ「構へ銃」ノ號令ヲ下ス
(イ) 行進ヲ繼續シ右足ヲ一步前進シ左足踏著ケノトキ左手ヲ銃ト共ニ十分ニ下ロシ同時ニ右手ニテ銃把ヲ握ル
(ロ) 右足ニテ更ニ一步前進シ左足踏著ケト同時ニ迅速ニ右手ヲ床尾ト共ニ右腹ニ置キ左手ニテ銃床下部

附著環ノ所ヲ握リ右腰ニ銃把ヲ著ケ右肘ヲ肩ノ線上ニ置キ銃劍ヲ頤ノ高サニ保ツ(第十二圖)

第五十五 構銃ニテ行進中擔銃ヲ爲サシムルニハ左足ノ踏著ケノトキ「擔へ銃」ノ號令ヲ下

ス

(イ) 行進ヲ繼續シ右足ニテ更ニ一步前進シ左足踏著ケノトキ銃床ヲ握ル右手ニテ銃ヲ回轉シツ

ツ左手ニテ銃ヲ押上ゲ次デ床尾板ヲ握リ左掌ニテ銃ヲ垂直ニ爲ス

(ロ) 右足ヲ一步前進シ左足踏著ケノトキ銃ヲ肩ニ置キ右手ヲ活潑ニ下ロス

第五十六 構銃ハ觀兵式ノ行進ニノミ用フ

第五十七 擔銃ニテ行進中「止レ」ノ號令アルトキハ更ニ一步前進シ足ヲ引著ケ立銃ノ姿勢ヲ

取ル

第五十八 立銃シテ停止及行進間ニ於ケル方向變換ハ徒手ト同一要領ナリ

立銃方向變換ノ際號令ニテ銃ヲ三乃至四纏持上ゲ銃劍(銃口)ヲ肩ニ近クシ方向變換後銃ヲ靜

カニ下ロス

第五十九 立銃行進ヲ行フニハ號令ニテ銃ヲ三乃至四纏持上ゲ腰ニ支フ

立銃行進中他方ノ手ハ體ニ近ク自然ニ振ル

駈步行進ノ際右手ヲ曲ゲ銃ヲ持チ銃口ノ部ヲ稍、前ニ出ス

密集隊形ニ於ケル駈歩ノ場合ハ銃劍ヲ體ニ近クス

第六十 「休メ」ノ號令ニテ自然ニ歩行ス但シ立銃要領ハ變更セズ

第六十一 立銃行進間ノ敬禮

(イ) 立銃、擔銃、負銃ノ場合儀式速歩ニテ通過シ受禮者ノ方ニ頭ヲ向ケ手ヲ自然ニ振リテ行進
ヲ繼續ス

(ロ) 負銃ノ場合ハ第四十二ニ示ス要領ニ依リ行フ

第六十二 機械、車輛、乘馬ニテ行進ノ際ノ敬禮

(イ) 機械及車輛乘車兵(運轉兵及馭兵ヲ除ク)ハ頭ヲ受禮者ニ向ケ右手ヲ舉手ス

(ロ) 乘馬兵ハ體ヲ眞直ニ保チ頭ヲ受禮者ニ向ケ右手ヲ舉手ス

第六十三 列外ニテ上官ニ報告、傳達ノ場合ハ儀式速歩ニテ近接シ三步前ニテ停止シ氣ヲ著ケ
ノ姿勢ヲ取リ最終ノ歩ニテ右手ヲ舉手シ足ヲ引著クルト同時ニ手ヲ下ロシ報告ス(例ヘバ中尉

殿、「シドロフ」兵ハ命令ニ依リ參リマシタ)

報告ヲ終リ行クコトノ許可アラバ舉手シ其ノ儘後向ヲ爲シ第一步前進ト共ニ手ヲ下ロス
擔銃ニテ上官ニ近接ノ場合ハ停止シ立銃ヲ爲ス行クコトノ許可アラバ擔銃ヲ爲シ後向ス
列ヨリ上官ニ對スル傳達ハ「休メ」ノ號令後ノミ行フ

躍 進

第六十四 躍進ハ敵火ヲ被ル地帯ヲ速カニ通過スル爲ニ行フ

躍進ヲ爲サシムルニハ左ノ如キ號令ヲ下ス(一例)

「ベトロフ」草叢ニ躍進 前へ

此ノ號令ニテ前進方向、一時休息ノ爲ノ遮蔽地點ヲ定メ裝填シ、擊發裝置ニシ、照尺ヲ倒シ、
迅速ニ駈ケ、體ヲ稍、曲ゲ成ルベク速カニ通過シ疾走シテ遮蔽物ニ伏ス次ノ躍進或ハ射擊開始
ノ爲數米ヲ匍匐ス

躍進距離ハ地形、敵火及兵力ニ依ルモ概ネ一五乃至四〇米ナリ

輕機關銃ヲ持ツ場合ノ躍進ハ豫メ抽彈シ左手ニテ脚桿ヲ併セ握リ下方ヨリ之ヲ銃身ニ著ク

第六十五 後方或ハ其ノ他ノ停止方向ニ躍進スル場合敵ニ面シテ伏シ射撃準備ヲ爲ス
此ノ場合左ノ如キ號令ヲ下ス(一例)

道路ノ土堤ノ後方右 駈歩

第六十六 體ヲ屈曲シテノ前進ハ小遮蔽地物(草、溝、穀草、灌木)ヲ利用通過スル場合行フ
此ノ場合左ノ如キ號令ヲ下ス(一例)

溝ニ沿ヒ體ヲ曲ゲ 前へ

體ヲ曲ゲ前進ノ場合輕ク膝ヲ曲ゲ體ヲ稍、前ニ傾ケ腰ヲ曲ゲズ急歩(駈歩)ニテ進ム

匍 匍

第六十七 匍匐ヲ行フニハ平這或ハ四節這ヲ以テス

平這 行動開始前體ヲ地ニ平ニ著ケ伏臥シ頭ヲ上グルコトナク右手ニテ負革ノ最上部ヲ握リ銃ヲ腕及前膊ノ外側ニ置ケ

匍匐ヲ爲サシムルニハ左ノ如キ號令ヲ下ス(一例)

「イワノフ」藪ニ匍匐 前へ



匍匐這平圖三十第

片足ヲ膝ニテ曲ゲ更ニ前ニ引著ケ得ル如クシ膝ヲ外側ニ開キ屈曲セル足ノ反對ノ手ヲ前方ニ伸バス掌ト屈曲セル足尖トニテ地ニ凭レツツ體ヲ前方ニ推進ス此ノ際殆ド體ヲ地ヨリ離スコトナシ次テ他ノ片足及片手ニテ同一要領ニ依リ前方ニ推進ス(第十三圖)
四節這匍匐 膝ニテ立チ腕及時ニ凭レ任意ニ前進ス
右手ヲ以テ平這ニテ示ス如ク負革ヲ握ル(第十四圖)
後退匍匐ハ平這或ハ四節這ノ要領ニテ敵ニ面シテ行フ
前進匍匐及後退匍匐ヲ行フニ方リテハ遮蔽物ヲ利用シテ行フヲ要ス

突 擊

第六十八 突撃ヲ爲サムシルニハ任意ノ足ヲ踏著クルト



勢姿撃突 圖五十第



(シ出踏足右)突刺本基 圖六十第



節四 圖四十第

同時ニ「突撃ニ 進メ」ノ號令ヲ下ス
 此ノ號令ニテ更ニ一步前進シ銃ヲ前方ニ出シ左手ニテ
 銃床下部附著環ノ上部ヲ握リ右手ニテ銃把ヲ握リ銃把
 ハ右彈藥囊前方ニ位置シ銃劍後部ハ頸ノ高サニ在ラシ
 メ床尾ヲ前膊ニ觸レシメ左手ハ輕ク屈曲シ肘ヲ銃ニ密
 著ス(第十五圖)

刺 突

第六十九 刺突ハ突撃ノ構ヘヨリ行フ
 「突ケ」ノ號令ニテ(基本刺突)兩手ヲ以テ銃ヲ前方
 ニ突き出シ劍尖ヲ目標ニ向ケ左手ノ握リハ其ノ儘トシ
 同時ニ左足ヲ快速ニ且十分踏著ケテ進出シ後ロノ足ハ
 足尖ニテ眞直ニ立ツ後兩手ニテ銃劍ヲ活潑ニ引キ前進
 ヲ繼續ス(第十六、第十七圖)



突刺縮短 圖八十第



突刺暢伸 圖九十第



(シ出蹈足左)突刺本基 圖七十第

第七十 「短ク突ケ」ノ號令ニテ兩手ニテ銃ヲ後方

ニ引キ快速ニ銃ヲ前方ニ突キ出シ目標ニ向ヒ劍尖

ニテ刺突ヲ行ヒ體ヲ曲グズニ稍、前方ニ傾ケ迅速

ニ銃劍ヲ引キ再ヒ突撃ノ準備ヲ爲ス(第十八圖)

第七十一 「長ク突ケ」ノ號令ニテ體重ヲ托セル足

ニテ十分ニ蹈出シ兩手ヲ十分ニ伸バシ銃ヲ前方ニ

突キ出シ左手ハ彈倉ヲ、右手ハ銃把ヲ握リ迅速ニ

劍ヲ引キ更ニ突撃ノ準備ヲ爲ス(第十九圖)

防拂

第七十二 「右ニ拂ヘ」迅速ニ左手ニテ右ニ拂ヒ

稍、銃ヲ前ニ出シ傾ケ彈倉ヲ左ニ、銃口部ニテ敵

ノ銃ヲ短ク且烈シク右ニ打撃ス防拂ノ瞬間左手ヲ

稍、屈ス



拂防左圖一十二第



拂防右下圖二十二第



拂防右圖十二第

右防拂ハ胸部右半部ニ向ヒ來ル刺突ニ對シテ行フ(第二十圖)

第七十三 「左ニ拂ヘ」 迅速ニ左手ニテ左ニ拂ヒ稍、銃ヲ前ニ出シ傾ケ彈倉ヲ右ニ銃口部ニテ敵ノ銃ヲ短ク且烈シク左ニ打撃ス防拂ノ瞬間右手ヲ銃ニ接ス(第二十一圖)

左防拂ハ胸部左半部ニ向ヒ來ル刺突ニ對シテ行フ

第七十四 「下右防拂」 迅速ニ左手ニテ拂ヒ彈倉ノ右上ニ旋回シ銃口部ヲ下右ニ半轉セシメ同時ニ床尾ヲ右手前膊ニテ持上テ短ク且烈シク敵ノ銃ヲ右ニ打撃ス防



拂防左下 圖三十二第

拂ノ瞬間右肘ハ體ヨリ離シ床尾ハ肩ノ高
 サニ爲ス(第二十二圖)
 下右防拂ハ胴ノ下部ニ向ヒ來ル刺突ニ對
 シテ行フ

第七十五 「下左防拂」 迅速ニ左手ニテ
 拂ヒ彈倉ヲ右ニ旋回シ銃口部ヲ下左ニ半
 轉セシメ銃口部ニテ短ク且烈シク敵ノ銃
 ヲ左ニ打撃ス(第二十三圖)

下左防拂ハ胴ノ下部ニ左方ヨリ向ヒ來ル
 刺突ニ對シテ行フ

床尾ヲ以テスル打撃

第七十六 「床尾横當」 「左防拂」 或ハ
 「下左防拂」 後成ベタル敵ニ近ク馳セ寄

リ右腰及右肩ヲ左前ニ捻リ直角ニ曲ゲタル右手ヲ前ニ出シ床尾ニテ敵ノ額部或ハ頸部ヲ下方ヨ
 リ左上ニ打撃シ同時ニ左手ニテ體ニ近ク左下ニ銃ヲ烈シク引著ク

第七十七 「床尾前當」 左ノ如ク連續ニ動作ヲ以テ行フ

(イ) 左防拂後銃ヲ其ノ儘ニシ伸バシタル左手ノ方向ニ左後ロニ銃劍ヲ振上げ同時ニ彈倉ヲ上方
 ニ回轉ス

(ロ) 兩足ニテ跳ビ或ハ蹈著ケト同時ニ兩手ヲ以テ床尾板ニテ敵ノ頭部ヲ打撃ス

第七十八 「床尾突上當」 左防拂後成ルベク敵ニ近ク馳セ寄り右腰及右肩ヲ捻リ同時ニ右手ヲ
 伸バシ右手ヲ曲ゲ下方ヨリ上方ニ床尾ヲ持上げ敵ノ兩足間或ハ腹部ヲ打撃ス

左手ニテ銃口ヲ左上ニ銃口部ヲ體ニ近ク烈シク引寄せ

第七十九 「頭部當」 迅速ニ兩手ニテ銃ヲ自己ノ頭上ニ持上げ(稍、前ニ)彈倉ヲ上方ニシ銃
 劍ヲ左ニ向ケ右手ハ殆ド伸バシ其ノ指ハ床尾ニ添ヒ左手ハ輕ク曲ゲ其ノ指ハ銃身ニ添フ

瓦斯防毒具ノ著脱

第八十 防毒面、防毒衣及防毒靴下ノ著裝ニハ左ノ三姿勢アリ

(イ) 行軍姿勢 瓦斯攻撃ノ直接脅威ナキ場合
 (ロ) 待機姿勢 瓦斯攻撃ノ直接脅威アル場合
 (ハ) 戦闘姿勢 瓦斯ノ直接危険アル場合

第八十一 待機姿勢ニ於ケル防毒面ノ處置ハ「防毒面 準備」ノ號令ヲ下ス 右肘ニ銃ヲ下ゲ紐ヲ取出シ腰ノ周圍ニ巻キ環ニ結著ス（釦ヲ掛ク）帽子ヲ脱グ用意ヲ爲ス（頤紐ヲ弛メ下部釦ヨリノ帽子後部覆ヲ脱ス）

待機姿勢ニ於ケル防毒衣ノ處置ハ「外被 準備」ノ號令ヲ下ス（外被背囊ニ在ル場合ノミ）外被ヲ背囊ヨリ取出シ疊ミアル儘頭巾ノ端ヲ左肩負革下ニ押込ミ其ノ開部ヲ上ニス

待機姿勢ニ於ケル防毒靴下ノ處置ハ「靴下 準備」ノ號令ヲ下ス 靴下ヲ背囊ヨリ取出シ隣兵ノ補助ニ依リ（隣兵不在ノ場合ハ背囊ヲ卸シ靴下ヲ取ル）半分ニ疊ミ腰ニ附ス待機姿勢ニ於ケル防毒面、防毒衣及防毒靴下ノ處置ハ「防毒面、外被、靴下 準備」ノ號令ヲ下ス

第八十二 戦闘姿勢ニ於ケル防毒面、外被及靴下ノ處置ハ其ニ應ズル號令「空襲警報」信號（防毒面及外被）「瓦斯警報」信號（防毒面及狀況ニ依リ其ノ他ノ防毒具）ニ依リ或ハ毒瓦斯ノ存在

ヲ認知セル場合ニ行フ

第八十三 戦闘姿勢ニ於ケル防毒面ノ處置ハ「瓦斯」ノ號令（信號）ニテ行フ 立銃ノ姿勢ニ在リテ呼吸ヲ止メ銃ヲ右肘ニ下ゲ蓋ヲ開キ「防毒面」ノ頸部厚縁部ヲ拇指ハ外方ヨリ、其ノ他ノ指ハ内部ニ入レテ持チ防毒面ヲ囊ヨリ取出シ之ヲ顔ニ當ツ之ガ爲指ハ下方ヨリ上方ニ、下部及頸部ノ紐ニ近ヅケ拇指及人差指ニテ帽子ノ底ヲ持上ゲ帽子ヲ冠リ大キク息ヲ吐キ呼吸ヲ始ム

「伏臥」ノ姿勢ヨリ防毒面ヲ著用スルニハ銃ヲ右側ヘ置キ呼吸ヲ止メ體ヲ右側ニ稍、曲ゲ防毒面ヲ著装シ大キク息ヲ吐キ呼吸ヲ始メ銃ヲ取ル 起立ノ姿勢ニ於テ防毒面ヲ著用スルニハ先ヅ負銃後爲ス

備考

行軍姿勢ニテ直接防毒面ヲ著装スル場合ハ待機及戦闘姿勢ニ於ケル防毒面著装ノ要領ニ依リ行フ但シ最後ニ結著スベキ紐ヲ除ク

第八十四 戦闘姿勢ニ於ケル防毒衣ノ著装ハ「外被ヲ著ヨ」ノ號令ニテ行フ左手ニテ銃床ヲ取り



之ヲ左方ニ置キ右手ニテ外被頭巾ヲ取り（拇指ハ外被ノ袋ヲ抑ヘ他ノ指ハ頭巾ノ内部ニ）囊中ヨリ外被ヲ取出シ之ヲ上ゲ背後ニ投ゲル如クシ稍々前方ニ曲ゲ（外被ニテ十分ニ身ヲ覆フ）銃ヲ兩膝ニ挟ミ外被ヲ裝ヲ直シ内物入ヲ取り之ヲ重ネ右手ニ銃ヲ取ル
備考

一、外被ニ孔蓋ヲ有スル場合ハ其ノ釦ニテ緊ム

二、立膝、折敷、伏臥ノ姿勢ニテ外被著裝ノ場合ハ右側ニ銃ヲ置ク

外被ヲ著用シ空中目標ニ對シ膝姿勢射撃ヲ行フニハ右裾下部ニ右膝ヲ立テ右眼ニテ目標ヲ良ク見得ル迄頭巾ヲ脱ギ外被ノ左裾ヲ折リ外被内物入ヲ抑ヘ銃ヲ取り射撃準備ヲ爲ス

第八十五 戦闘姿勢ニ於ケル防毒靴下ノ著裝ハ「靴下履ケ」ノ號令ニテ行フ 銃ヲ地上ニ置キ（撤毒地域ニ在ル場合ハ背負ハセ或ハ頸ニ懸ク）腰ヨリ靴下ヲ取出シ撤毒地域外或ハ外被ヲ置キタル非撤毒部ニ立チ靴下ヲ履キ銃ヲ取ル

第八十六 防毒面及防毒衣（靴下）ヲ著裝セシムルニハ「瓦斯 外被（靴下）」ノ號令ヲ下ス

第八十七 防毒面ヲ脱ガシムルニハ「防毒面 脱ゲ」ノ號令ヲ下ス 銃ヲ右肘ニ下ゲ（伏臥ノ姿

勢ニ在リテハ銃ヲ地上ニ置ク）右手ニテ帽子ヲ少シク持上ゲ左手ニテ排氣孔ヲ持チ其ノ拇指及人差指ニテ防毒面ノ口ヲ握リ輕ク防毒面ヲ下前ニ出シ頸ヨリ防毒面ヲ脱シ之ヲ取り帽子ヲ冠リ防毒面ヲ拭淨ス

防毒面ヲ置カシムルニハ「防毒面 置ケ」ノ號令ヲ下ス右手ニテ防毒面ノ眼鏡ヲ持チ防毒面ノ側壁ヲ左手掌上ニ置キ防毒面ヲ縦ニ疊ミ右眼鏡ヲ閉ヂ後部覆ニテ左眼鏡ヲ閉ヂ排氣孔ノ所ニテ「マスク」ヲ前ニ折疊ミ左手ニテ連結管ノ中央ヲ握リ囊ニ納メ排氣瓣ヲ左ニ向ケ防毒面ヲ上方ニ置キ防毒面ノ頸部ヲ上部ニ在ラシム

第八十八 防毒衣ヲ脱ガシムルニハ「外被 脱ゲ」ノ號令ヲ下ス風上ニ向キ後口上ニ外被ヲ少シク持上ゲ手幅ヲ擴ゲ外被ヲ投ゲ銃ヲ取ル

伏臥姿勢ニテ行フ場合ハ手ヲ背部ニ當テ風下方向ニ外被ヲ投ゲ

第八十九 感毒セザル外被ヲ格納セシムルニハ「外被 納メ」ノ號令ヲ下ス 隣兵ト二名ニテ行フ外被ヲ擴ゲ之ヲ二ツニ折リ右裾ヲ上方ニシテ共ニ縁ヲ揃ヘ（一名ハ頭巾ノ方ニ、他ノ一名ハ外被ノ裾ノ方ニ位置ス）外被ノ背部ヨリ一襲ヲ十五種ノ幅トシ此ノ襲ニ右上裾ヲ袋トシテ置キ

袋ノ各袋ノ幅ハ平均十五糎トシ各袋ヲ手ニテ良ク撫附ケ疊ミタル右裾ヲ左裾ニ折返シ左裾ヲ同様ニ右裾ニ袋トシテ折入レ縦ニ置キ頭巾ヨリ袋トシテ外被ヲ折疊ミ各袋ハ二十糎トシ袋トシテ疊ミタル外被ヲ防毒囊ニ別ニ入レ頭巾ヲ手前ニ、頭巾開部ハ前方ニ見ユル如クス

備考

外被裝著ノ背囊ニ外被ヲ格納スル場合ハ先ツ背部ヨリ袋トシテ三ツノ袋ヲ作り以テ簡別ニ各裾ヲ袋トシテ格納ス

第九十 防毒靴下ヲ脱ガシムルニハ「靴下 脱ゲ」ノ號令ヲ下ス靴下ヲ脱グニハ左足尖ニテ右靴下ノ底部（開部）ヲ踏著ケ右足ノ踵ガ靴下ノ胴ニ出ヅルヤ中途ニシテ地上ニ踏著ケ右足尖ニテ左靴下ノ底部（開部）ヲ踏著ケ全ク靴下ヲ引下ロシ手ヲ觸レズニ兩足ヨリ靴下ヲ振落ス

第九十一 防毒具ヲ検査スルニハ「防毒面、外被、靴下 検査」ノ號令ヲ下ス外被ヲ著用シ靴下ヲ取出シテ左手ニ下ゲ防毒面ヲ囊ヨリ取出シ右手ニ罐ヲ、左手ニ防毒面ヲ持ツ

「スキー」各個教練



革負助補圖四十二第

第九十二 「スキー」行進ノ場合小銃ハ手ニ持チ或ハ負銃ヲ爲ス負銃ノ場合小銃ハ兩端ヲ結著セル補助負革ヲ使用ス之ガ爲銃負革ト環ヲ通シ結著ス而シテ長キ方ヲ下ニ短キ方ヲ上ニ爲ス負銃ヲ爲シ補助負革ノ長キ方ヲ背部背囊ノ下方ヨリ左手ノ下ヲ通シ短キ方ヲ後方ヨリ襟ニ添ハシメ兩端ヲ接續環ニテ左方胸部ニ於テ結合ス（第二十四圖、第二十五圖）

第九十三 「スキー結合」ノ號令ニテ一ツノ「スキー」ヲ足尖ヨリ他ノ「スキー」ノ縮具及足尖革ニ通シ一ツノ杖ヲ他ノ杖ノ環ニ通シ杖ノ端ヲ上部「スキー」ノ足尖革ニ通シ同時ニ兩杖ノ環ニテ「スキー」ノ足尖端末ヲ結合ス長時間保持ノ爲兩杖ノ端末ヲ革（紐）ニテ「スキー」ノ足臺ニ結著ス



圖五十二第 負銃ノ姿勢ニ於テ補助革結著法

第九十四 「集レ」ノ號令ニテ「スキ

」ヲ持チ定位ニ著ク「スキー」ヲ

體ニ近ク立テ右足尖ノ所ニ後部ヲ置

キ足臺ヲ右ニシ右手ニテ足臺ヲ支持

ス(第二十六圖)

第九十五 「スキー」ハ小銃ノ反對側

ノ肩ニ負フ「スキー負ヘ」ノ號令ニ

テ右(左)肩上ニ内側上方ニ向ケ縱

ニ負ヒ「スキー」下端ヲ上ヨリ持ツ(第二十七圖)

「立テ」ノ號令ニテ「スキー」ヲ肩ヨリ下ロシ立姿ヲ取ル

第九十六 「スキー持テ」ノ號令ニテ右手ニテ「スキー」上端ヲ下方前ニ出シ右手ヲ肘ヨリ曲ゲ

足臺ヲ抱キ込ム(第二十八圖)

「立テ」ノ號令ニテ基本姿勢ヲ取ル



圖六十二第 執銃ノ立姿

第九十七 「スキーニ乘リ

集レ」ノ號令ニテ杖ヲ解

キ右ニ置キ「スキー」ヲ

解キ左足ヨリ「スキー」

ヲ穿チ次デ右足ニ穿チ兩

杖ヲ兩足尖ノ線ニ竝ベ

手ヲ胸ノ高サニ爲シ直視

ス

「スキーヨリ下リヨ」ノ

號令ニテ杖ヲ捕ヘ右ニ置

キ「スキー」ヲ脱ギ基本

姿勢ヲ取ル



圖七十二第 〔スキ〕ノ負ルヘ姿勢



勢姿ツ持ヲ「スキー」圖八十二第

第九十八 「スキー又メ」ノ號令ニテ

兩杖ノ上端ヲ孔ニ通シ紐ニテ結合シ

(第二十九圖) 兩杖ノ下端ヲ雪ニ突

差シ其ノ間隔ヲ六〇種ニ開キ「ス

キー」ヨリ下リ「スキー」ヲ揃へ前

部屈折部ヲ兩杖間上ニ置ク(第三十

圖)

第九十九 「スキー」ニ於ケル行進及

停止間ノ號令ハ長ク延バス

第百 「スキー」ニ於ケル方向變換ハ

通常ノ號令ヲ以テス

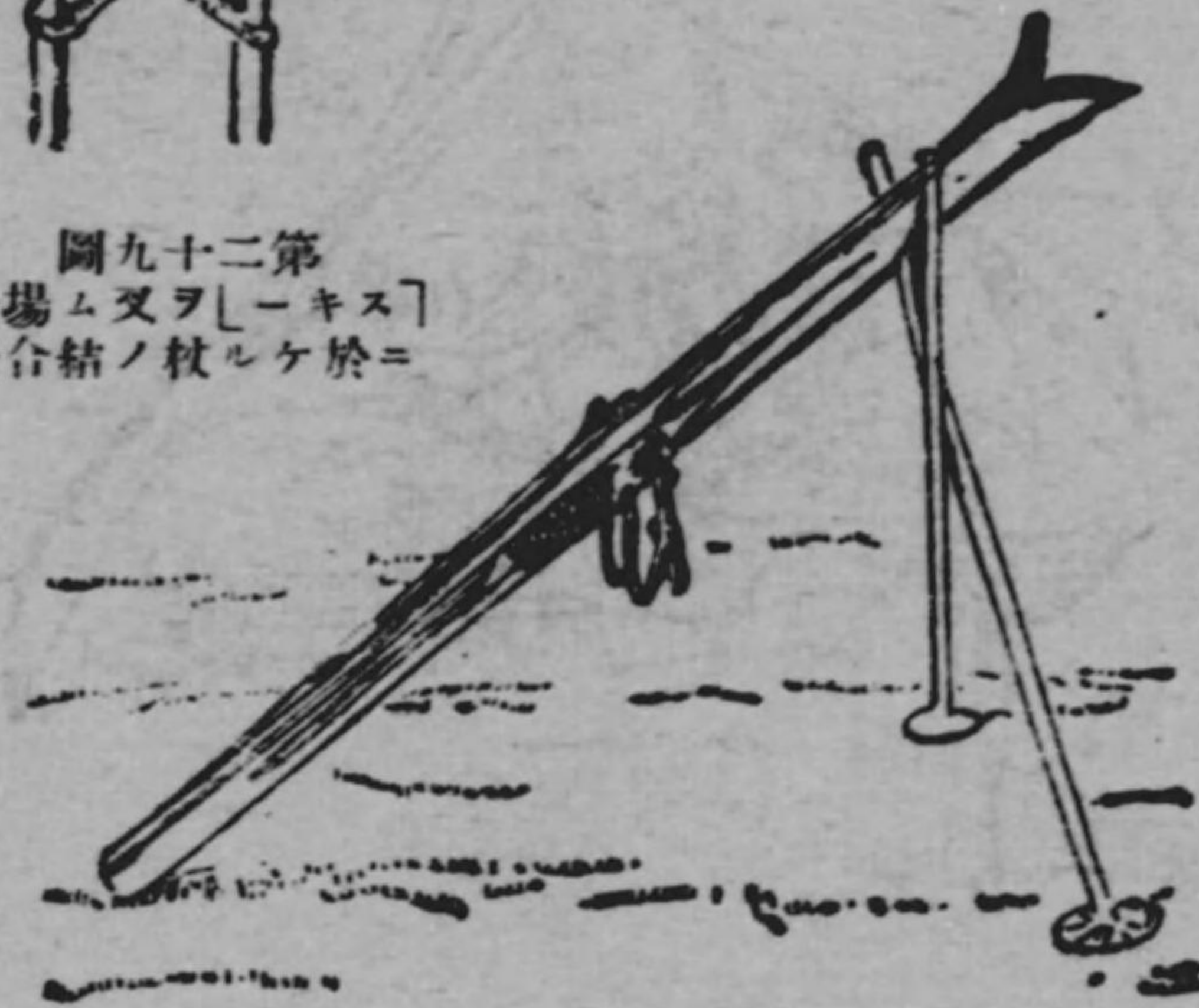
停止間半輪ニ旋回ヲ爲スニハ右(左)

「スキー」ヲ起シ後部ヲ離サズ四〇



圖九十二第
合場ム又ヲ「スキー」
法合結ノ杖ルケ於ニ

第二篇 各個教練



方ミ又ノ「スキー」圖十三第

乃至四五度變換方向ニ移行シ他ノ足
ヲ著ケ此ノ要領ヲ以テ要求方向ニ變
換ヲ終ル迄反復ス

行進間半輪ニ旋回ヲ爲スニハ停止間
ニ於ケル同一要領ニ依リ方向ヲ變換
シ一方ノ足ニテ滑走シ體ノ重心ヲ滑
走足ニ置ク

第百一 足ヲ越エ旋回ヲ行フニハ右杖
ヲ支點トシ右足ニ體ノ重心ヲ移シ左
足ヲ膝ヨリ上方ニ起シ踵ニテ「スキ
ー」ノ後端ヲ前方ニ突き出シ新方
向ニ向ケ同時ニ右「スキー」ノ後端
ニ於テ左杖ニ托シ旋回ヲ爲シ右足ヲ



勢姿隊伏「スキ」 圖一十三第

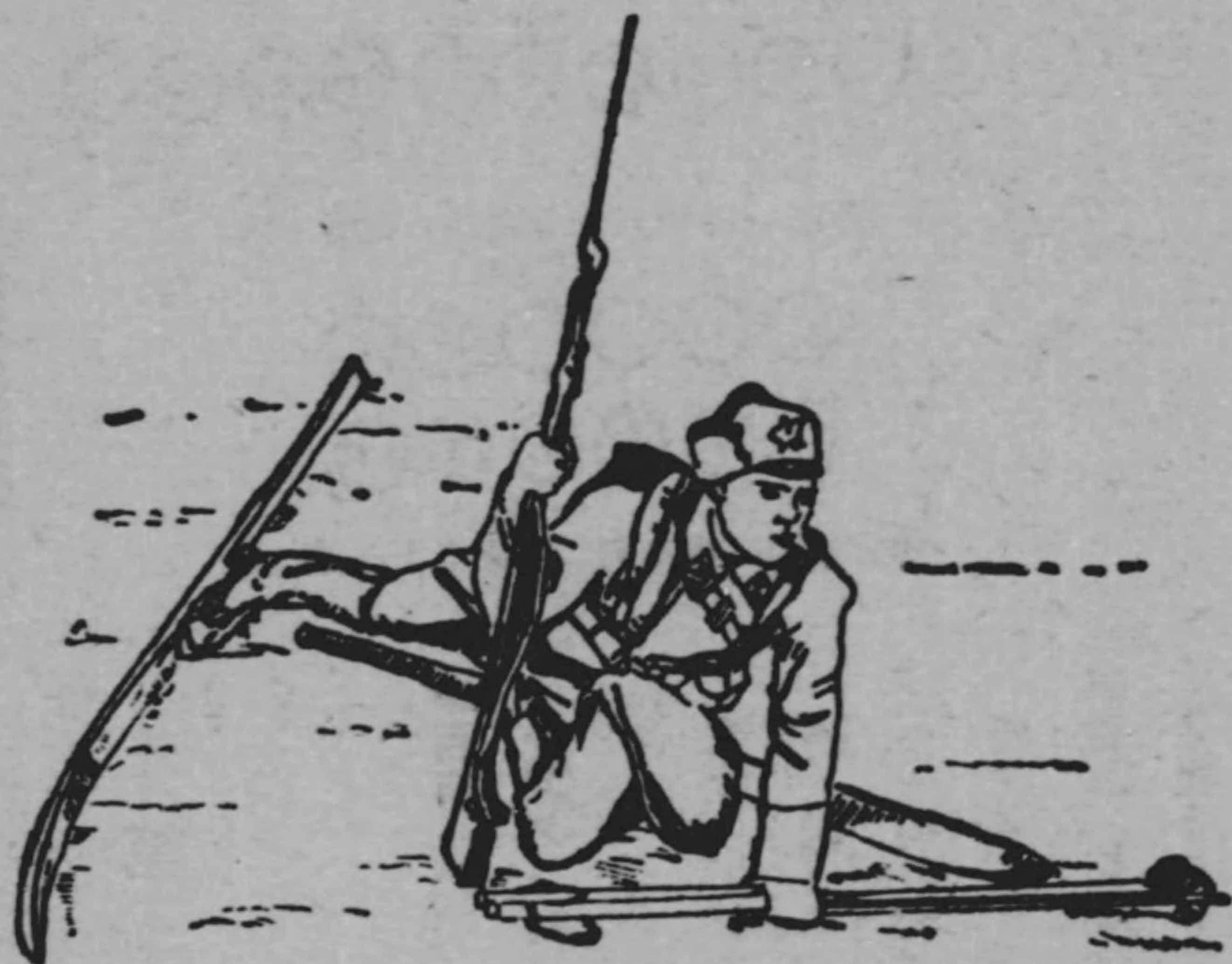
左足ニ引著ク

第百二 「伏セ」ノ號令ニテ兩杖ヲ左手ニ、銃ヲ右手ニ持チ「スキ」ノ後部ヲ地ニ著ケ「スキ」ノ前部ヲ前ニ向ケ杖ニ托シテ左膝ヲ立テ次ニ右膝ヲ立テ迅速ニ伏臥シ杖ヲ體前ニ置キ左肘ヲ兩杖間ニ、銃ヲ杖上十字ニ置ク（第三十一圖）

「起テ」ノ號令ニテ左手ヲ杖ニ托シ右手ヲ銃ニ托シ左膝ヲ立テ右足ヲ體ニ近ク引著ケ足尖ニテ行進方向ニ「スキ」ヲ向ケ右足ヲ伸バシツツ起立ス

（第三十二圖）

第百三 「スキ」ニテ匍匐ヲ行フ場合ハ「スキ」ヲ揃ヘテ雪上ニ置キ兩手ヲ以テ杖ノ環ノ近クヲ持チ足臺上ニ伏臥シ兩手ヲ前方ニ伸バシ杖ヲ雪中ニ突差シ之ニ托シテ動作ヲ始ム匍匐ノ場合小銃ハ背負ヒ或ハ頸ニ水平ニ懸ク



作動ノ立起リヨ臥伏「スキ」 圖二十三第

第三篇 狙撃分隊

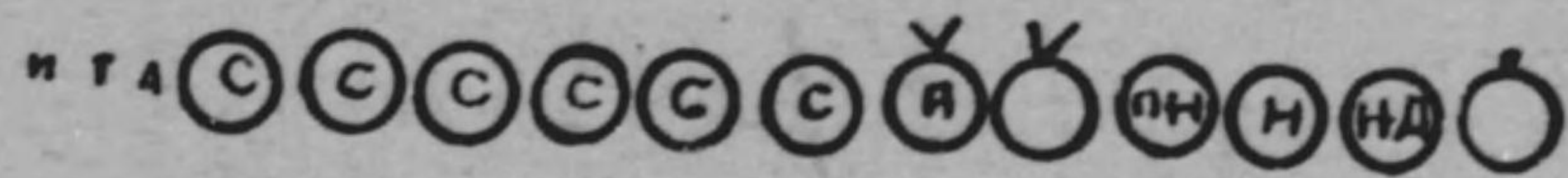
横 隊

第百四 分隊ノ横隊 一列横隊及二列横隊

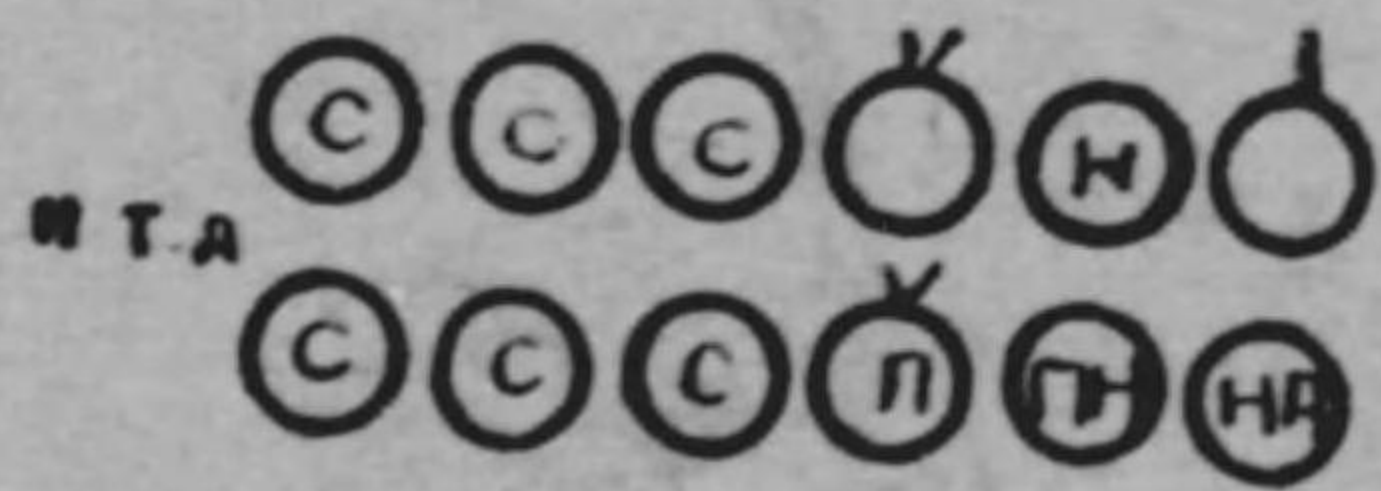
分隊ノ一列隊形ヲ作ラシムルニハ「分隊 集レ」ノ號令ヲ下ス

號令ヲ下シツツ分隊長ハ「氣ヲ著ケ」ノ姿勢ヲ取り左手ヲ伸バシ隊形ノ方向ヲ示シ直チニ手ヲ下ロス分隊長ノ左方ヘ一列ニ列ブ各兵ノ間隔ハ掌ノ幅ニシテ横ヨリ離シタル時ガ輕ク隣兵ニ接スル程度トス(第三十三圖)

第百五 分隊ノ二列隊形ヲ作ラシムルニハ「分隊二列ニ 集レ」ノ號令ヲ下ス



隊分撃狙ノ隊横列一 圖三十三第



隊分撃狙ノ隊横列二 圖四十三第

號令ヲ下シツツ分隊長ハ「氣ヲ著ケ」ノ姿勢ヲ取り左手ヲ伸バシ隊形ノ方向ヲ示シ直チニ手ヲ下ロス分隊長ハ二列ニ、第二列ハ第一列ヨリ手ヲ伸バシタル間隔ニ整列ス兵ハ第三十四圖ニ示シタル位置ヲ占ム

分隊長隊列ヲ出ヅル場合モ觀測手ハ其ノ位置ニ在ル

第百六 分隊ヲ整頓セシムルニハ「準ヘ」(左ニ準ヘ)ノ號令ヲ下ス

「準ヘ」ノ號令ニテ右翼ヲ除ク全員ハ銃劍ヲ右肩ニ著ケ頭ヲ右(右耳ヲ左耳ヨリ高ク顎ヲ上げテ)ニ向ケ四番目ノ兵ノ胸ヲ見得ル如ク整頓ス「直レ」ノ號令ニテ兵ハ頭ヲ眞直ニシ立銃ス

第百七 一列隊形ノ分隊ニ一、二ノ番號ヲカケシムルニハ「一、二ノ番號 番號」ノ號令ヲ下ス番號ハ右翼ヨリ始メ各兵ハ自己ノ番號ヲ唱ヘツツ速カニ頭ヲ左ノ兵ニ向ケ速カニ正面ヲ向ケ左翼ハ頭ヲ左ニ向ケズ

第百八 分隊ニ一連番號ヲカケシムルニハ「順位ニ 番號」ノ號令ヲ下ス

此ノ號令ハ第百七ニ示セル如クニ行フベキモ各兵ハ其ノ順位番號ヲ唱フ二列隊形ニ在リテハ第二列ノ左翼ハ番號ノ終リタル後「滿」又ハ「缺」ト唱フ

第百九 戦闘班ノ點檢ヲ爲スニハ分隊長ハ各兵ノ專門部署ヲ呼ビ各兵ハ其ノ姓ヲ答フ例ヘバ「觀測手」ト呼ベバ其ニ該當スル兵ハ「イワーノフ」ト答フ

第百十 停止間ノ轉回ハ各個教練ノ場合ト同様ノ號令ニテ行フ但シ豫メ「分隊」ノ號令ヲ冠ス轉回ハ各兵ガ均齊ヲ保チテ同時ニ行フ

第二列ノ側ヘ轉回セルトキハ缺伍ハ前列ニ移ル

第百十一 停止間分隊ノ間隔ヲ開カシムルニハ「分隊右ヘ（左、中央基準）開ケ」又ハ「分隊右ヘ（左、中央基準）何歩ノ間隔ニ開ケ」ノ號令ヲ下ス基準兵ヲ除ク各兵ハ開ク方向ヘ轉回シ足ヲスラセ急ギ前ヘ進ミ後ロヨリ來ル兵ヲ顧ミテ所要ノ間隔ヲ取リテ停止シ其ノ場ニテ正面ヲ向ク號令ニテ間隔ガ定メラレザリシトキハ一步ノ間隔ニ開ク

「準ヘ」ノ號令ニテ分隊ハ一定ノ間隔ヲ保チテ基準翼（中央）ニ準フ

駈歩ニテ開カシムルニモ同様ノ號令ニ依ル但シ此ノ場合ハ「駈歩」ナル語ヲ冠ス

第百十二 分隊ノ間隔ヲ縮メシムルニハ「分隊右（左、中央）ヘ間隔ヲ縮メヨ」ノ號令ヲ下ス基準兵ヲ除ク各兵ハ示サレタル方向ニ轉回シ急歩ニテ定メラレタル密集隊形ノ間隔ニ歩ミ寄り

停止シテ分隊ノ最初ノ方向ヘ向ク

第百十三 二列隊形ノ分隊ヲ伏臥セシムルニハ「分隊 伏セ」ノ號令ヲ下ス

此ノ號令ニテ前列ハ一步前進ス其ノ後前、後列共ニ伏臥ス

「起テ」ノ號令ニテ前、後列共ニ起チタル後後列ハ前列ニ縮メル

分隊ガ二列縱隊ナルトキ分隊ヲ伏臥セシムルニハ豫メ「半バ右（左）ヘ」ト示シタル後「分隊 伏セ」ノ號令ヲ下ス

第百十四 分隊ヲ行進セシムルニハ「目標獨立樹木（溝ニ沿フ道路）右（左）翼基準分隊前ヘ（駈歩）進メ」ノ號令ヲ下ス基準兵ハ示サレタル目標ニ向ヒテ進ミ他ノ兵ハ基準兵ニ準ヒ一定ノ間隔ヲ保チツツ前進ス

第百十五 肩ノ旋回ニテ方向變換ヲ爲サシムルニハ「分隊 右（左）肩前ニ前ヘ 進メ」（行進間ハ「進メ」ノ號令ヲ下ス

豫令ニテ旋回翼ハ變換方向ヘ頭ヲ向ケ「進メ」ノ號令ニテ分隊ハ右（左）肩ヲ前ニ旋回ヲ開始ス此ノ際旋回翼ノ兵ハ軸翼ニ兵ヲ壓迫セザル如クニ考慮シツツ常歩ニテ前進ス軸翼ノ兵ハ停止

間ノ旋回ニ在リテハ其ノ場ニテ足踏ヲ爲シ、行進間ノ旋回ニ在リテハ小サキ弧ヲ踏ミ同時ニ旋回翼ノ前進ト共ニ分隊ガ常ニ眞直ナル如ク注意シツツ左(右)ヘ頭ヲ向ク他ノ兵ハ頭ヲ動カスコトナク眼ニテ整頓シ軸翼ニ近ヅクニ從ヒ次第ニ小歩ニテ歩ム

分隊ガ所要ノ距離前進セルトキ「眞直ニ」又ハ「分隊 止レ」ノ號令ヲ下ス

第一百十六 分隊ヲ整列セシメ方向變換セシムルニハ分隊ヲ翼ノ方向ヘ轉回セシメタル後「分隊左

(右)ニ竝ビ前ヘ(駆歩) 進メ」(行進間ハ「進メ」又ハ「駆歩 進メ」ノ號令ヲ下ス停止間ハ「進メ」ノ號令ニテ右(左)翼ヲ除ク各兵ハ整列スル側ヘ半バ頭ヲ向ケ新整列線ヘ最短距離ヲ歩ミ(走り)タル後停止ス

行進間ハ停止間ト同様ナルモ軸翼及整列ヲ終リタル兵ハ「眞直ニ」又ハ「止レ」ノ號令アル迄其ノ場ニテ足踏ヲ爲ス

駆歩ニテ行フトキハ翼ハ常歩ニテ前進ヲ續ケ他ノ兵ハ整列線ニ達スルニ從ヒ逐次速歩ニ移ル

第一百十七 二列隊形ノ分隊ヲ一列隊形ニ爲スニハ分隊ヲ豫メ一步ノ間隔ニ開キタル後「分隊一列

横隊 作レ」ノ號令ヲ下ス

停止間ニ行フニハ三舉動ニテ爲ス第二列ノ兵ハ(一)左足ニテ一步左ニ寄り(二)右足ニテ一步前進シ第一列ニ入り(三)左足ヲソレニ著ケル
分隊長隊列ニアラザルトキハ觀測手ガ一步右ニ寄ル

行進間ニハ第一列ノ兵ハ其ノ場ニテ二步足踏ヲ爲シ第二列ノ兵ハ左足ニテ一步左ニ寄り右足ニテ一步前進シ而シテ分隊ハ行進ヲ續行ス

第一百十八 一列隊形ヨリ二列隊形ヲ作ラシムルニハ「分隊二列横隊 作レ」ノ號令ヲ下ス之ハ三舉動ニテ行フ

(イ) 分隊ガ戰鬪班順ニ竝ビタルトキ停止間ニ行フニハ第二列ノ兵ハ(一)左足ニテ一步後退シ

(二)右足ニテ一步右ニ寄り(三)左足ヲソレニ揃フ行進間ニ行フニハ第一列ノ兵ハ前進ヲ續ケ第二列ノ兵ハ其ノ位置ニ於テ二步足踏ヲ爲シ三步目ニテ第一列ノ兵ノ後ロニ歩ミ寄ル

(ロ) 分隊ノ戰鬪班ガ定メアラザルトキハ分隊ハ豫メ一、二ノ番號ヲ附ス
「二列横隊 作レ」ノ號令ニテ停止間ニ行フ場合ハ偶數ハ左足ニテ一步後ロニ、右足ニテ一

歩右ニ寄りソレニ左足ヲ揃フ行進間ニ行フ場合ハ奇數ハ前進ヲ續ケ偶數ハ其ノ場ニテ二歩足踏ヲ爲シ三步目ニテ奇數ノ後ロニ踏寄ル

第一百十九 行進間ニ間隔ヲ開キ又ハ縮ムルニハ停止間ト同様ノ號令ヲ下ス此ノ際基準兵ハ動令ニテ半歩ツツ前進シ他ノ兵ハ頭ヲ半バ右又ハ左ニ向ケ行進ヲ爲シツツ開キ又ハ縮ム
所要ノ間隔ヲ取リタル後各兵ハ夫々前進スル方向ヘ頭ヲ向ケ基準翼(中央)ニ準ヒ半歩ツツ前進ス

間隔ヲ開キ(縮メ)終リタルトキ「眞直ニ」ノ號令ヲ下ス行進ハソレニ依リ常歩ニテ行フ

第一百二十 又銃ハ二列隊形ニ在リテ爲ス

「又メ銃」ノ號令ニテ前列ハ廻ハレ左ヲ爲シ然ル後前、後列二組ガ右翼ヨリ始メテ又銃ス
輕機關銃ハ又銃ニ寄セ掛ク

又銃終レバ前、後列共ニ正面ヲ向キテ整列ス即チ第一列ハ又銃線ノ一步前ニ、第二列ハ一步後方ニ整列ス

第一百二十一 又銃ヲ解カシムルニハ「分隊 銃ニ就ケ」ノ號令ヲ下シタル後「分隊 解ケ銃」ノ號令ヲ下ス

第一ノ號令ニテ第一列ハ又銃線ノ一步前ニ、第二列ハ正面ニ向ヒテ又銃線ノ一步後方ニ整列ス

第二ノ號令ニテ第一列ハ廻ハレ左ヲ爲シ第二列ト共ニ又銃ヲ解ク其ノ後第一列ハ廻ハレ左ヲ爲シ第二列ハ一定ノ距離ニ第一列ニ縮ム

第一百二十二 銃ハ「銃ヲ置ケ」ノ號令ニテ地面ニ置ク第一列ハ二步前進シ前、後列共ニ同時ニ左足ヲ一步踏出シ各兵ハ楨桿ヲ下ニ床尾ヲ足許ニ向ク如ク地面ニ置キ起上ルト共ニ左足ヲ右足ニ揃フ

一列横隊ニテハ最後ノ二動作ノミ行フ

第一百二十三 上官ヲ迎フルニハ分隊長ハ整列セル分隊ノ二步前方ニ立チ上官ガ二十五乃至二十歩ノ距離ニ近ヅキタルトキ分隊長ハ「分隊 氣ヲ著ケ右(左)へ整頓」ノ號令ヲ下ス
號令ヲ下シタル後分隊長ハ第六十三ニ示セル所ニ從ヒ上官ニ近ヅキ報告ス(例ヘバ)

「上級中尉殿、何々分隊ハ何々中デアリマス分隊長何某」

報告ヲ終リテ分隊長ハ再ビ舉手ノ禮ヲ爲シ一側ニ轉シ同時ニ右（左）ニ轉回シ上官ヲ先ニシ分隊ノ列ニ沿ヒテ隨行ス

分隊長ハ「休メ」ノ號令ニテ手ヲ下ロス

分隊ノ各兵ハ分隊長ノ號令ニテ氣ヲ著ケノ姿勢ヲ取り頭ヲ整列スル方向ヘ向ケ上官ノ分隊閱兵ニ際シテハ氣ヲ著ケノ姿勢ノ儘上官ニ注目シ目送ス

上官ノ敬禮及感謝ノ意表明等ニ對シテハ聲ヲ大キク明瞭ニ正シク答フ上官ヲ迎フル際分隊長ガ銃ヲ所持シアルトキハ分隊長ハ舉手ノ禮ヲ行ハズ氣ヲ著ケノ姿勢ヲ取り以下前項ニ準ズ

第二百二十四 行進間ノ敬禮ニ於テハ分隊長ハ「氣ヲ著ケ右（左）へ整頓」ノ號令ヲ下ス

此ノ號令ニテ分隊長ハ第六十一ニ示セルガ如ク上官ニ敬禮シツツ行進ヲ續ク分隊長ハ上官ノ側ヲ通過スル際行進ヲ爲シツツ（例ヘバ）

「大尉殿、第二狙撃中隊第一小隊第一分隊ハ射撃場ヘ參リマス分隊長イワーノフ」ト報告ス

第二百二十五 上官ガ隊列中ノ兵ヲ呼ブトキハ兵ハ駈歩ニテ上官ヨリ三步ノ距離ニ進止シ「オ呼び

ニヨリ參リマシタ」ト報告ス列中ニ歸ルベキ許可ヲ得ルヤ兵ハ廻ハレ左ヲ爲シ駈歩ニテ列中ニ入り正面ヲ向ク

列ヨリ出ヅルニハ前方ニノミ出ヅ

二列隊形ニ在リテ呼バレシ兵ガ第二列ニ在リタルトキハ其ノ兵ハ出ヅル爲ニ片手ニテ前列兵ノ肩ヲ輕ク打ツ

前列兵ハ一步前進シ列ヨリ出ヅル兵ヲ通シタル後自己ノ位置ニ復ス

後列兵ガ列中ニ歸ルトキハ前列兵ハ同様ノ動作ヲ爲ス

第二百二十六 「休メ」、「氣ヲ著ケ」、「止レ」及敬禮ノ爲ノ號令ハ各個教練ノ場合ト同様ナルモ豫メ分隊ノ語ヲ附ス

分隊ヲ解散セシムルニハ「分隊 解散」ノ號令ヲ下ス

縦 隊

第二百二十七 分隊ノ縦隊 一列縦隊及二列縦隊

隊形ヲ作ラシムルニハ「分隊 一列(二列)縦隊ニ 集レ」ノ號令ヲ下ス
此ノ號令ニテ分隊長ハ行進スル方向ニ向ヒテ立チ兵ハ第三十五、第三十六圖ニ示シタル位置ニ
整頓ス

第二百二十八 一列縦隊ヨリ二列縦隊ノ分隊ヲ作り又其ノ反對ハ行進間ニノミ行フ

「分隊二列縦隊 作レ」ノ號令ニテ一列縦隊ヨリ二列縦隊ヲ作ルニハ停止スルコトナク行進速
度ニ合ハセテ第三十七圖ニ示シタル位置ヲ占メ定メラレタル距離、間隔ヲ取ル

「分隊一列縦隊 作レ」ノ號令ニテ二列縦隊ヨリ一列縦隊ヲ作ルニハ兵ハ停止スルコトナク行
進速度ニ合ハセテ第三十五圖ニ示シタル位置ヲ占メ定メラレタル距離、間隔ヲ取ル

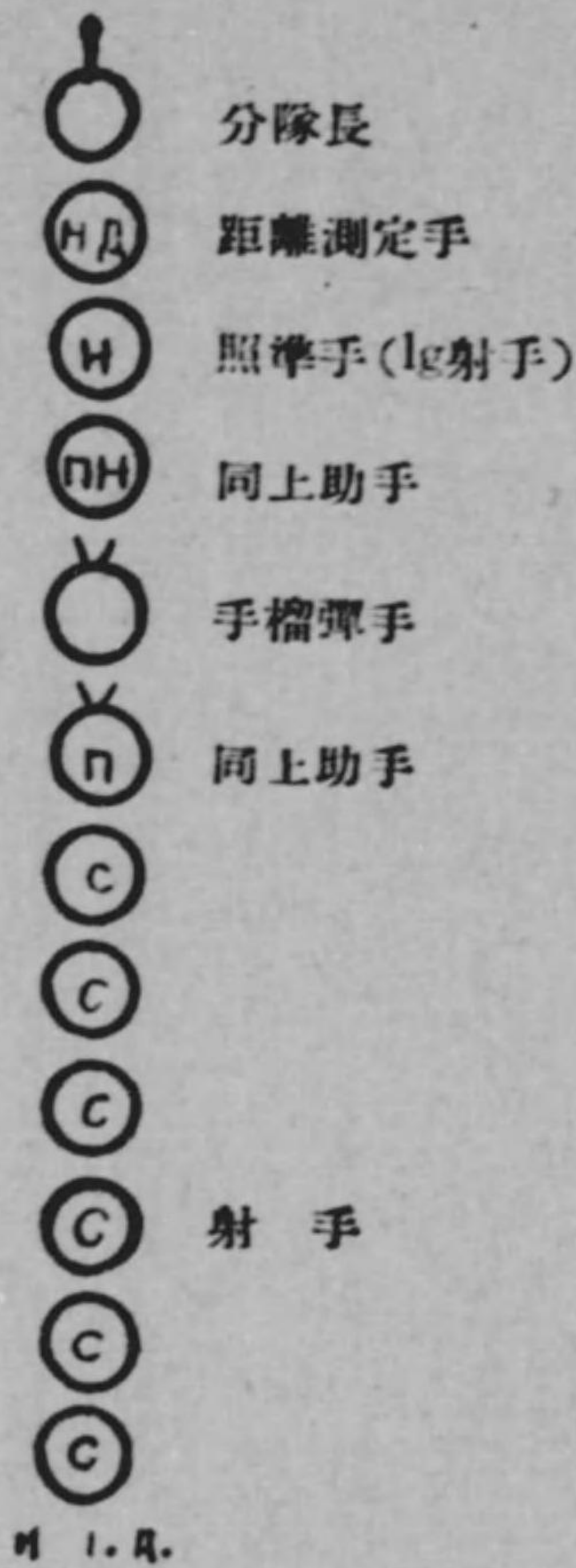
第二百二十九 縦隊ノ行進方向ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

(イ)「分隊右(左)肩ヲ前ニ 進メ」 先頭ノ兵(伍)ハ「眞直ニ」ノ號令アル迄左(右)ハ
進ミ他ノ兵ハ續ク

(ロ)「分隊予ニ續キ 進メ」(駢步 進メ) 分隊長ハ分隊長ニ續ク

(ハ)「分隊廻ハレ左 進メ」 分隊ノ全員ハ各個教練ノ規則ニ從ヒ同時ニ轉回ス

第三十五圖 分隊ノ一列縦隊



步調止メノ必要アルトキハ
「步調止メ」ノ號令ヲ下ス

分 散 隊 形

第三百十 分隊ノ分散 隊形

散兵及蛇行隊形

行軍縦隊ヨリ散兵ニ分隊ヲ

散開セシムルニハ「分隊口

標何々左(右)ニ 開ケ」

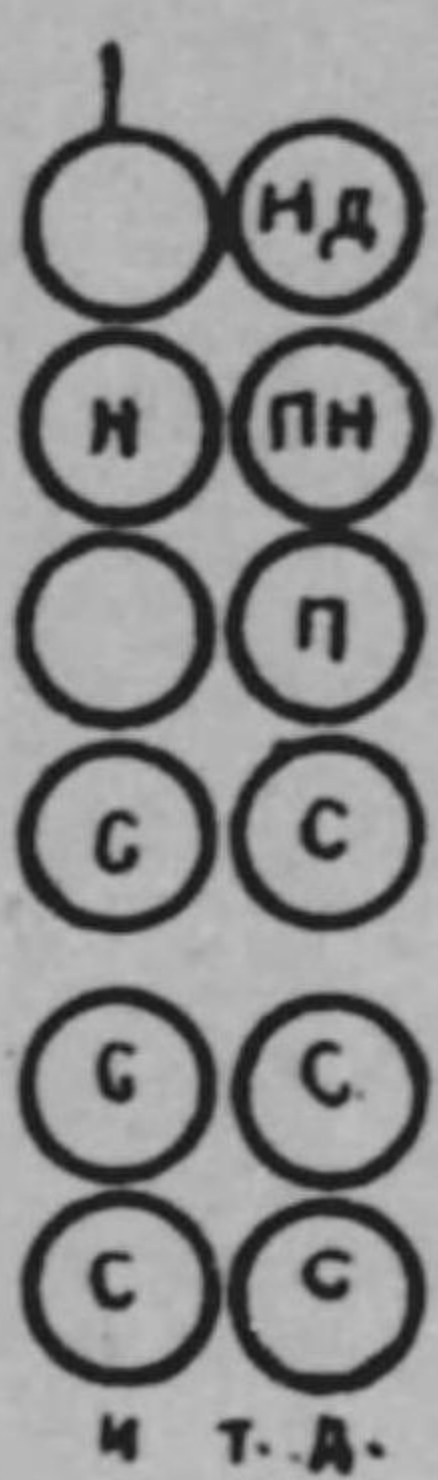
ノ號令ヲ下ス此ノ號令ニテ

分隊ハ停止スルコトナク左

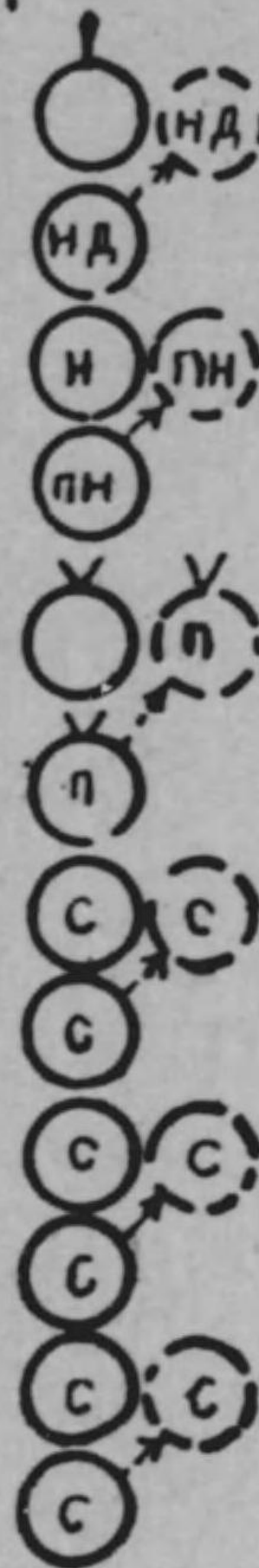
(右)ニ開ク兵相互ノ間隔

ハ三米又ハ分隊長ノ示シタ

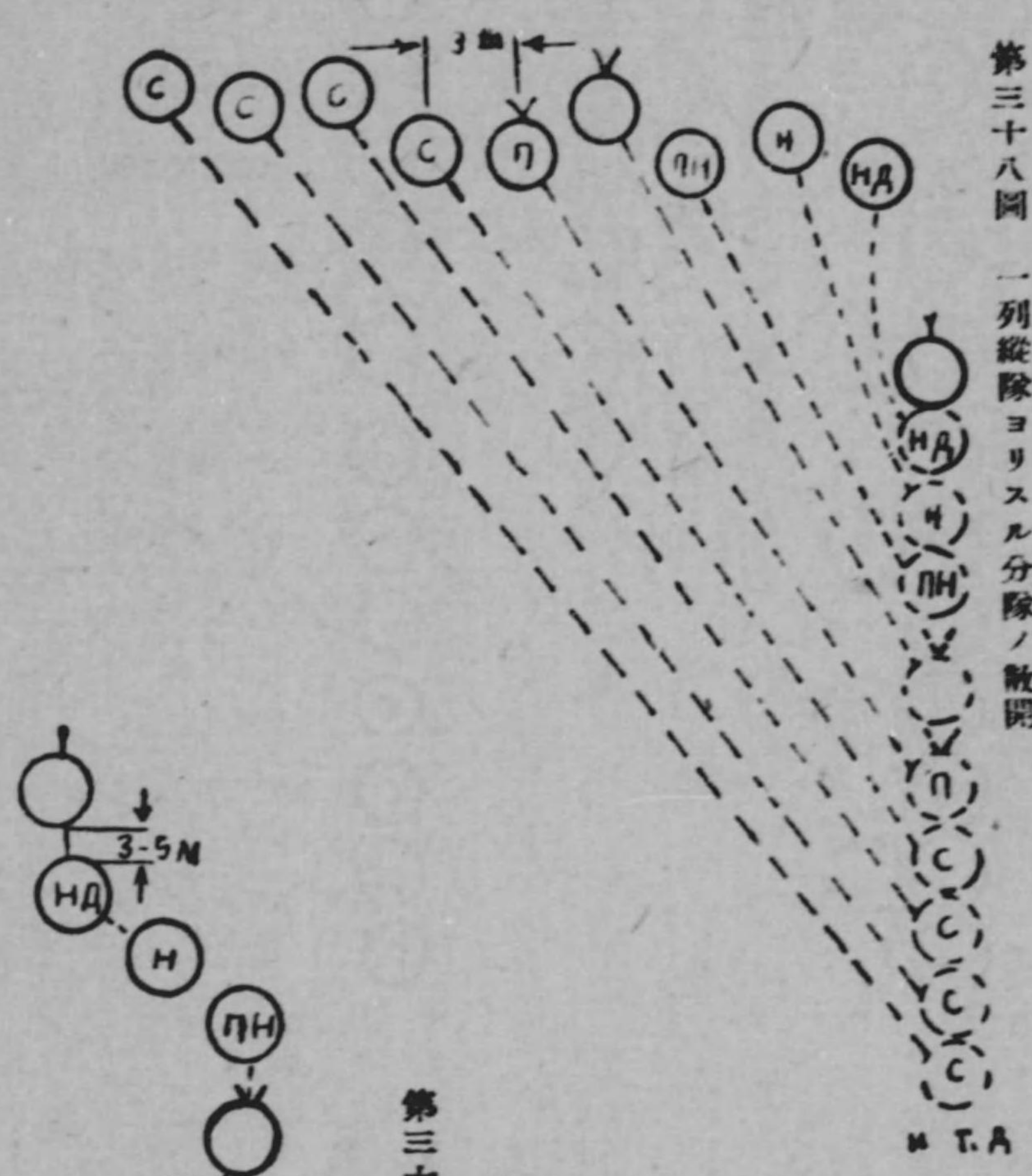
第三十六圖 分隊ノ二列縦隊



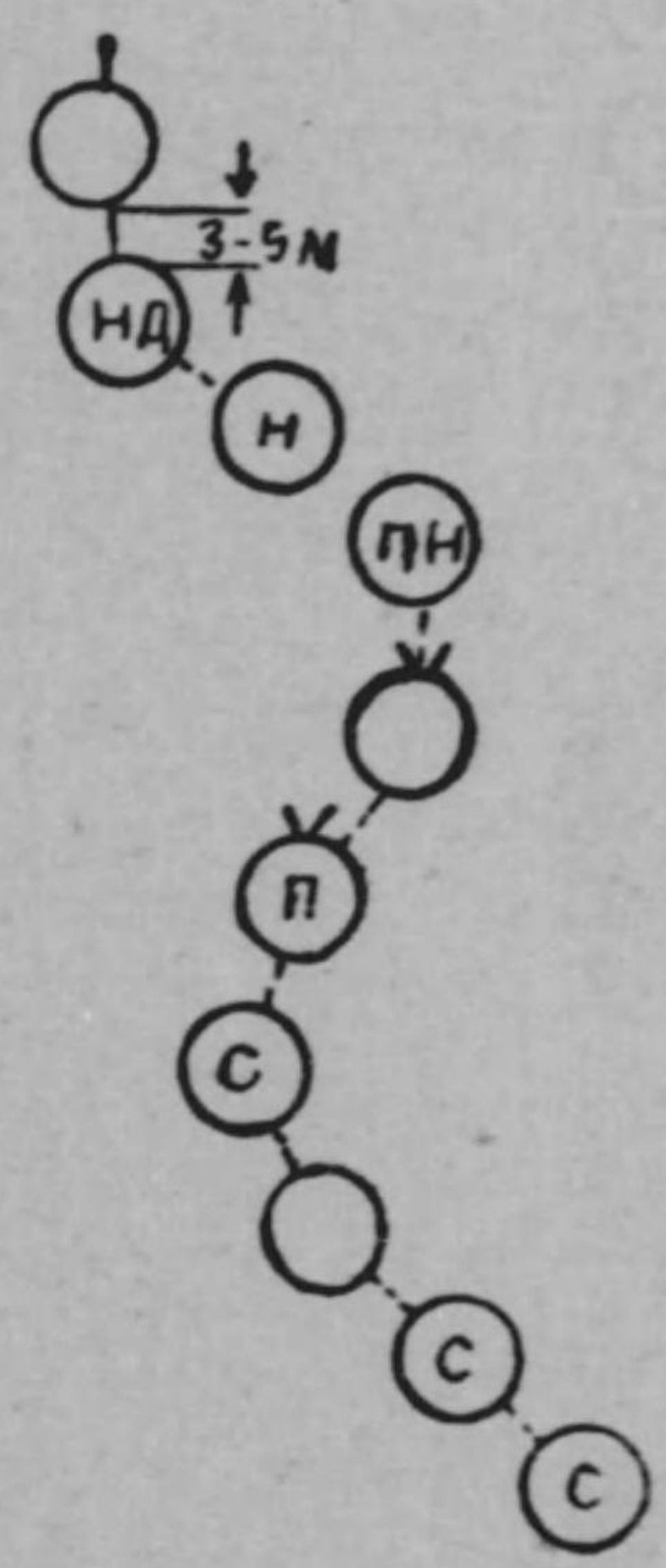
第三十七圖 分隊ノ二列縦隊ノ作り方



第三十八圖 一列縱隊ヨリスル分隊ノ散開



第三十九圖 狙撃分隊ノ蛇行隊形



ル間隔トス

分隊長ハ指揮ニ便ナル位置ニ在ルヲ要ス (第三十八圖)

第三百三十一 分隊ガ散開シテ停止セルトキハ兵ハ地形ニ應ジテ伏臥ス

第三百三十二 散開セル隊形ヲ再ビ前進セシムルニハ「分隊目標何々 前進」又ハ「分隊、溝ノ右

(左、真直、獨立樹木)ヘ何々ノ順序ニ 前進」ノ號令ヲ下ス

第三百三十三 散開セル分隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ「敵ハ右(左、後方、獨立樹木ノ方向)ヨリ

現ル」ノ號令ヲ下ス分隊ノ兵ハ示サレタル新目標ニ向ヒ散兵線ヲ構成ス

第三百三十四 分隊ヲ縱隊ヨリ蛇行隊形ニ移ラシムルニハ「予ニ續キ間隔三米(例へバ) 蛇行隊

形ニナレ」ノ號令ヲ下ス分隊ハ第三十九圖ニ示シタル隊形ヲ取ル

第三百三十五 散兵ヨリ蛇行隊形(一列)ニ移ラシムルニハ「分隊右(左)ヨリ蛇行隊形 作レ」

ノ號令ヲ下ス分隊ハ行進シツツ新隊形ヲ取ル

散兵伏臥ヲ爲シアラバ分隊ハ速カニ起チ常歩ニテ示サレタル方向ニ前進シツツ新隊形ヲ取ル

第三百三十六 騎兵ノ急襲ヲ攻撃スルニハ「前方(後方、右、左)ヨリ騎兵現ル 攻撃」ノ號令ヲ

下ス

(イ) 前方ヨリ現レタルトキ 分隊ハ駈歩ニテ左ニ散開ス

(ロ) 後方ヨリ現レタルトキ 分隊ハ轉回シ駈歩ニテ右ニ散開ス

(ハ) 右(左)ヨリ現レタルトキ 分隊ハ右(左)へ轉回シ攻撃準備ヲ爲ス

第三百三十七 戰車ノ急襲ヲ攻撃スルニハ「前方(右、左、後方)ヨリ戰車現ル何々ヲ掩體トシ

テ 攻撃」ノ號令ヲ下ス分隊ハ駈歩ニテ示サレタル掩體ニ據リ攻撃準備ヲ爲ス

第三百三十八 空襲(又ハ空襲警報ノ合圖)アリタルトキハ分隊ハ狀況ニ應ジテ散開ス

第三百三十九 分隊ノ集合ハ「分隊 集レ」ノ號令(合圖)ニテ行フ

兵ハ此ノ號令ニテ駈歩ニテ分隊長ノ許へ集合ス

スキーク分隊隊形

第四百十 スキーク分隊ハ停止間ニ配置サレ前諸項ニ準ジ隊形ノ儘行動ス但シ各兵ノ距離ハ六歩、
間隔ハ二步トス

「集レ」ノ號令ノ代リニ「スキーク著ケ 集レ」ノ號令ヲ下ス

第四百十一 「準へ」ノ號令ニテ基準兵ハ「杖」ヲ前ニシ肘ヲ横腹ニ著ケ手ニテ持ツ他ノ兵ハ
杖ノ上端ヲ肩ニ著ケテ準フ

第四篇 狙撃小隊

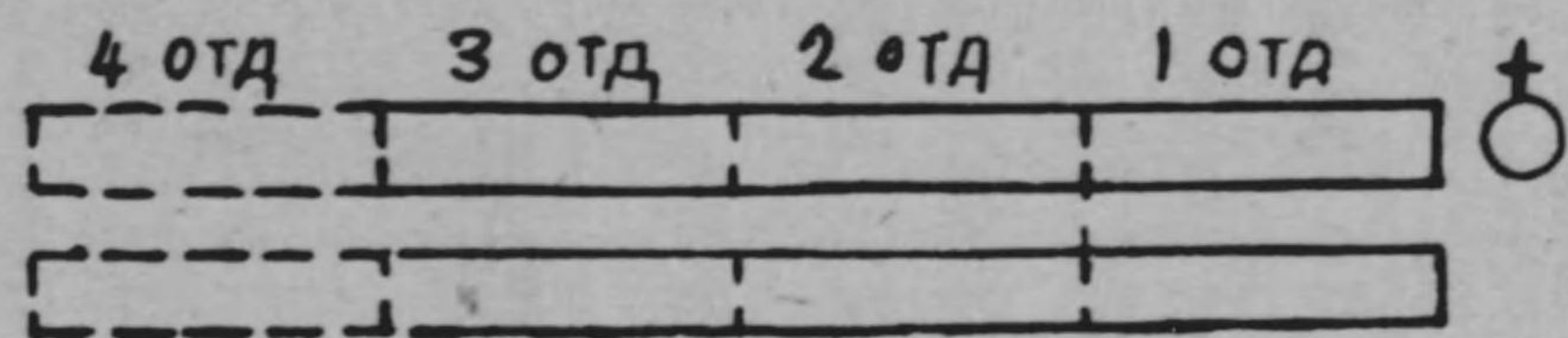
横 隊

第四百十二 小隊ノ横隊 二列隊形

小隊ヲ作ラシムルニハ「小隊 集レ」ノ號令ヲ下ス

號令ヲ下シツツ小隊長ハ氣ヲ著ケノ姿勢ヲ取り隊形ノ方向ヲ示シ左手ヲ横ニ伸バス分隊ハ其ノ
番號順ニ第四十圖ニ示セル如ク二列横隊ニ小隊長ノ左方ニ整列ス

第四百十三 小隊ノ整頓、轉回、間隔ノ開閉、行進、方向變換、停止、銃ノ取扱、又銃ハ狙撃分
隊ノ場合ト同様ノ號令ニテ行フ但シ號令中「分隊」ノ語ヲ「小隊」ニ換フ



隊小ノ隊横列二 圖十四第

第四百四十四 上官ヲ迎フルニハ分隊ノ場合ニ示シタル所ニ據ル各分隊ハ隊列中定位ニ位置ス

第四百四十五 小隊ノ二伍隊形及一伍隊形ハ各分隊ニ一、二ノ番號ヲカケシメル後ニ作ル停止間ニ於ケル小隊ノ二伍隊形ハ「二伍作レ」ノ號令ニテ三舉動ニテ行フ

(イ) 第一列ヲ正面トスル隊形ニ在リテハ第百十八ニ據ル但シ後列ノ奇數ハ第一、第二舉動ト共ニ半歩後方ヘ下ガル

(ロ) 右向ヲ爲ストキハ偶數ハ右側ニ一歩進ミ奇數ト列ビ第三舉動ニテ右足ヲ揃フ後列ノ奇數ハ第一、第二舉動ト共ニ半歩右ニ

寄ル

第四百四十六 伍數ガ八ニ足ラザル小隊ハ二伍隊形ヲ作ラズ

第四百四十七 小隊ノ二伍隊形ヲ停止間一伍隊形ニ爲スニハ「一伍隊形 作レ」ノ號令ニテ三舉動ニテ行フ偶數ハ二伍隊形ヲ作リタル

トキノ反對ニ移動シテ自己ノ位置ニ入ル後列ノ奇數ハ第二、第三舉動ト共ニ第一列ニ準フ
第四百四十八 行進間ニ在リテハ停止間ノ動作ニ準ジ行フ但シ半歩後退、半歩右ヘ移動或ハ停止ヲ命ゼラレタル兵ハ其ノ場ニテ二歩足踏ス

縦 隊

第四百四十九 小隊ノ縦隊 四列(三列)縦隊、二列縦隊及一列縦隊

小隊ノ四列(三列)縦隊ハ「小隊四列(三列)ニ 集レ」ノ號令ニテ行フ各分隊ハ一列ニ右ヨリ左ニ番號順ニ整列シ小隊長ノ後方一米ノ所ニ縦隊ノ先頭ガ一線ニナル如クニ列ブ(第四十一、第四十二圖)

第四百五十 行進間四列(三列)ヨリスル小隊ノ一列縦隊ハ「一列小隊 作レ」ノ號令ニテ第一分隊ハ真直ニ行進ヲ續ケ他ノ分隊ハ半歩ヅツ前進シツツ逐次番號順ニ後ニ入り而シテ第一分隊ニ續ク(第四十三圖)

此ノ反對ハ「小隊四列(三列) 作レ」ノ號令ニテ先頭分隊ハ半歩ヅツ前進シ他ノ分隊ハ左方

ニ分隊番號順ニ先頭分隊ノ線ニ出ヅ

第百五十一 二列縦隊ハ左ノ如ク行フ

「小隊 右(左)へ向ケ」ノ號令ニテ横隊ノ小隊ヲ一方ノ翼ニ向カシム「小隊 二列縦隊ニ集レ」ノ號令ニ依ル(第四十四圖)

一列縦隊ヨリ行フニハ「小隊 二列縦隊 作レ」ノ號令ニ依リ各分隊ハ二列縦隊ニナリ先頭分隊ニ整頓ス

第百五十二

行進間ノ轉回、行軍縦隊ノ方向變換ハ分隊ノ縦隊ニ就キ示セル所ニ依リ行フ但シ號令中「分隊」ノ語ヲ「小隊」ニ換フ

第百五十三

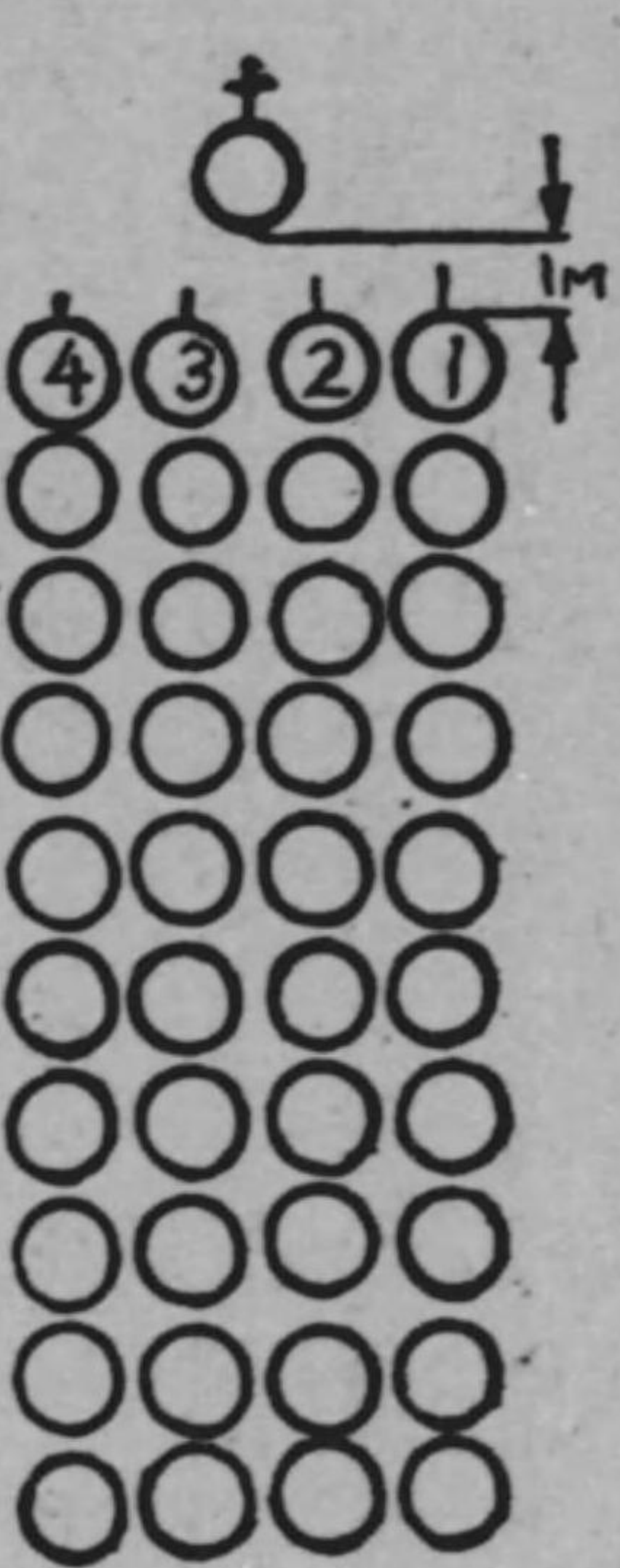
行軍縦隊間騎兵ノ急襲ヲ攻撃スルニハ「前方(後方、右、左)ヨリ騎兵現ル 攻撃」ノ號令ヲ下ス

(イ) 前方ヨリ現レタル騎兵 第二分隊ハ其ノ場ニ散開シ第一分隊ハ第二分隊ノ右方ニ第三分隊

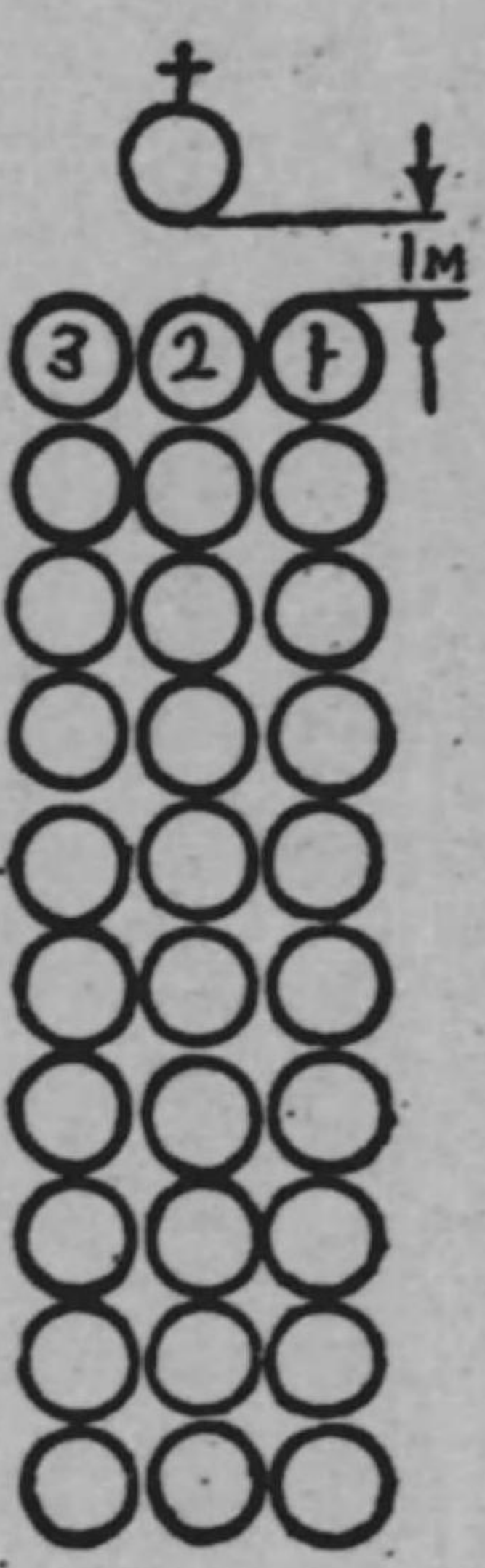
ハ第二分隊ノ左方ニ出ヅ第四分隊ハ第二分隊ノ後方一步ニ位置ス

(ロ) 後方ヨリ現レタル騎兵 小隊ハ轉回シ同様ノ順序ニ散開ス但シ第一分隊ハ左ニ、第三分隊

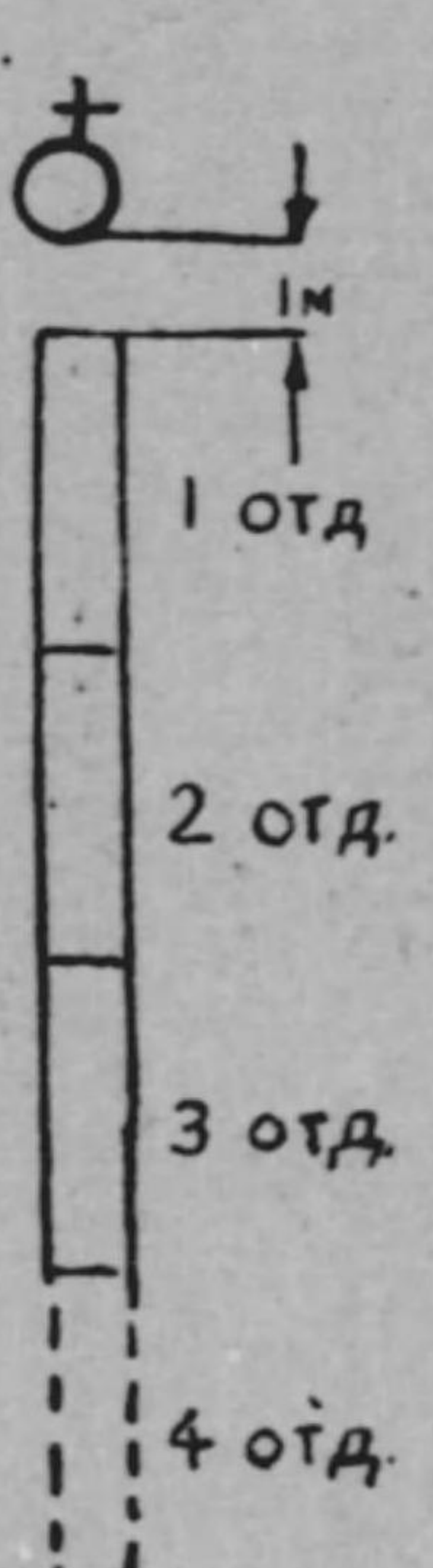
第四十一圖 四列縦隊ノ小隊



第四十二圖 三列縦隊ノ小隊



第四十三圖 一列縦隊ノ小隊



第四篇 狙撃小隊

ハ右ニ出ヅ

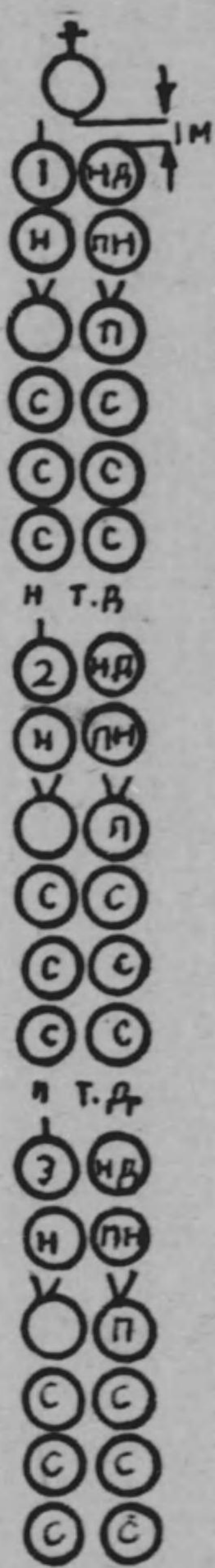
(ハ) 右方ヨリ現レタル騎兵 小隊ハ右ニ方向ヲ換

ヘ第一分隊ハ其ノ場ニ位置シ第二分隊ハ第一分隊ノ右、第三分隊ハ第一分

隊ノ左ニ出ヅ第四分隊ハ第一分隊ノ後方一步ニ位置ス

(ニ) 左方ヨリ現レタル騎兵 小隊ハ左ニ方向ヲ換フ

三列縦隊ノトキハ第三分



隊ハ其ノ場ニ位置シ第二分隊ハ左ニ、第一分隊ハ右ニ出ヅ

四列縦隊ノトキハ第四分隊ハ其ノ場ニ位置シ第三分隊ハ第四分隊ノ右ニ、第二分隊ハ第四分隊ノ左ニ出ヅ第一分隊ハ第四分隊ノ後方一步ニ位置ス

(ホ) 正面及左右ヨリ現レタル騎兵 三列縦隊ノトキハ第一分隊ハ右向ヲ爲シ第三分隊ハ左向ヲ爲シ第二分隊ハ其ノ位置ニ於テ正面ニ散開ス

四列縦隊ノトキハ第一分隊ハ右ニ方向ヲ換ヘ第四分隊ハ左ニ方向ヲ換ヘ第二分隊ハ其ノ位置ニ於テ正面ニ散開シ第三分隊ハ小隊長ノ命スル所ニ依リ任意ノ分隊ノ後方ニ位置ス 各分隊ハ常ニ駈歩ニテ散開シ狀況ニ應ジ伏臥、折敷又ハ立チタル儘速カニ攻撃準備ヲ爲ス經

機關銃手ハ常ニ伏臥ヲ爲ス

第一百五十四 戰車ノ急襲ヲ攻撃スルニハ「前方(後方、右、左)ヨリ戰車現ル 何々ヲ掩體トシテ 攻撃」ノ號令ヲ下ス各分隊ハ駈歩ニテ掩體ニ就キ攻撃準備ヲ爲ス

第一百五十五 飛行機ノ空襲(又ハ空襲警報ノ合圖)アリタルトキハ小隊ハ駈歩ニテ狀況ニ應ズル 疎開隊形ヲ取ル(第一百五十六)

疎開隊形

第一百五十六 小隊ノ疎開隊形 分隊ガ一線ニ疎開セル隊形、二線疎開及菱形疎開

三箇分隊ヨリ成ル小隊ハ一線、三角形及逆三角形ニ疎開ス

行軍縦隊ヨリ小隊ヲ疎開セシムルニハ「何分隊基準目標何々一線ニ疎開セル小隊ヲ 作レ」又ハ「何々分隊基準目標何々二線(菱形)疎開小隊ヲ 作レ」ノ號令ヲ下ス基準分隊ハ「予ニ續ケ」ノ分隊長ノ號令ニテ示サレタル方向ニ行進ヲ續行ス他ノ分隊ハ間隔、距離ヲ示サレザルトキハ基準分隊ニ準ジテ間隔五十米、距離七十五米ニ駈歩ニテ出ヅ縦隊又ハ散開シテ前進ヲ續ク

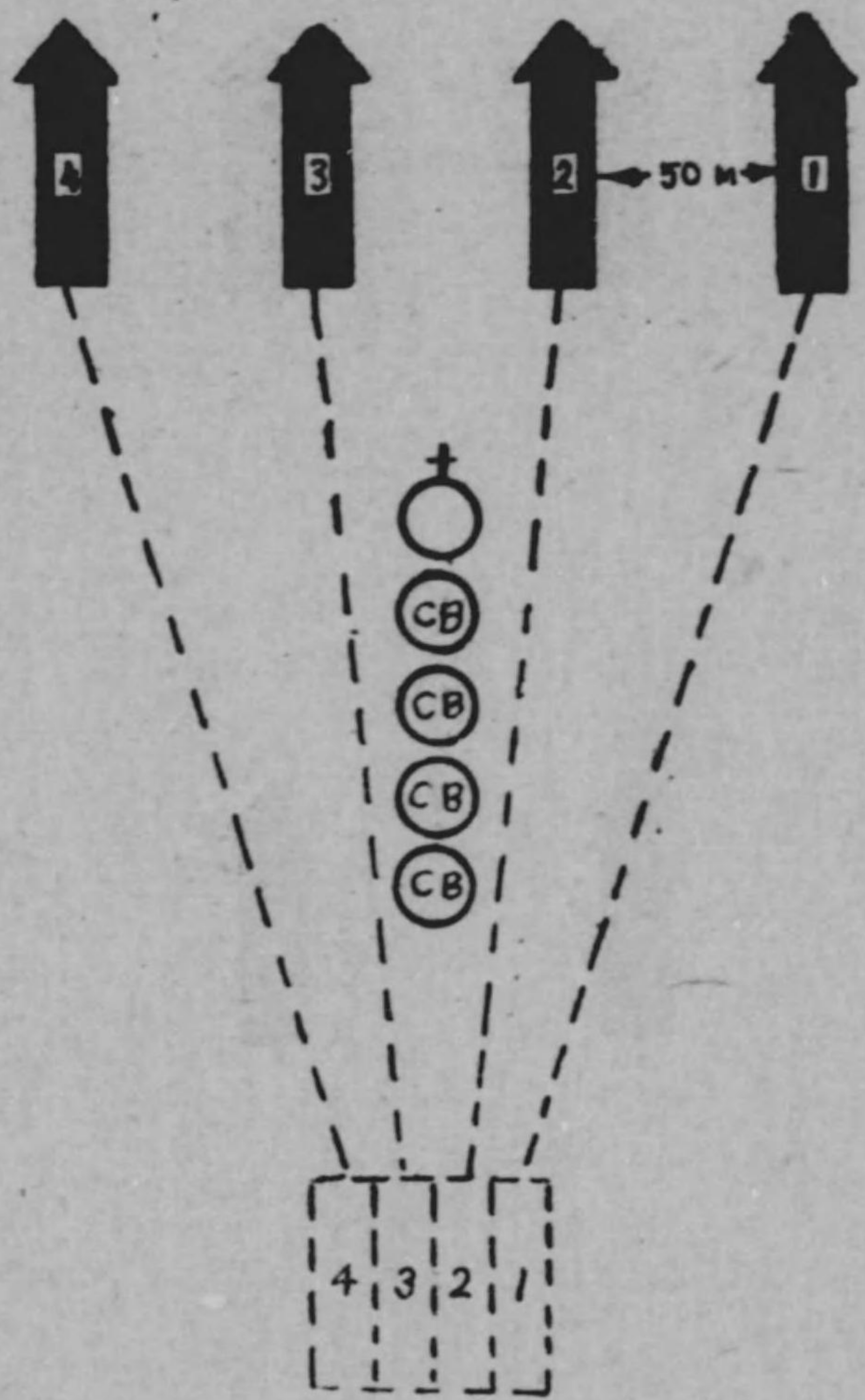
小隊長ハ小隊ヲ指揮スルニ便ナル位置ヲ占ム(第四十五、四十六、四十七、四十八、四十九圖)
 第五百十七 小隊ノ疎開ト共ニ分隊長ハ小隊長ノ許ニ連絡兵一名ヲ出シ小隊長ノ號令、合圖ノ連絡ヲ爲ス

第五百十八 疎開隊形ニ於ケル小隊ノ方向變換ニハ小隊長ハ基準分隊ニ新方向ヲ示シ基準分隊長ハ行進方向ヲ換ヘ他ノ分隊ハ基準分隊ニ準ジテ方向ヲ換フ

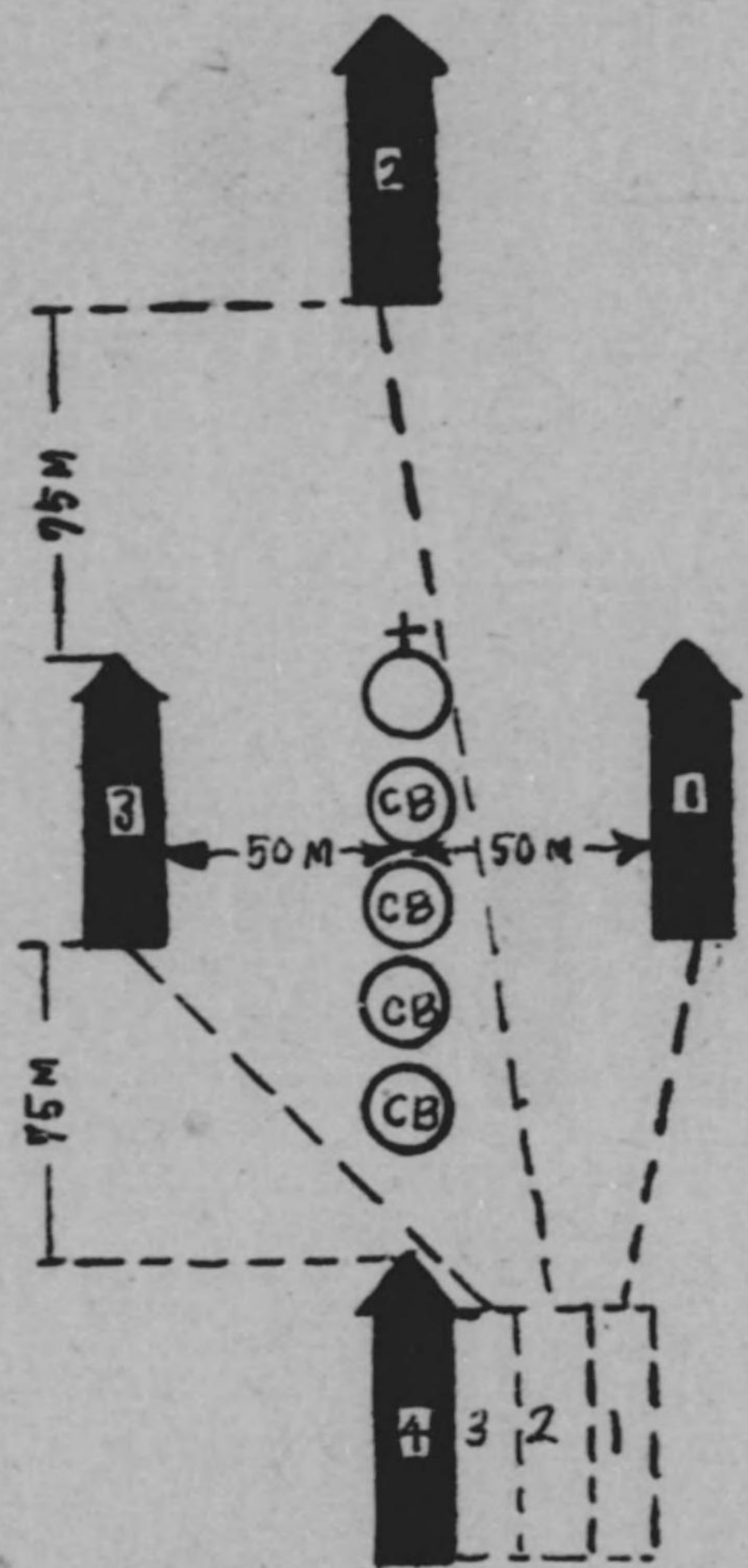
第五百十九 疎開隊形ニ於テハ小隊長ノ「止レ」ノ號令又ハ合圖ニ依リ兵ハ伏臥ヲ爲シ地形ヲ利用ス

第六十 小隊ヲ集合セシムルニハ「小隊 集レ」又ハ「何々分隊基準 集レ」ノ號令(合圖)ヲ下ス

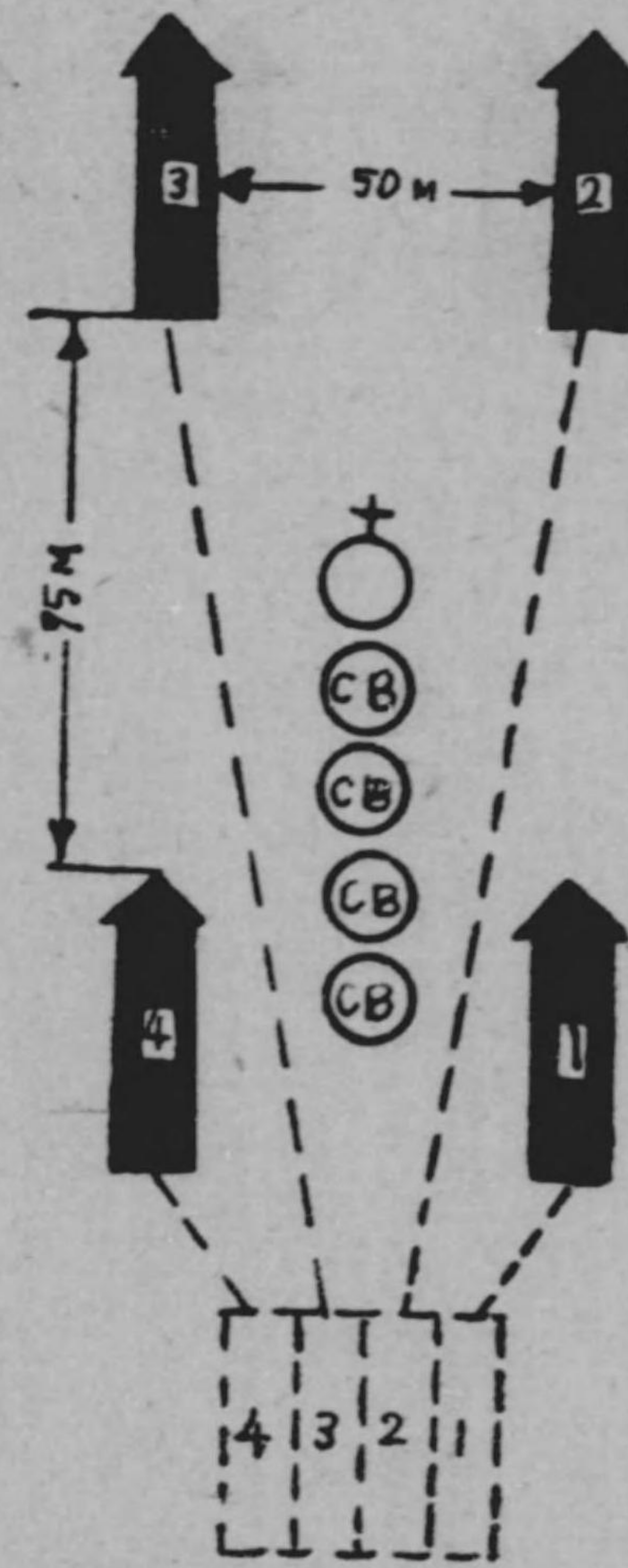
第六十一 敵ノ急襲ニ對スル攻撃ニハ「敵(戰車、騎兵)ハ右(左)ニ現ル 攻撃」ノ號令ニテ分隊ハ敵ノ方向ニ向テ換ヘ攻撃準備ヲ爲ス



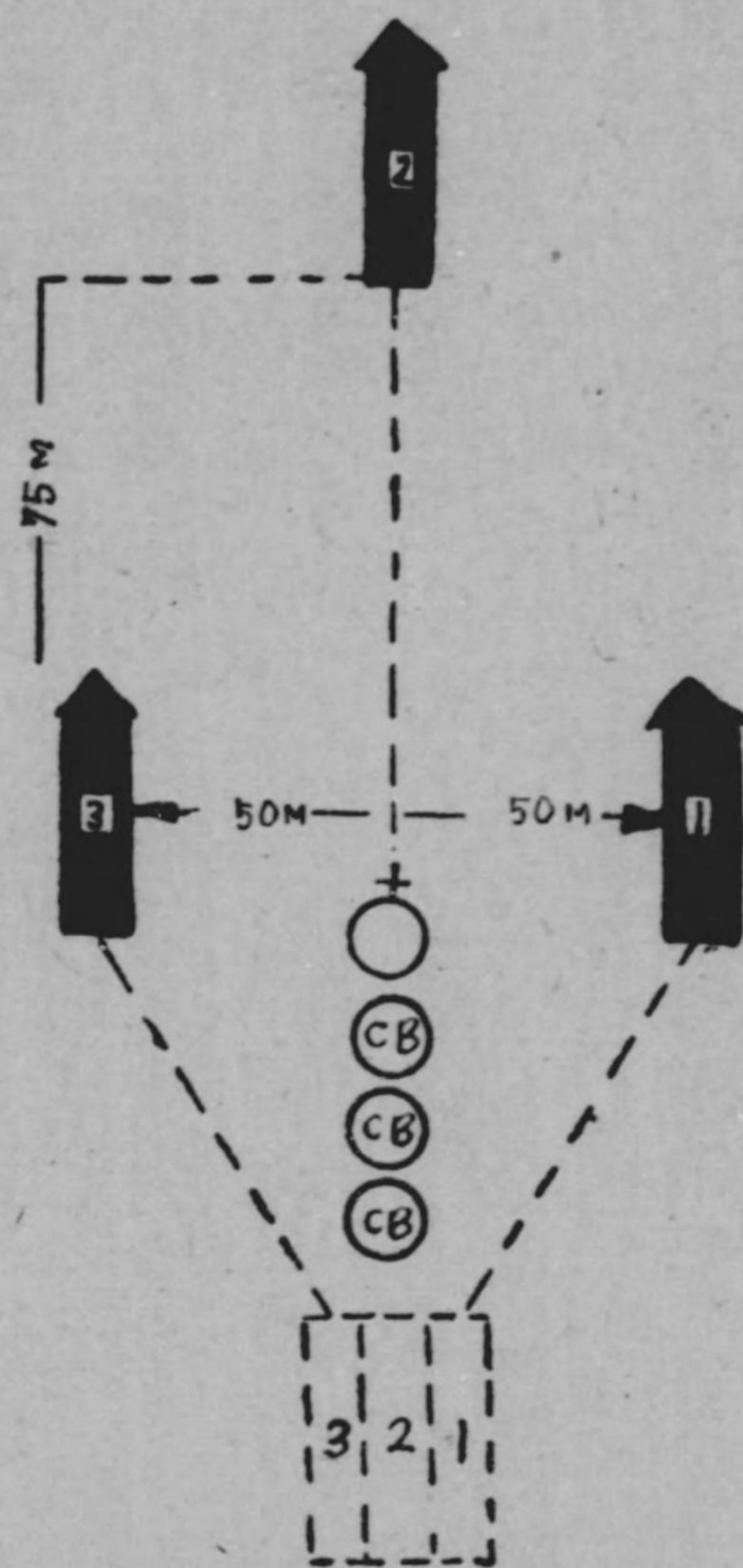
形隊開疎ノ隊小ルセ開疎ニ線一 圖五十四第



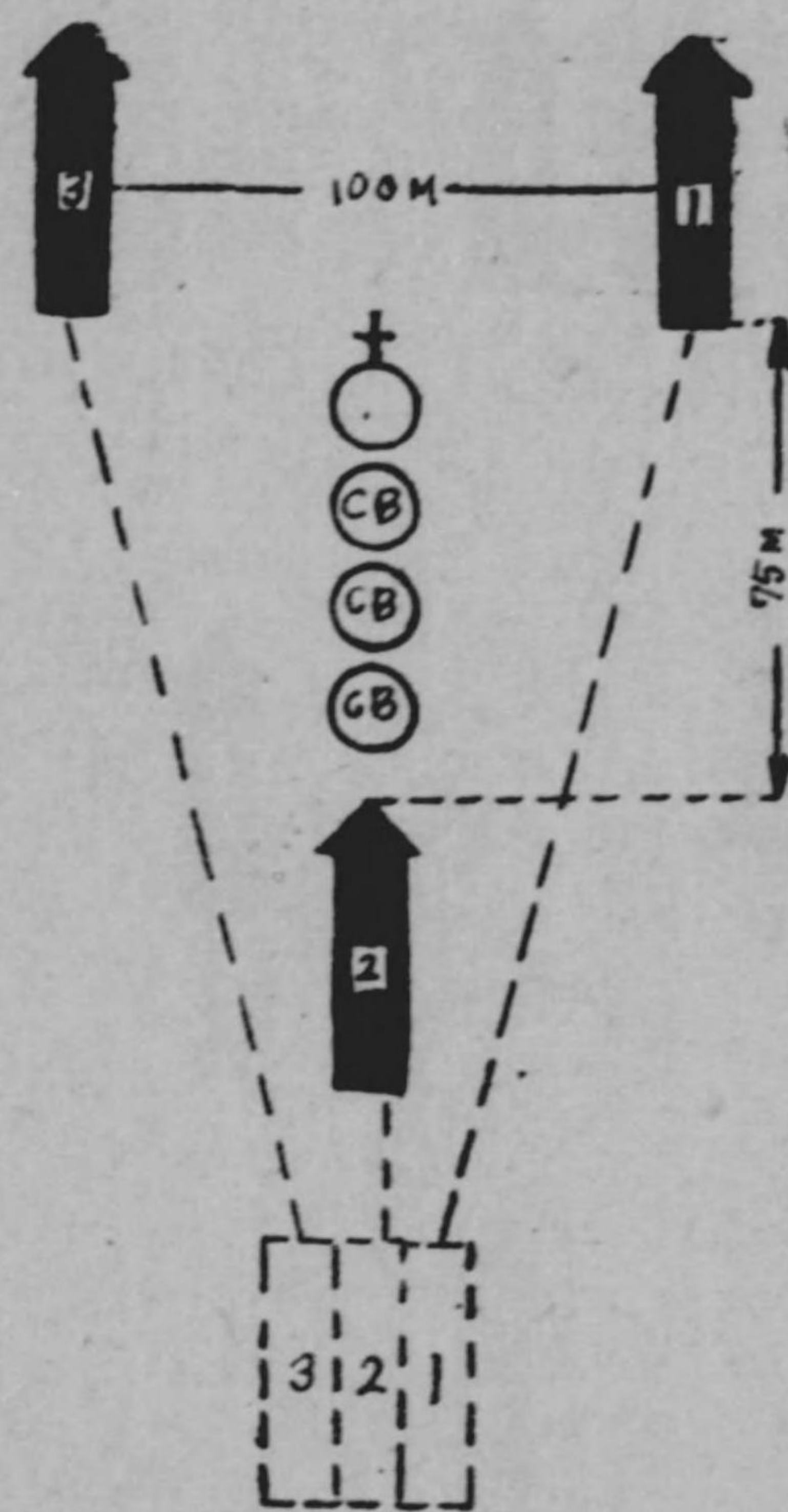
形隊開疎形菱ノ隊小 圖七十四第



形隊開疎線二ノ隊小 圖六十四第



形隊開疎形角三ノ隊小 圖九十四第



形隊開疎形角三進ノ隊小 圖八十四第

第五篇 狙撃中隊

横 隊

第六十二 中隊ノ横隊 二列ニ竝ビタル中隊及併立縦隊

中隊ヲ作ルニハ中隊長ハ「第一、第二、第三」小隊基準中隊二列ニ「集レ」又ハ「第一（第二、

第三）小隊基準、中隊併立縦隊ニ「集レ」ノ號令ヲ下ス號令ヲ下シ中隊長ハ兩手ヲ横ニ伸バシ

中隊ヲ向ケントスル方向ニ向ヒテ立チ然ル後手ヲ下ロシ中隊ノ正面ニ向ク

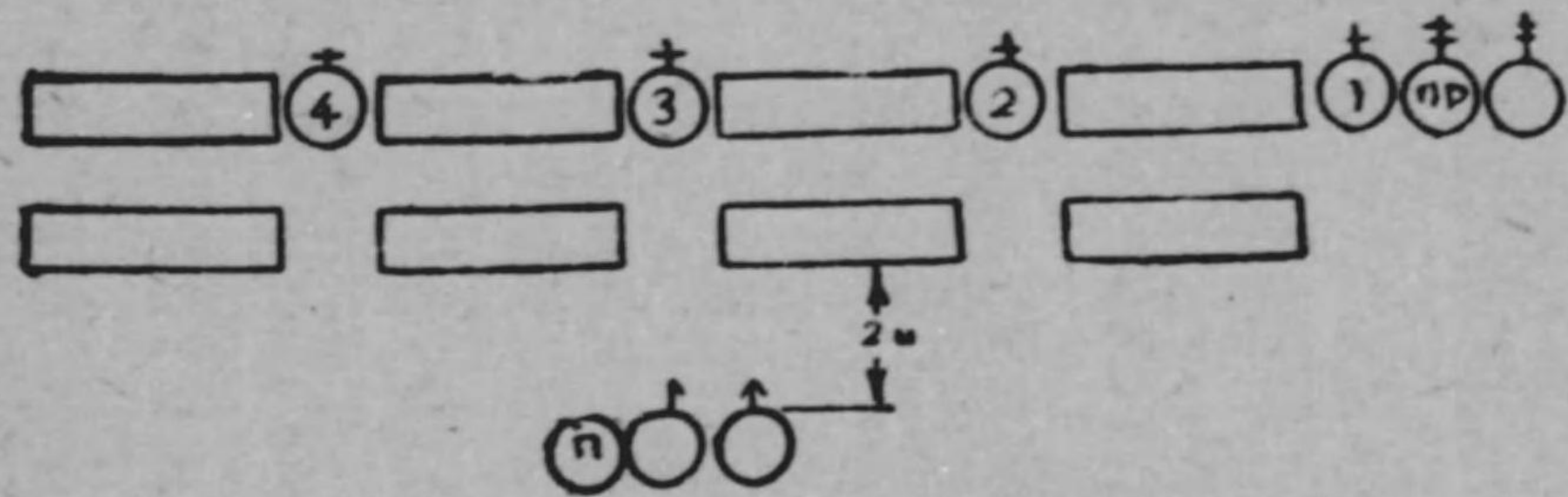
中隊長ノ號令ニテ基準小隊長ハ中隊長ノ一步後ロニ立チ其ノ小隊ハ左方ニ二列横隊（四列縦

隊、三列縦隊）ニ整列シ他ノ小隊ハ此ノ小隊ニ準ジテ小隊番號順ニ整列ス（第五十、五十一圖）

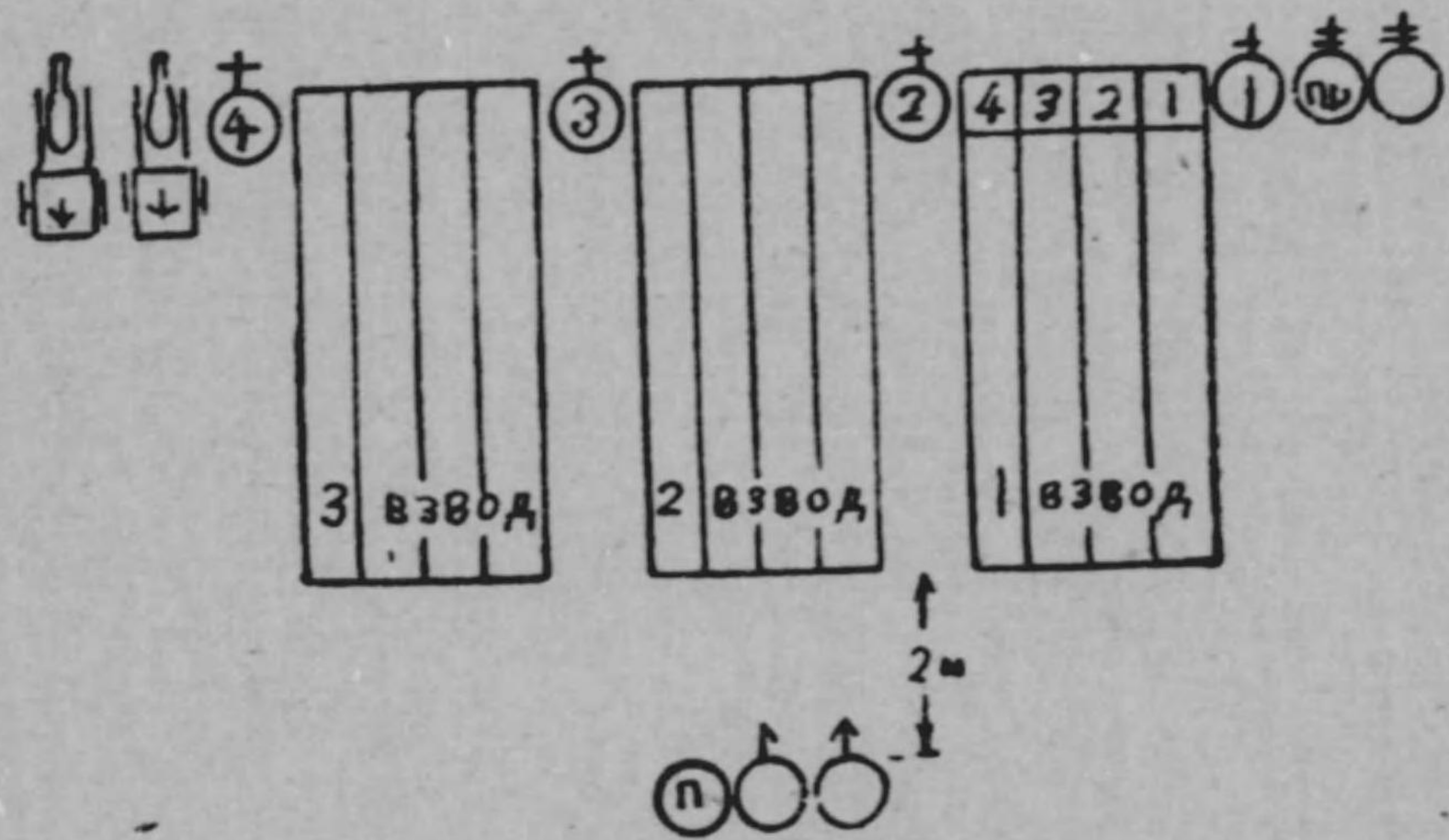
機關銃ヲ携行セザル小隊又ハ輜子ニ載セタル機關銃ヲ有スル二列ノ機關銃小隊ハ第三小隊ノ左

方ニ整列シ四輪車（馱馬）ニ載セタル機關銃ヲ有スル場合ハ第二小隊ノ後方五米ノ位置ニ整列ス

第五篇 狙撃中隊



隊中ノ隊横列二 圖十五第



隊中ノ隊縦立併 圖一十五第



第六十三 中隊ノ整頓ハ分隊及小隊ニ就キ示シタル所ニ依リ行フ

二列隊形ノ中隊ハ中央ニ準ヒ併立縦隊ノ場合ハ右翼ニ準フ

第六十四 轉回、二伍及一伍隊形、方向變換、停止、又銃及上官ニ對スル敬禮ニ關シ小隊ニ示

シタル所ハ中隊ニ適用ス此ノ場合ニ伍隊形ヲ作ラシムルニハ一、二ノ番號ハ「一、二ノ番號ニ示
番號」ノ中隊長ノ號令ニ依リ行フ

縦 隊

第六十五 中隊ノ縦隊 二列、四列(三列)側面縦隊及八列(六列)側面縦隊

「八列」(六列)側面縦隊ハ行軍縦隊ノ縦長ヲ短縮スルニ用フ

中隊ノ二列(四列、三列)行軍縦隊ヲ作ルニハ「中隊二列(四列、三列)ニ集レ」ノ號令ヲ
下ス小隊ハ第五十二、五十三、五十四圖ニ示シタル位置ヲ占ム

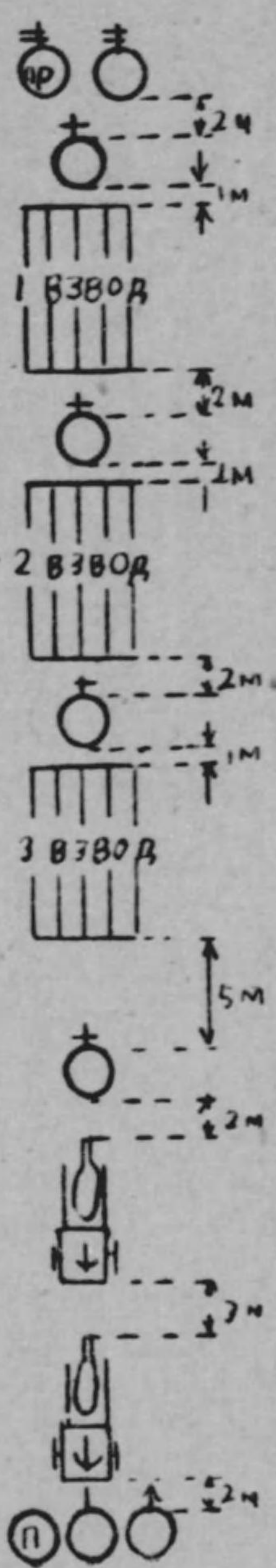
第六十六 二列橫隊ヨリスル中隊ノ二列ノ行軍縦隊ハ其ノ位置ニ於テ中隊ヲ右向セシメテ作ル

第六十七 併立縦隊ヨリスル中隊ノ行軍縦隊ハ「中隊 右(左)ヨリ行軍縦隊ニ前へ進メ」

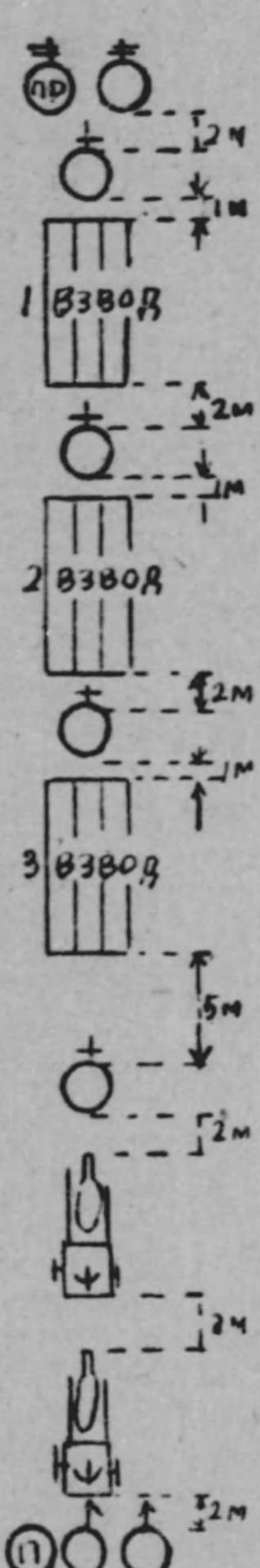
第五十二圖 二列側面縦隊ノ中隊



第五十三圖 四列側面縦隊ノ中隊



第五十四圖 三列側面縦隊ノ中隊



ノ號令ニ依ル

小隊長ハ豫令ニテ自己ノ小隊ノ中央前一米ノ所ニ立チ動令ニテ先頭小隊ハ眞直ニ前進シ他ノ小隊ハ各々小隊長ノ號令ニテ順序ニ先頭小隊ノ後方ニ續ク

第六十八 中隊ノ四列(三列)ノ行軍隊形ヨリスル併立縱隊ハ「先頭小隊基準中隊左(右)ニ作レ 進メ」ノ號令ニテ作ル先頭小隊長ハ自己ノ小隊ヲ停止セシメ他ノ小隊長ハ小隊ヲ半バ左(右)ニ向ケ先頭小隊ノ線ニ導キ停止セシム

各小隊長ハ自己ノ小隊ヲ整頓セシメ其ノ定位ニ就ク

第六十九 中隊ノ四列(三列)側面縱隊ヨリスル八列(六列)側面縱隊ハ「中隊八列(六列)作レ」ノ號令ニテ行フ

豫令ニテ各分隊ハ行進ヲ起シ左ニ一步開キ動令ニテ一列縱隊ニ並ビタル各分隊ハ二列縱隊ヲ作ル機關銃小隊ハ第三小隊ノ後方定距離ニ進ム

「中隊四列(三列)縱隊 作レ」ノ號令ニテ舊ノ隊形ヲ作ルニハ分隊ハ右翼ニ整頓シツツ一列縱隊トナル

第七十 上官ヲ迎フルニハ小隊ノ場合ニ示シタル所ニ據ル小隊長及曹長ハ各々定位ニ在リテ「氣ヲ著ケ」ノ號令ニテ舉手ノ禮ヲ爲ス

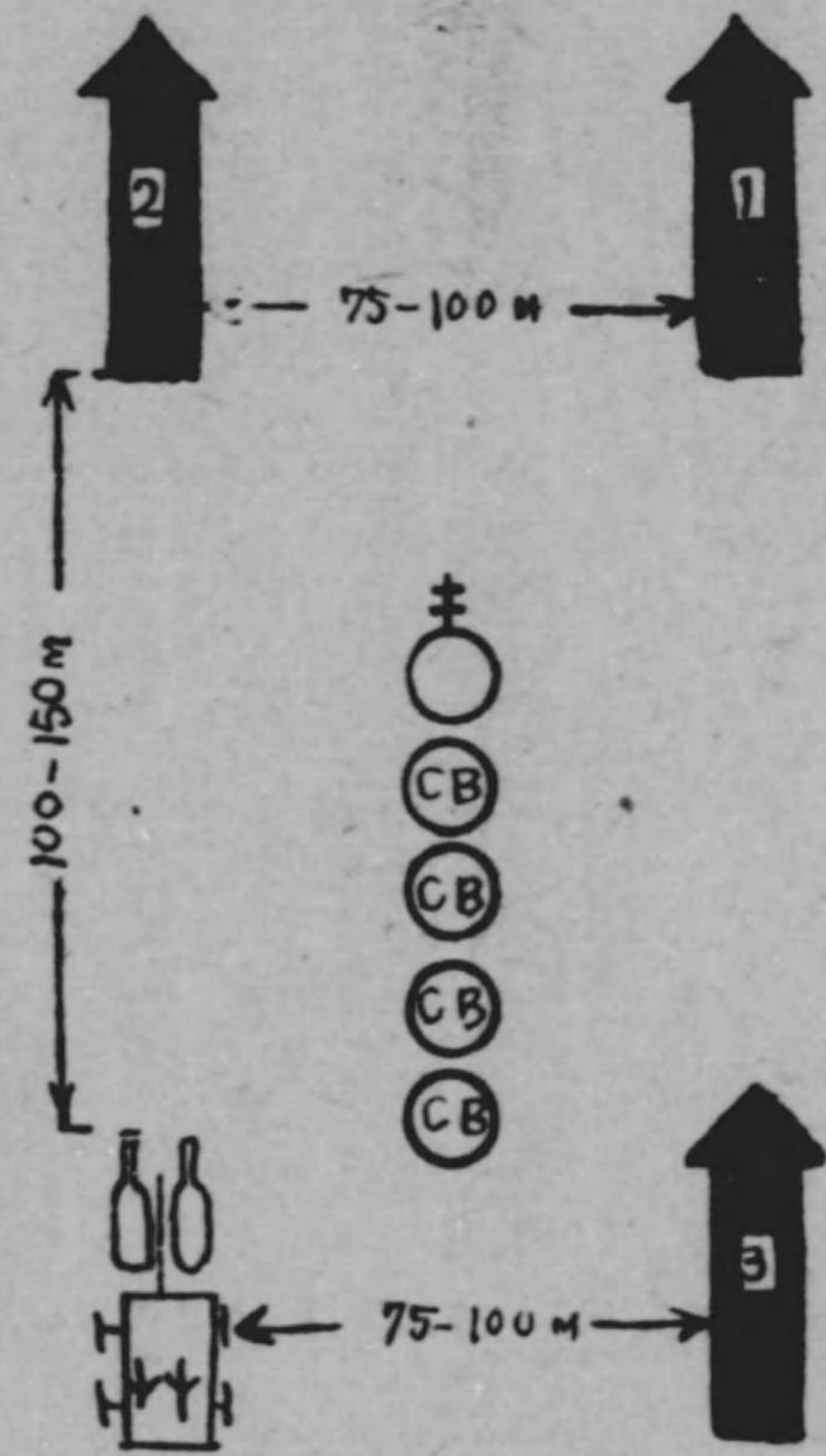
第七十一 行軍縱隊間騎兵ノ急襲ヲ攻撃スルニハ「前方(後方、右、左)ヨル騎兵現ル 攻撃」ノ號令ヲ下ス機關銃小隊ハ其ノ場ニ展開シ先頭狙撃小隊ハ駈歩ニテ右方ニ次ノ小隊ハ機關銃小隊ノ左翼ニ展開ス第三狙撃小隊ハ中隊長ノ命ニ依リ危險性大ナル方向ニ展開ス
後方ヨリ現レタル騎兵 中隊ハ後ロニ轉回シ前項ノ順序ニ展開ス
右方ヨリ現レタル騎兵 中隊ハ右向ヲ爲シ展開ス
左方ヨリ現レタル騎兵 中隊ハ左向ヲ爲シ展開ス

中隊ノ右或ハ左ニ展開スルニ際シ兩翼小隊ハ其ノ外翼ノ方向ニ展開ス

機關銃小隊ハ狀況ニ應ジ四輪車(機關銃搭載二輪車)上ヨリ或ハ直接地上ヨリ射撃ヲ行フ

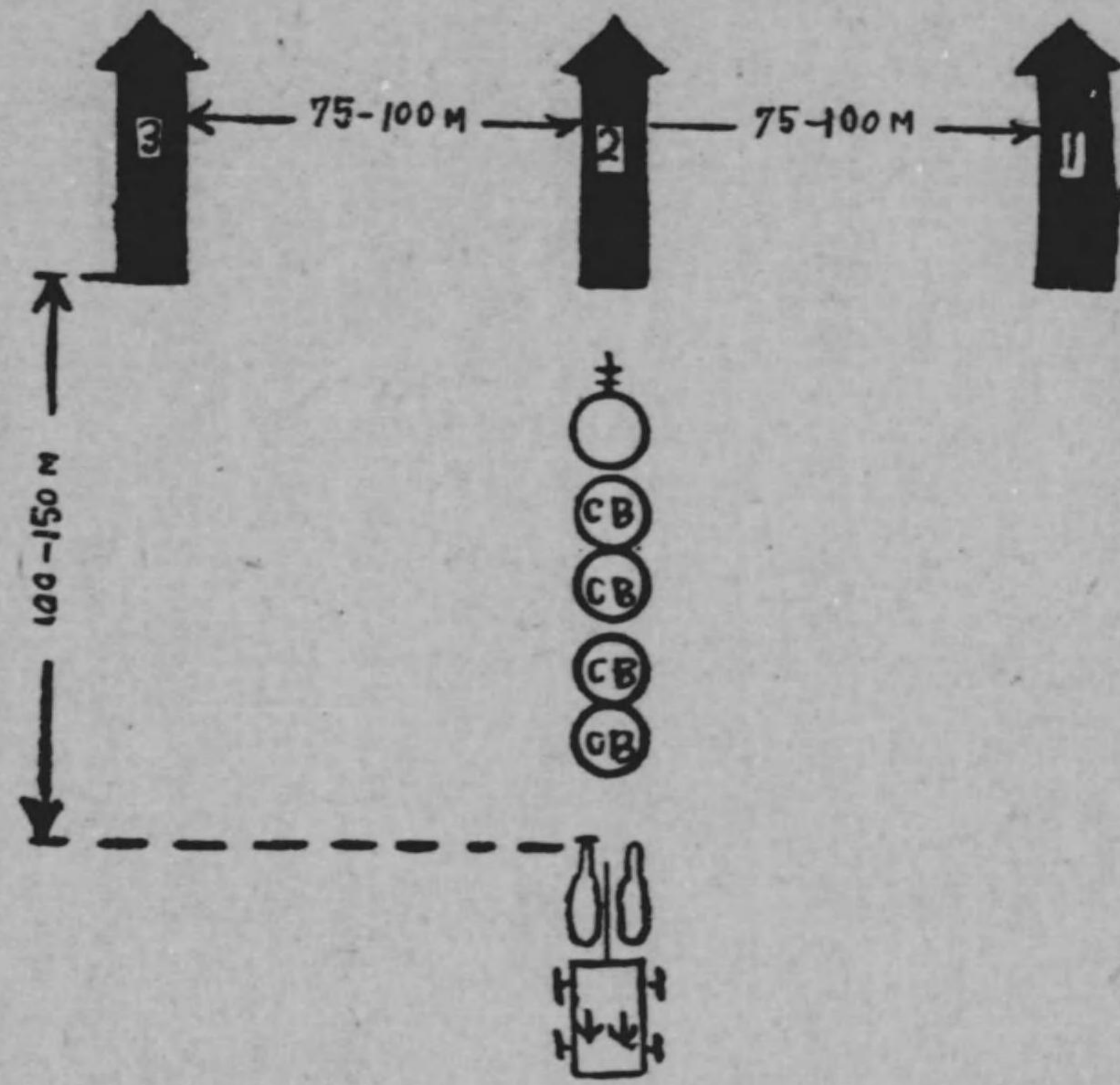
第七十二 戰車ノ急襲ニ對スル攻撃ハ「前方(後方、右、左)ニ戰車現ル 攻撃」ノ號令ヲ下ス

小隊ハ小隊長ノ號令ニ依リ駈歩ニテ掩體ニ就キ攻撃準備ヲ爲ス



形隊開疎隊中ルセ開疎=線二 圖六十五第

タル方向ニ前進シ他ノ小隊ハ
號令ニ依リ間隔、距離ヲ示サ
レザルトキハ駈歩ニテ七十五
乃至百米ノ間隔、百乃至百五
十米ノ距離ヲ取り基準小隊ニ
準ジテ縦隊又ハ疎開隊形ニテ
前進ス「作レ」ノ動令ニテ小
隊長ハ中隊長ノ許ニ連絡兵ヲ
出シ中隊長ノ號令(合圖)ノ
連絡ヲ爲ス
中隊長ハ中隊ノ指揮ニ便ナル
地點ニ位置スルヲ要ス(第五
十五、五十六、五十七圖)

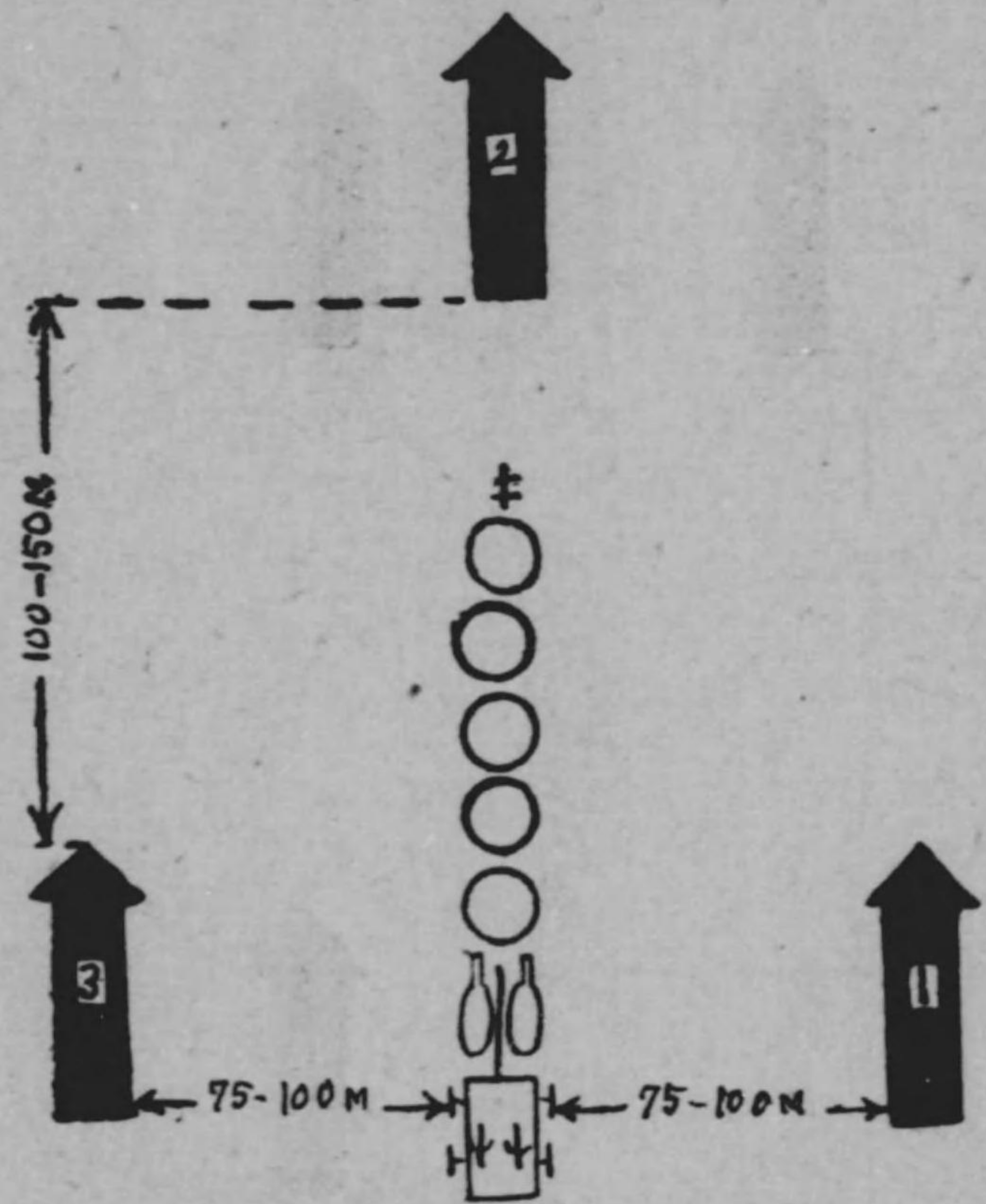


形隊開疎隊中ルセ開疎=線一 圖五十五第

第七十三 飛行機ノ空襲(或ハ空
襲警報ノ合圖)アリタル場合ハ中
隊ハ狀況ニ應ジ小隊毎ニ疎開ス

疎開隊形

第七十四 中隊ノ疎開隊形 一線
ニ疎開セル中隊、二線ニ疎開セル
中隊及三角形ニ疎開セル中隊
行軍縦隊ヨリ中隊ヲ疎開セシムル
ニハ「何々小隊基準、目標何々、
二線ニ(三角形ニ、狙撃小隊ガ
一線ニ)疎開中隊 作レ」ノ號令
(合圖)ヲ下ス基準小隊ハ示サレ



形隊開疎隊中ルセ開疎=形角三 圖七十五第

第百七十五 疎開隊形ニ於ケル
 中隊ノ方向變換、停止及敵ノ
 急襲ニ對スル攻撃ハ狙撃小隊
 ニ就キ示シタル所ニ據ル

第六篇 機關銃部隊

第百七十六 機關銃ヲ携行セザル機關銃部隊ノ隊形ハ狙撃部隊ニ就キ示シタル所ニ據ル機關銃部隊ノ兵器材料ハ四輪車及馱馬ニテ運搬ス

機關銃ノ運搬ハ二輪車ニ於テハ機關銃一銃及彈藥、附屬品ヲ、二頭曳馬車(機關銃搭載二輪車)ニ於テハ機關銃二銃及彈藥、附屬品ヲ、馱馬ニ於テハ機關銃一銃ニ對シ馱馬二乃至三頭(機關銃用一及彈藥用一乃至二)ヲ要ス

機關銃班

第百七十七 機關銃ハ「機關銃ヲ 四輪車ヘ」ノ號令ニテ四輪車ニ載ス
 照準手及助手ハ機關銃ノ架尾ト輻子トヲ持チ四輪車ニ載セ固定セシメ彈藥手ハ彈藥箱及附屬品ヲ載ス機關銃ヲ載セ終ラバ第五十八圖ニ示ス位置ヲ占ム

第七十八 兵器材料ヲ有スル機關銃班ハ第五十九圖ニ示ス位置ヲ占ム

第七十九 機關銃ハ「機關銃ヲ 卸セ」ノ號令ニテ四輪車ヨリ卸ス

彈藥手ハ防水覆ヲ取り機關銃長ハ照準眼鏡ヲ取り照準手及助手ハ機關銃ヲ脱シ輻子ト架尾トヲ持チ四輪車ヨリ卸ス彈藥手ハ示サレタル數ノ彈藥箱、水箱、油及附屬品ヲ取ル機關銃ヲ取りタル場合戰鬥直前ニ於テハ銃手ハ背囊ヲ四輪車上ニ置ク馭兵ハ四輪車ヲ示サレタル位置ニ牽キ去リ敵ニ遮蔽ス

第八十 輻子ニ載セタル機關銃ヲ有スル機關銃班ハ「機關銃班 集レ」ノ號令ニテ動作ス

機關銃長ハ班ノ目標ニ向ヒテ立チ班ハ機關銃ヲ提ゲテ第六十圖ニ示ス如ク機關銃長ノ後方ニ立ツ小銃ハ負銃ス照準手及助手ハ機關銃ノ架尾ヲ支フルカ又ハ締紐革ニテ保持ス

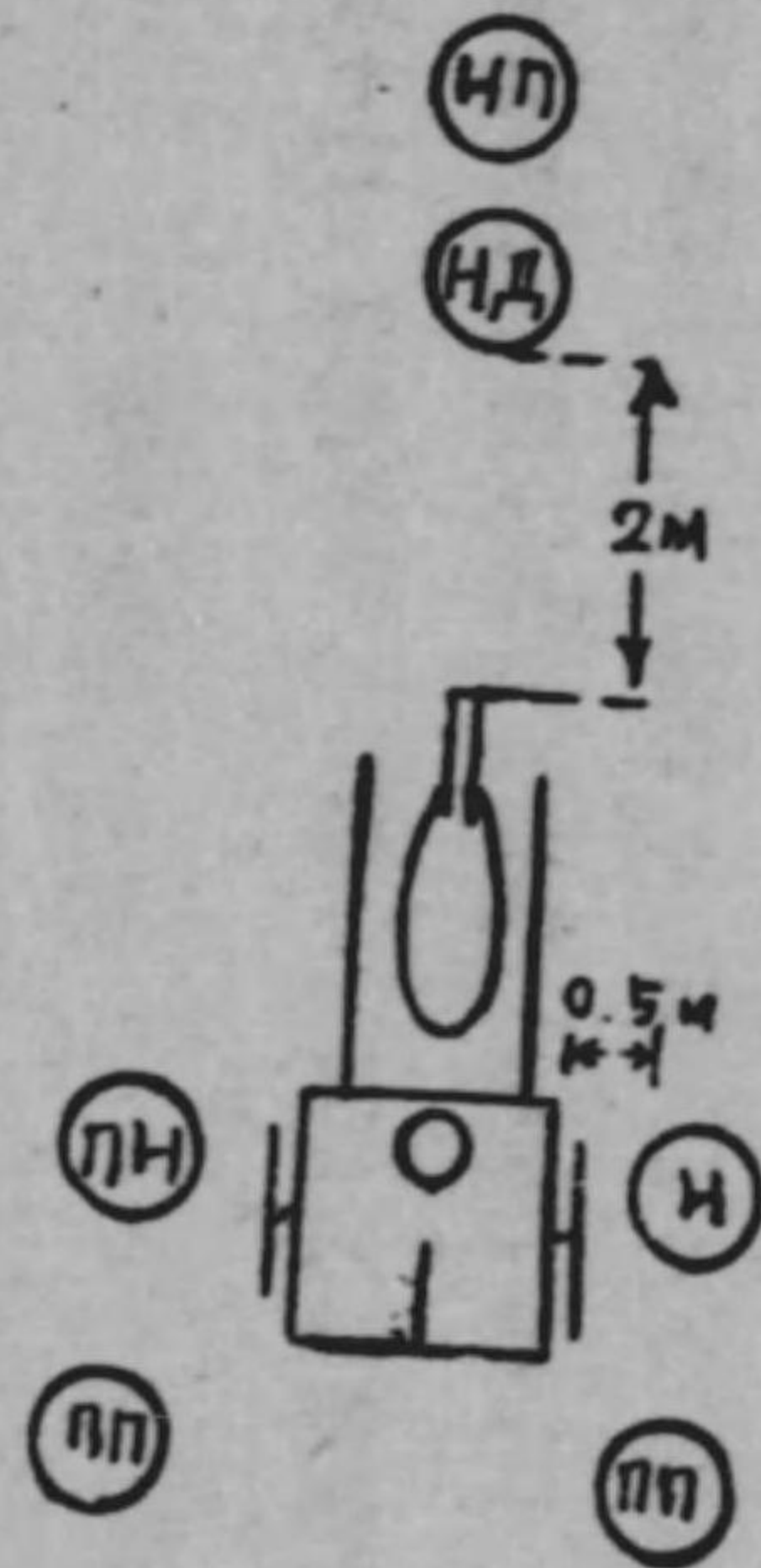
第八十一 班ハ「準ヘ」ノ號令ニテ整頓ス

(イ) 兵(馭兵及馬取扱兵ヲ除ク)ハ第六六ニ準ジテ行動ス

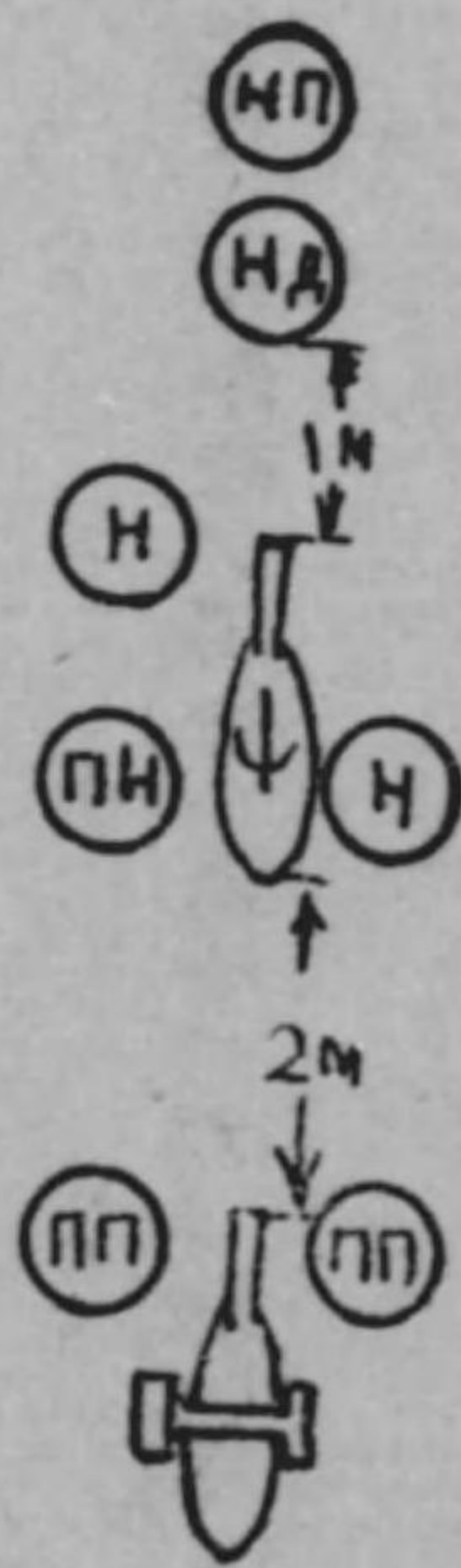
(ロ) 馭兵ハ兩手ニテ輻ヲ取り肘ヲ半バ曲ゲ輻ヲ端折ル

(ハ) 馬取扱兵ハ「準ヘ」ノ號令ニテ馬ノ頭ニ向ヒテ立チ輻ノ兩端ヲ左手ノ掌ヨリ出ス如ク轡ノ

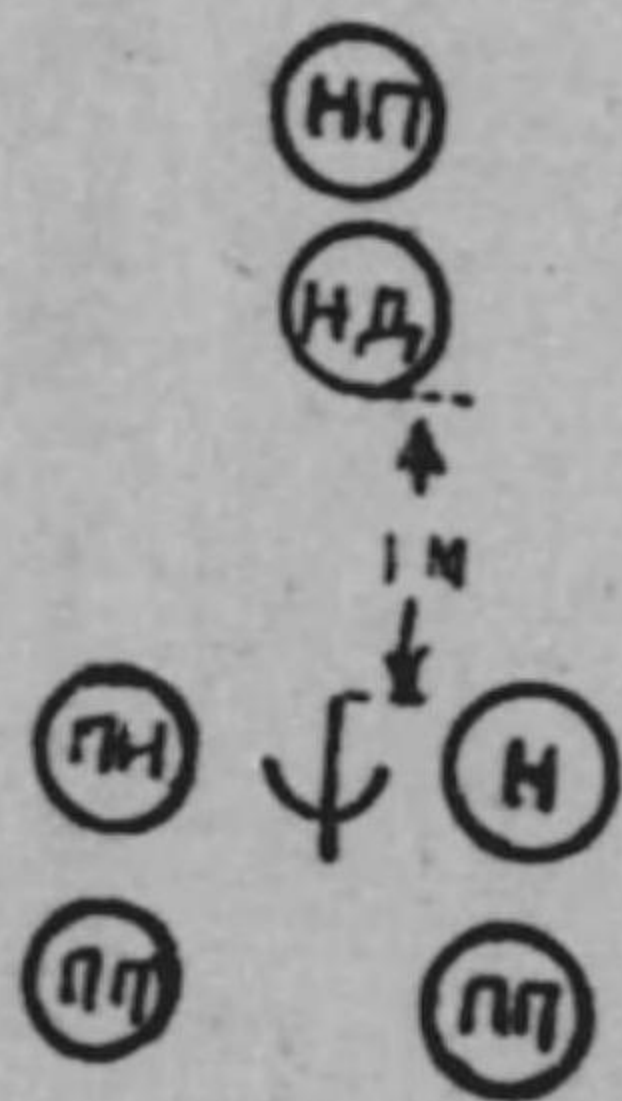
第五十八圖 機關銃ヲ二輪車ニ載セタル
機關銃班ノ隊形



第五十九圖 機關銃ヲ馱載セル機關銃班ノ
隊形



第六十圖 機關銃ヲ輻子ニ載セタル機關銃
班ノ隊形



所ニテ驢ヲ兩手ニ取り馬ヲ保持ス「氣ヲ著ケ」ノ號令ニテ馬ノ左側ニ「氣ヲ著ケ」ノ姿勢ヲ取り右手ノ人差指ヲ兩驢ノ間ニ挾ミテ馬ノ頸ノ所ニテ支ヘ驢ノ兩端ハ左手ニ保持ス

機關銃班ノ行進

第百八十二 機關銃班ノ行進ハ(例ヘバ)「機關銃、何々ノ方向ニ前ヘ(駢歩、速歩) 進メ」又ハ

「機關銃予ニ續キ前ヘ(駢歩、速歩) 進メ」ノ號令ニテ行進ス

歩度ヲ換フルニハ「速歩ニ 進メ」又ハ「常歩」ノ號令ヲ下ス

馬匹ヲ有スル隊形ニ在リテハ動令ハ總テ長ク延バス

第百八十三 四輪車ニ載セタル機關銃ノ行進ハ常歩ニテ行ヒ短距離ノ場合ハ速歩ニテ、駄載セル

場合ハ常歩ニテ行フ

歩度ノ變換ニ方リテハ三乃至五米ヲ前ノ歩度ニテ行進シ輕快ニ行フ

輓子ニテ行進スルニハ「前ヘ」ノ豫令ニテ照準手及助手ハ機關銃ノ架尾ヲ持チ「進メ」ノ號令

ニテ行進ヲ開始ス

輓子ニ載セタル機關銃ヲ移動スルニハ銃口蓋ヲ銃口保護管ニ嵌メ且銃ヲ固定ス機關銃ノ銃身ハ

最大限度ニ下ガ機關銃架ノ機關銃臺ハ移動ニ際シ銃口部ガ地面ニ觸レザル如ク後方ニ移ス

第百八十四 四輪車(駄馬)ニ載セタル機關銃ノ方向變換ハ「右(左)肩前ヘ 進メ」又ハ「予ニ

續キ 進メ」ノ號令ニテ換フ

「眞直ニ」ノ號令アル迄四輪車(駄馬)ハ四米ノ半徑ヲ以テ示サレタル方向ニ行進ス地面不良

ナルカ或ハ速歩ナルトキハ移動ノ半徑ヲ七米トス

停止間ヨリ方向ヲ換フ場合ハ二米前進シテ行フ

第百八十五 輓子ニ載セタル機關銃ノ行進中ノ方向變換(轉回)ハ一米五十乃至二米ノ半圓ヲ描

キテ行フ

第百八十六 機關銃班ヲ停止セシムルニハ「機關銃班 止レ」ノ號令ニテ行フ

四輪車ニ依ル行進中ハ常歩ニ於テハ四米、速歩ニ於テハ六、七米前進ノ後停止ス

輓子ニテ行進スルトキハ機關銃班ハ一步前進シテ停止シ機關銃ヲ卸シ彈藥箱ヲ置ク

第百八十七 位置ヲ換ヘシムルニハ(例ヘバ)「機關銃ヲ黃色ノ灌木ヘ移動 前ヘ」ノ號令ヲ下ス

機關銃ハ抽彈（裝填シアラバ）シ照尺ト横表尺ヲ納メ排氣用ポンプノ螺子ヲ戻シ排氣管ヲ閉ヂ銃口蓋ヲ銃口保護管ニ嵌メ銃身ヲ最大限度下ゲ各部分ヲ固定セシメ弧形ノ最初ノ孔ニ入ル栓ノ入口迄銃身ヲ機關銃臺ニ添ヒテ後方ニ移シ保彈帶ヲ彈藥箱ニ入レ箱ハ栓ヲ掛ク機關銃ハ伏臥ノ儘分解シ照準手及助手ハ機關銃ノ架尾ヲ持チ駈歩ニテ機關銃長ニ續行ス

第百八十八 分解搬送ニハ（例ヘバ）機關銃ヲ小川ノ右岸ニ移サントス銃身ヲ脱シ機關銃 前ヘノ號令ヲ下ス

照準手及助手ハ伏臥セル儘防楯ヲ脱シ機關銃ヲ銃架ヨリ脱シテ運搬ス（銃身ハ照準手、銃架ハ照準助手、防楯ハ機關銃手又ハ觀測手）

第百八十九 「手押一輪車」ニ載セタル機關銃ヲ携行スル匍匐前進ハ「機關銃ヲ一輪車ニ載セテ匍匐 前進」ノ號令ニテ行フ

照準手及助手ハ伏臥シテ機關銃ノ架尾ヲ持チ防楯ニ遮蔽シツツ前方ニ押シ進ム

第百九十 「締紐革」ニテ機關銃ヲ携行スル匍匐前進ハ「機關銃ヲ締紐革ニテ持チ匍匐 前進」ノ號令ニテ行フ

照準手及助手ハ伏臥シテ架尾ヲ持チ前進スル方向ニ銃ヲ向ケ締紐革ヲ著ケ匍匐前進シツツ機關銃ヲ引ク

第百九十一 敵急襲セルトキハ「敵前方（右、左、後方）ヨリ現ル機關銃 攻撃」ノ號令ヲ下ス
機關銃班ハ機關銃ヲ四輪車ヨリ卸シ速カニ射撃開始準備ヲ爲ス

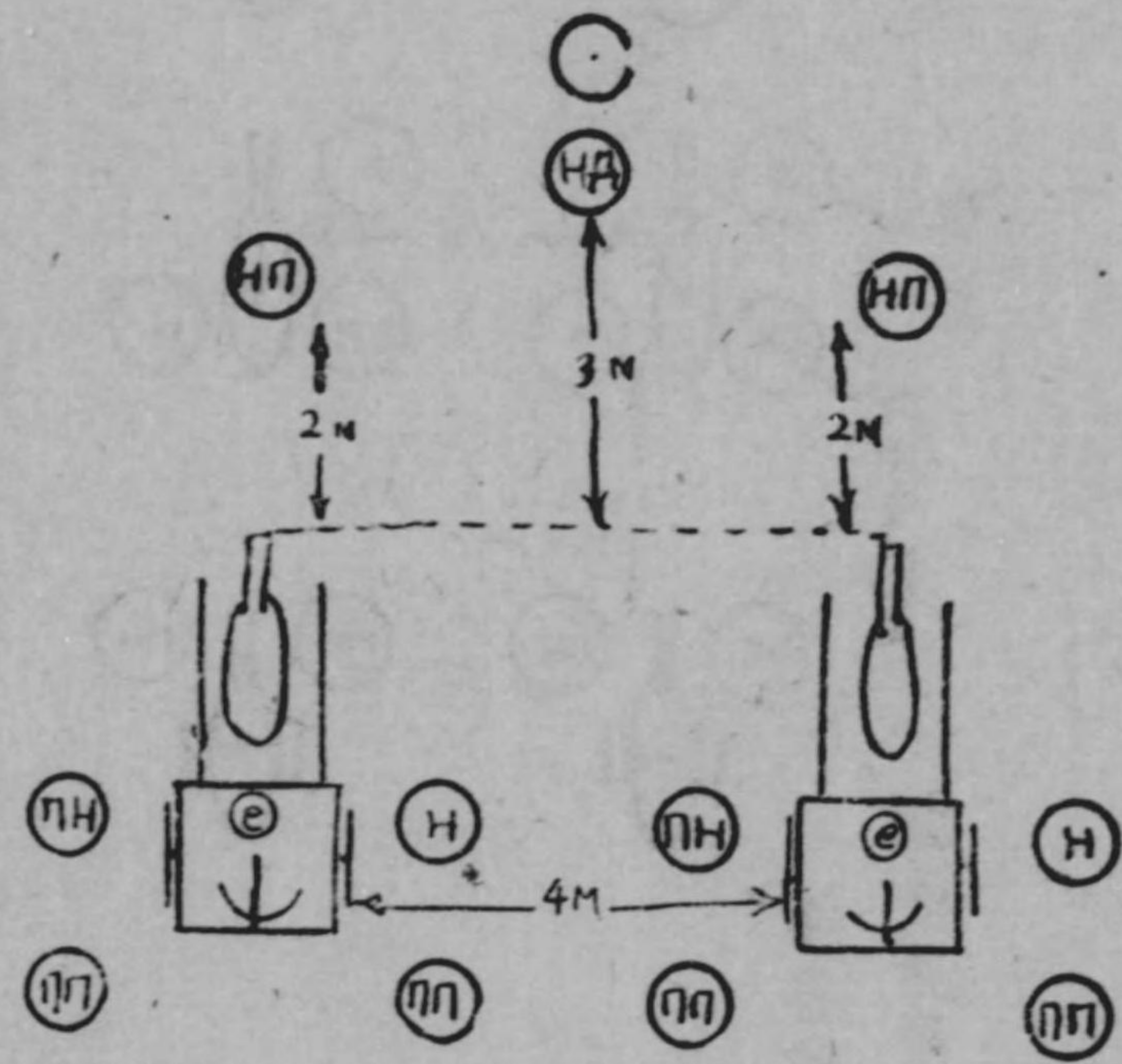
機關銃方四輪車上ニ在ルトキノ射撃開始ニハ「機關銃 四輪車（機關銃塔載二輪車）ヨリ右向（左向、廻ハレ右、廻ハレ左） 攻撃」ナル號令ヲ下ス
馭兵ハ轉回ヲ行ヒ四輪車ヲ止メ戦闘準備ヲ爲ス

第百九十二 敵飛行機ノ急襲アリタルトキ近クニ掩體ナキ場合ハ馭兵ハ四輪車ヨリ跳下リ馬ヲ停メ機關銃ハ戦闘準備ヲ爲ス

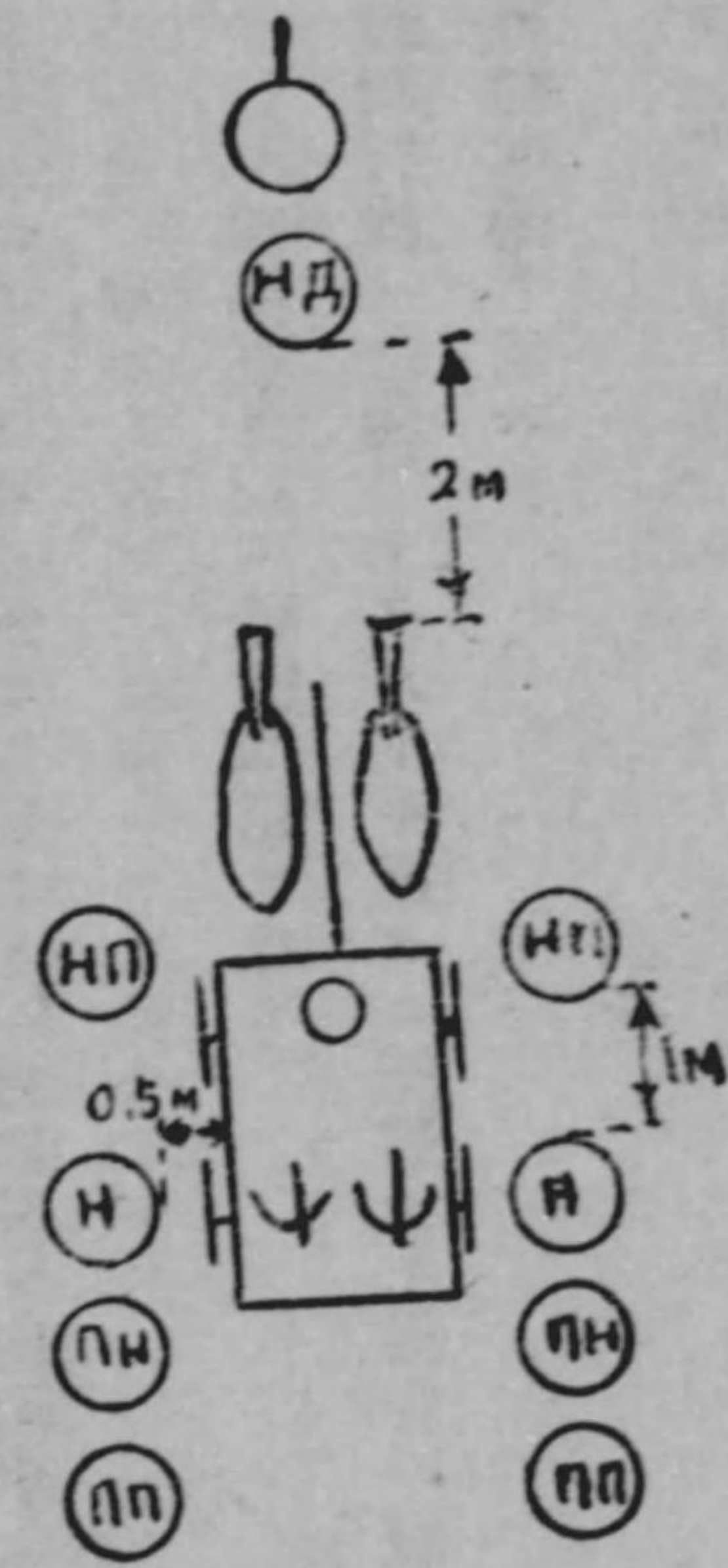
機關銃分隊

横 隊

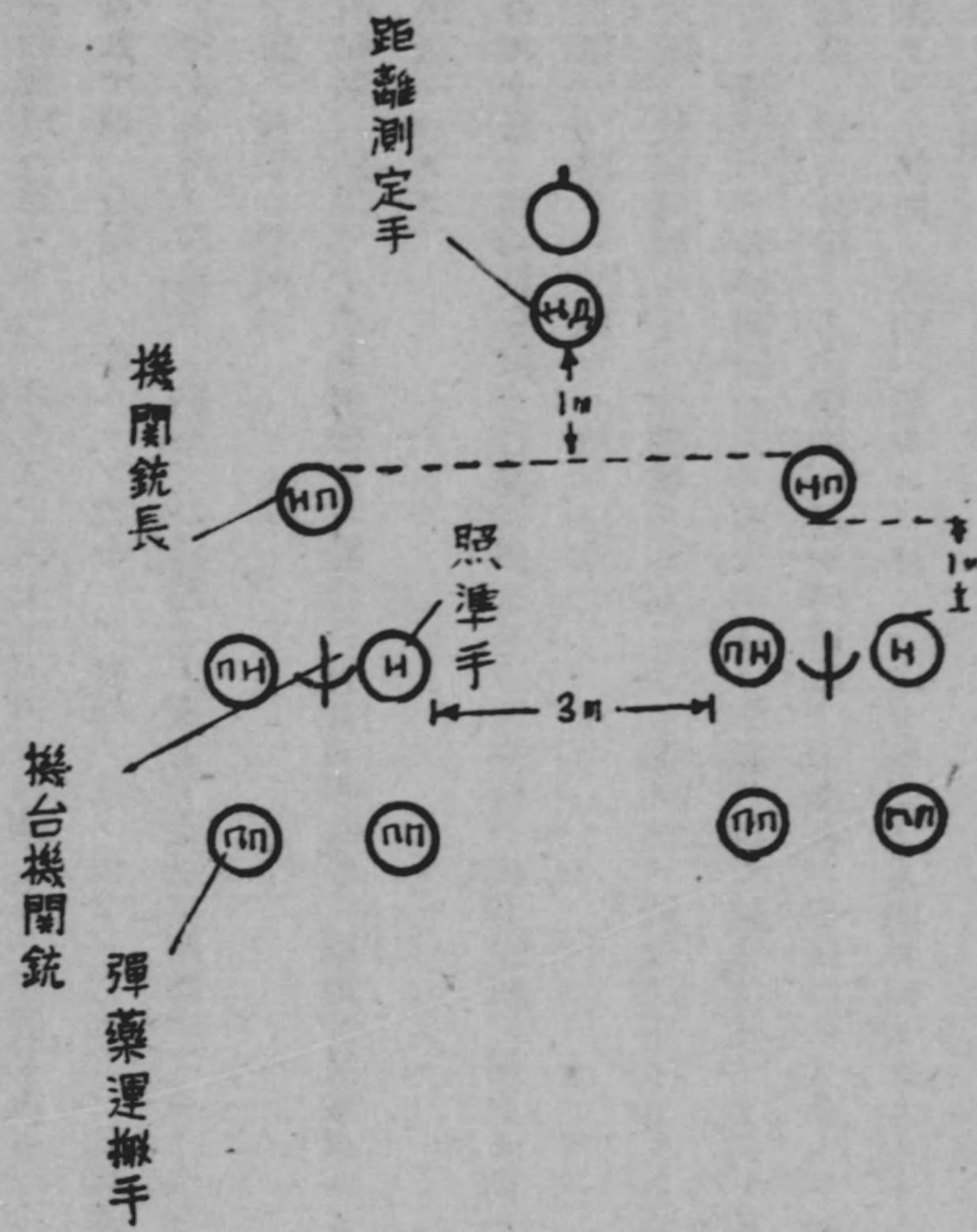
第百九十三 輻子、四輪車、馭馬ニ依ル機關銃分隊ノ横隊ハ「分隊一線ニ 集レ」ノ號令ニテ行フ



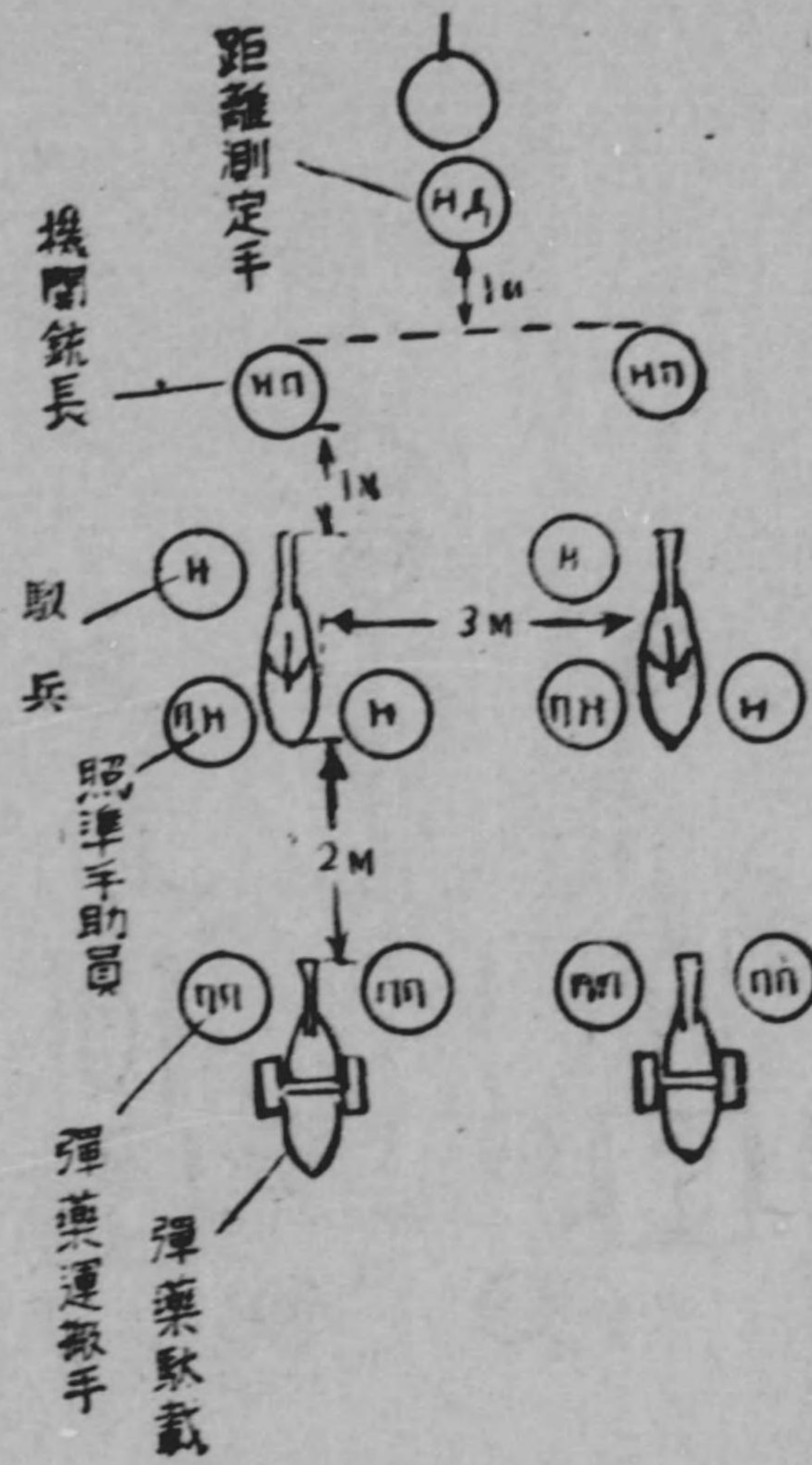
隊横ノ隊分銃機ルタセ載ニ車輪二 圖二十六第



ノ際ルタセ載ニ車輪四 圖一十六第
位定ノ下以長班銃機



圖四十六第
隊横ノ隊分銃關機ルケ除ヲ料材器兵



隊横ノ隊分銃關機ルセ載駄 圖三十六第

機關銃班ハ第六十一、六十二、六十三、六十四圖ニ示ス位置ヲ占ム

第百九十四 分隊ハ「準ヘ」ノ號令ニテ整頓ス此ノ號令ニテ先頭ノ四輪車(馱馬)ハ四米前進シテ停止シ次ノ四輪車(馱馬)ハ前進シテ所要ノ間隔(距離)ヲ取り先頭ノ四輪車(馱馬)ニ準フ班ハ前後ニ整頓ス

四輪車(馱馬)ノ前進困難ナル場合ハ前方ノ四輪車(馱馬)ヲ後退セシメテ行フ但シ三米以上後退セシメズ

第百九十五 機關銃分隊ノ行進、停止及方向變換ハ機關銃班ノ場合ト同一要領ニ依リ行フ但シ

「班」ノ語ヲ「分隊」ニ換フ

分隊ノ後向轉回ニハ「分隊廻ハレ左(右) 進メ」ノ號令ヲ下ス

此ノ號令ニテ各機關銃ハ夫々四米半徑ノ半圓ヲ描キ號令ノ示ス方向ヘ向ク旋回ニ依ル分隊ノ方向變換ニ際シ轉回軸ノ機關銃ハ半徑四米ノ弧上ヲ動キ第二機關銃ハ間隔ヲ保テツツ轉回ノ方向ヘ駈歩ニテ移ル分隊ガ所望ノ方向ニ出デタルトキ「眞直ニ右(左)ニ整頓」ノ號令ヲ下ス

縱 隊

第百九十六 分隊ノ行軍縱隊ハ「分隊行軍縱隊ニ 集レ」ノ號令ニテ行フ

二輪車及馱馬ニ載セタル機關銃ハ三米ノ距離ヲ間シ番號順ニ竝ブ

分隊長ハ第一機關銃前方三米ノ所ニ位置シ觀測手ハ分隊長ノ後方ニ位置ス

第百九十七 二輪車ニ載セ又ハ馱載セル機關銃分隊ノ橫隊ヲ行軍縱隊ニ換フルニハ「分隊右(左)

ヨリ機關銃毎ニ前ヘ 進メ」ノ號令ヲ下ス

第一機關銃ハ行進ヲ開始シ第二機關銃ハ其ノ後方ニ續行ス

右ト反對ノ隊形ヲ作ラシムルニハ「分隊左(右)ニ竝ビ前ヘ 進メ」(行進間ハ「駈歩進メ」

「速歩 進メ」)ノ號令ヲ下ス

先頭機關銃ハ四米前進シテ停止シ第二機關銃ハ間隔ヲ示サレザルトキハ三米ノ間隔ヲ取り第一機關銃ノ線ニ出ツ

第百九十八 機關銃分隊ノ上官ヘノ敬禮及報告ハ狙撃分隊ニ就キ示シタル所ニ準ズ

疎開隊形

第九十九 機關銃分隊ノ縦隊ヨリ疎開隊形ヘノ變換ハ「先頭機關銃ヲ基準トスル分隊目標何々作レ」ノ號令ニテ行フ

基準機關銃ハ示サレタル目標ニ向ヒテ前進シ第二機關銃ハ速歩（駢歩）ニテ基準機關銃ノ線ニ出デ二十五乃至三十米ノ間隔ヲ取ル

分隊ノ疎開ト同時ニ機關銃長ハ分隊長ノ合圖ヲ注視セシム

第二百 前進間疎開隊形ノ方向變換ハ「右（左）ヘ目標何々第一機關銃基準 進メ」ノ號令ニテ行フ
基準機關銃ハ示サレタル方向ニ向ヒ第二機關銃ハ間隔ヲ保チツツ新方向ニ向ヒテ前進ス

第二百一 分隊ノ集合ハ「分隊 集レ」ノ號令ニテ行フ
分隊ハ駢歩（速歩）ニテ集合ス

機關銃小隊

第二百二 小隊ニ於ケル機關銃ハ第一乃至第四ノ番號ヲ附ス此ノ番號ハ如何ナル隊形ニ在リテモ存ス

横 隊

第二百三 小隊ノ横隊 機關銃ガ一線ニ竝ビタル小隊

機關銃ガ一線ニ竝ビタル小隊ノ隊形ハ「小隊一線ニ竝ベ」ノ號令ニテ行フ

停止間ノ場合 第一機關銃ハ示サレタル所ニ位置シ他ノ機關銃ハ番號順ニ第一機關銃ノ左方定距離ニ位置ス

行進間ノ場合 第一機關銃ハ前進ヲ續ケ他ノ機關銃ハ（駢歩、速歩）ニテ第一機關銃ノ左方定出ツ

縦 隊

第二百四 小隊ノ行軍縦隊ハ「小隊行軍縦隊ニ 集レ」ノ號令ニテ行フ

四輪車（二輪車、駄馬）ハ三米ノ距離ヲ取りテ逐次後方ニ縦隊ヲ作ル小隊長ハ第一分隊前方三米ノ所ニ位置ス

第二百五 小隊ヲ横隊ヨリ縦隊ニスルニハ「小隊右（左）ヨリ行軍縦隊ニ前へ進メ」ノ號令ニテ行フ

第一分隊ハ行進ヲ開始シ他ノ機關銃分隊ハ其ノ後方ニ定距離ヲ保チ續行ス

疎開隊形

第二百六 機關銃分隊ハ「先頭分隊ヲ基準トスル小隊目標何々 作レ」ノ號令ニテ縦隊ヨリ疎開隊形ニ移ル

基準分隊ハ示サレタル目標ニ向ヒ前進シ他ノ分隊ハ速歩ニテ基準分隊ノ線ニ出ツ機關銃（四輪車）間ノ間隔ハ二十五乃至三十米トス

小隊ノ疎開ト同時ニ分隊長ハ觀測手ニ小隊長ノ號令竝ニ合圖ヲ注視セシム

第二百七 整頓、行進、方向變換、停止、集合、卸下、機關銃ノ車載及駄載ニ關シテハ分隊ニ就

キ示シタル所ニ準ジテ行フ但シ「分隊」ノ語ヲ「小隊」ニ換フ

第二百八 小隊ノ上官ニ對スル敬禮及報告ハ狙撃小隊ニ就キ示シタル所ニ準ズ

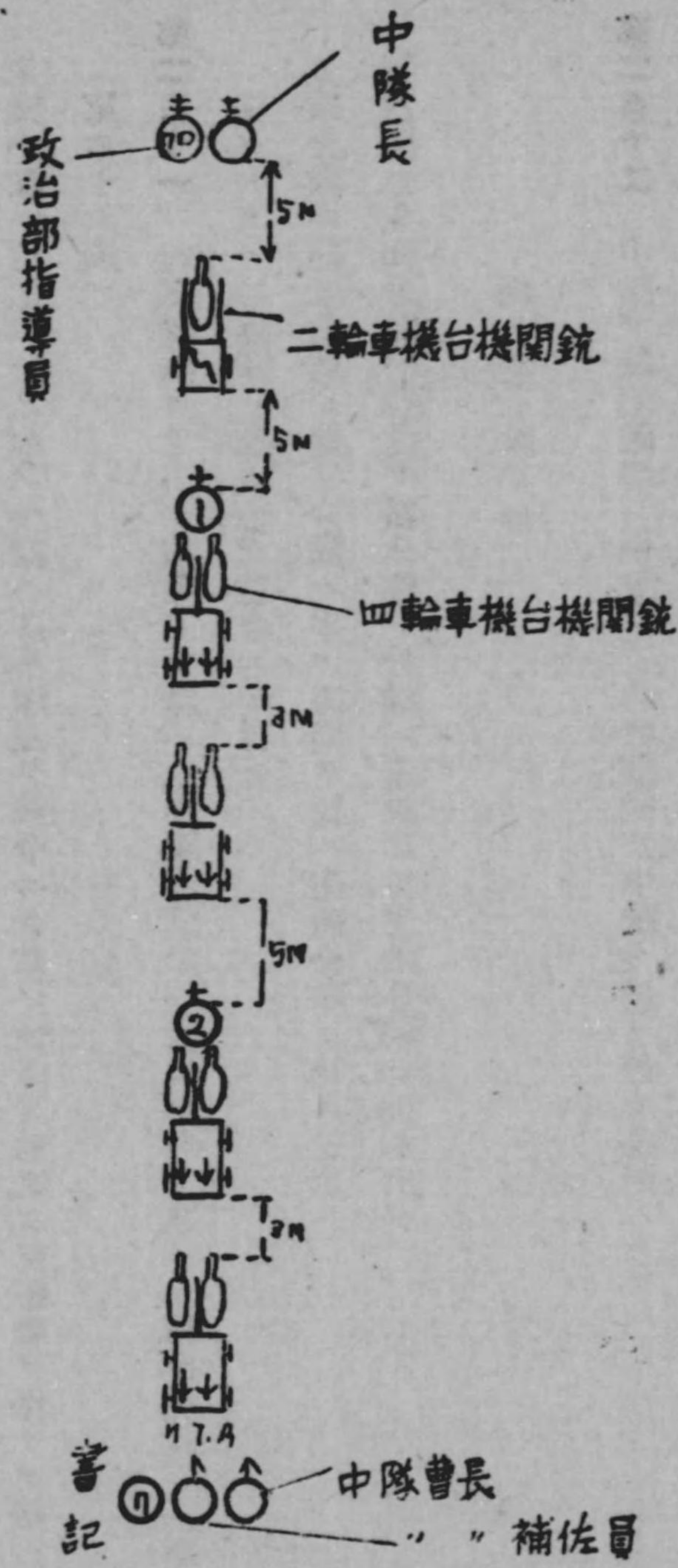
機關銃中隊

横隊

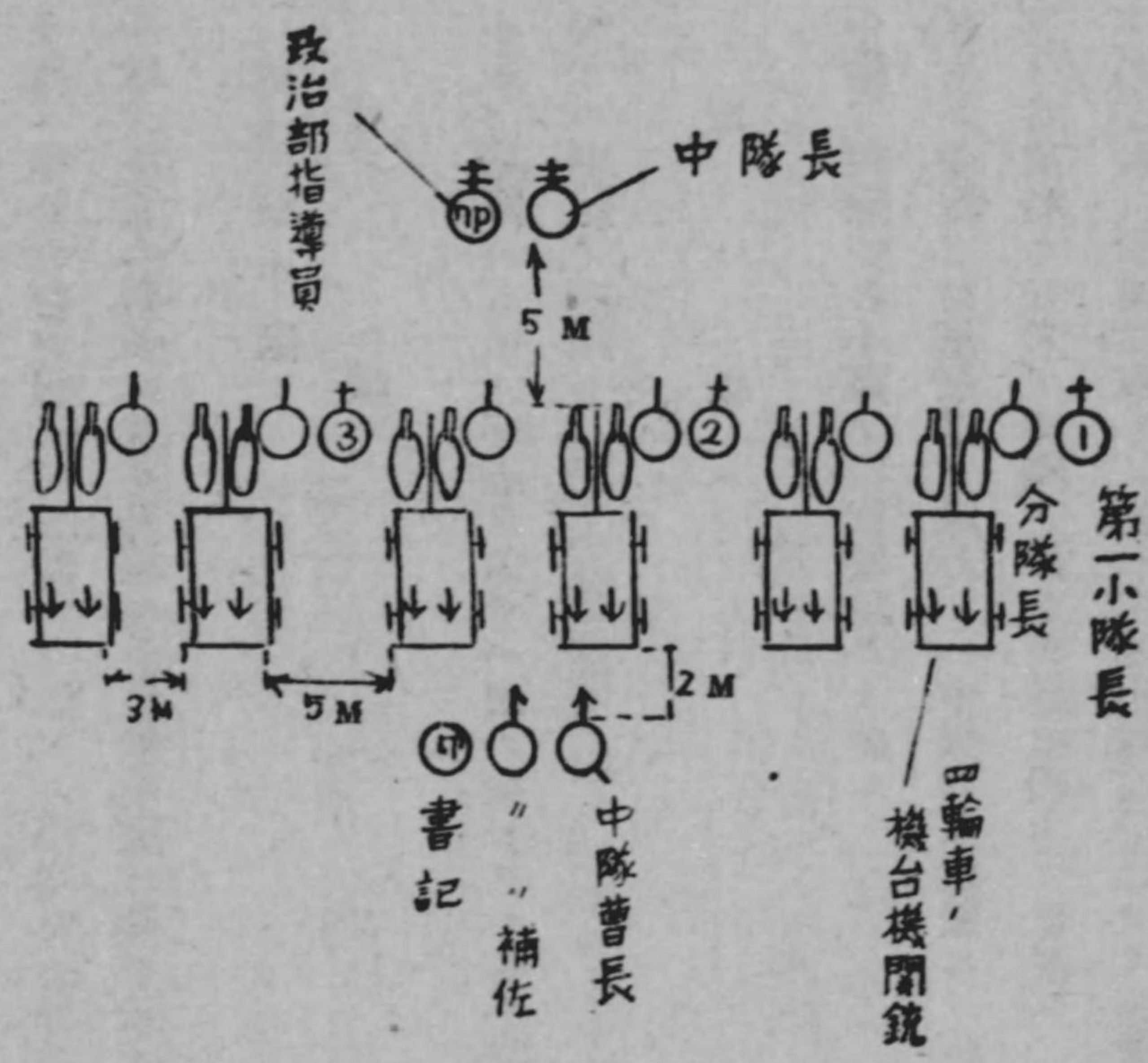
第二百九 中隊ノ横隊ハ五米ノ間隔ヲ保チ一線ニ竝ビタル各小隊ノ横隊ヨリ成ル（第六十五圖）
停止間ニ於ケル中隊ノ横隊ハ「何々小隊基準一線ニ竝ビタル中隊 作レ」ノ號令ニテ行フ

縦隊

第二百十 中隊ノ縦隊ハ各小隊ノ行軍縦隊ヨリ成ル
停止間ニ於ケル中隊ノ行軍縦隊ノ隊形ハ「中隊行軍縦隊ニ集レ」ノ號令ニテ行フ
各小隊ハ其ノ番號順ニ五米ノ間隔ヲ保チテ逐次後方ニ位置ス
横隊ヨリスル中隊ノ行軍縦隊ハ（例へバ）中隊右（左）ヨリ分隊毎ニ道路ニ沿ヒ前へ進メ」ノ



第六十六圖 機關銃中隊ノ行軍縱隊



隊橫ノ隊中銃關機 圖五十六第

號令ニテ行フ

先頭小隊ハ行進ヲ始メ他ノ小隊ハ各小隊長ノ號令ニテ其ノ後方ヲ前進シ定距離ヲ保チテ續行ス
(第六十六圖)

第二百十一 行軍縱隊ヨリスル橫隊ノ中隊ハ「中隊右(左)へ竝ビ前へ進メ」(行進間ニハ「駈歩進メ」又ハ「速歩進メ」)ノ號令ニテ行フ

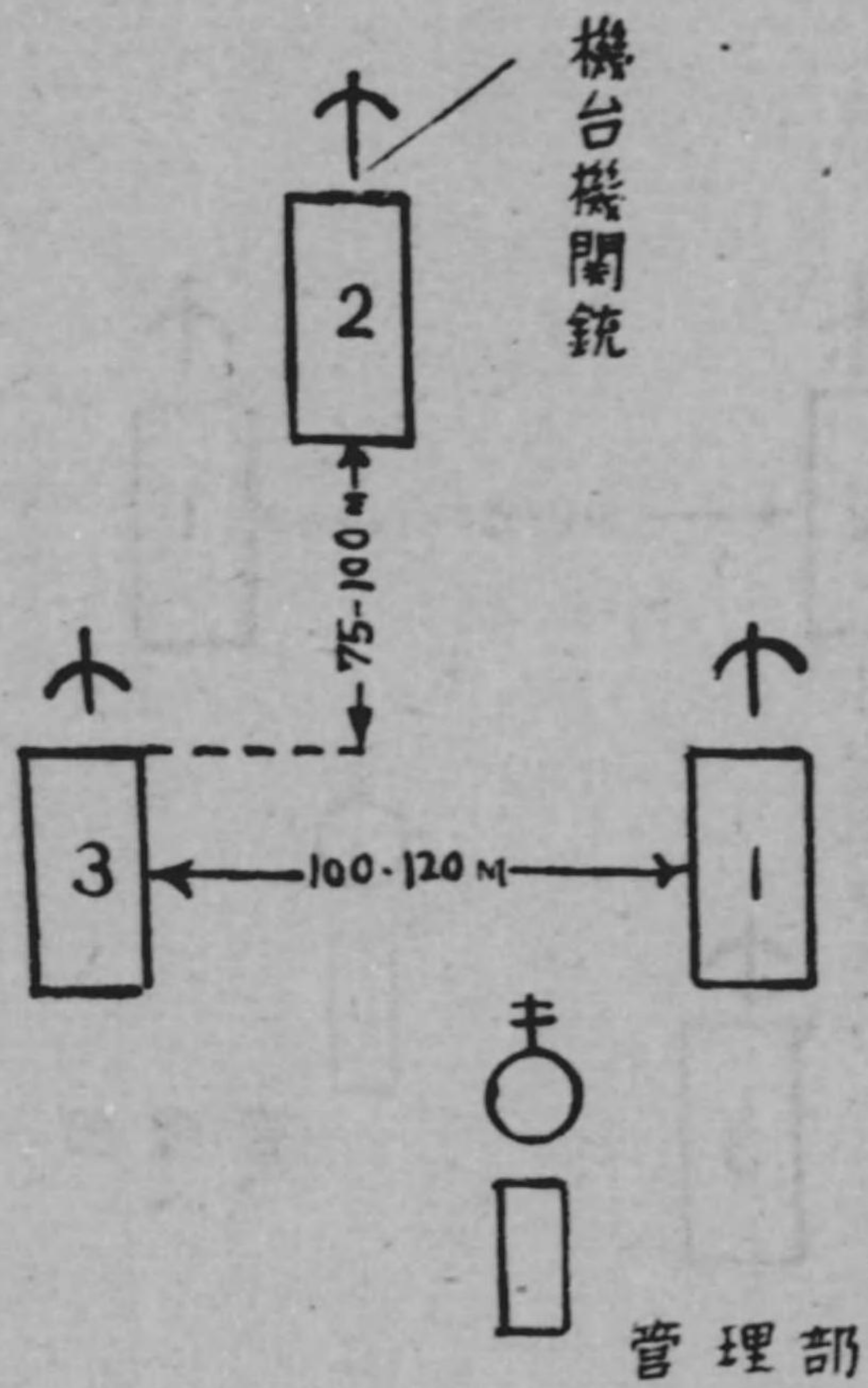
先頭分隊ハ四米前進シ他ノ分隊ハ半バ方向ヲ換ヘ先頭分隊ノ線ニ進出ス
行進間ハ先頭分隊ハ行進ヲ續ケ他ノ分隊ハ速歩ニテ先頭分隊ノ線ニ出ツ

疎開隊形

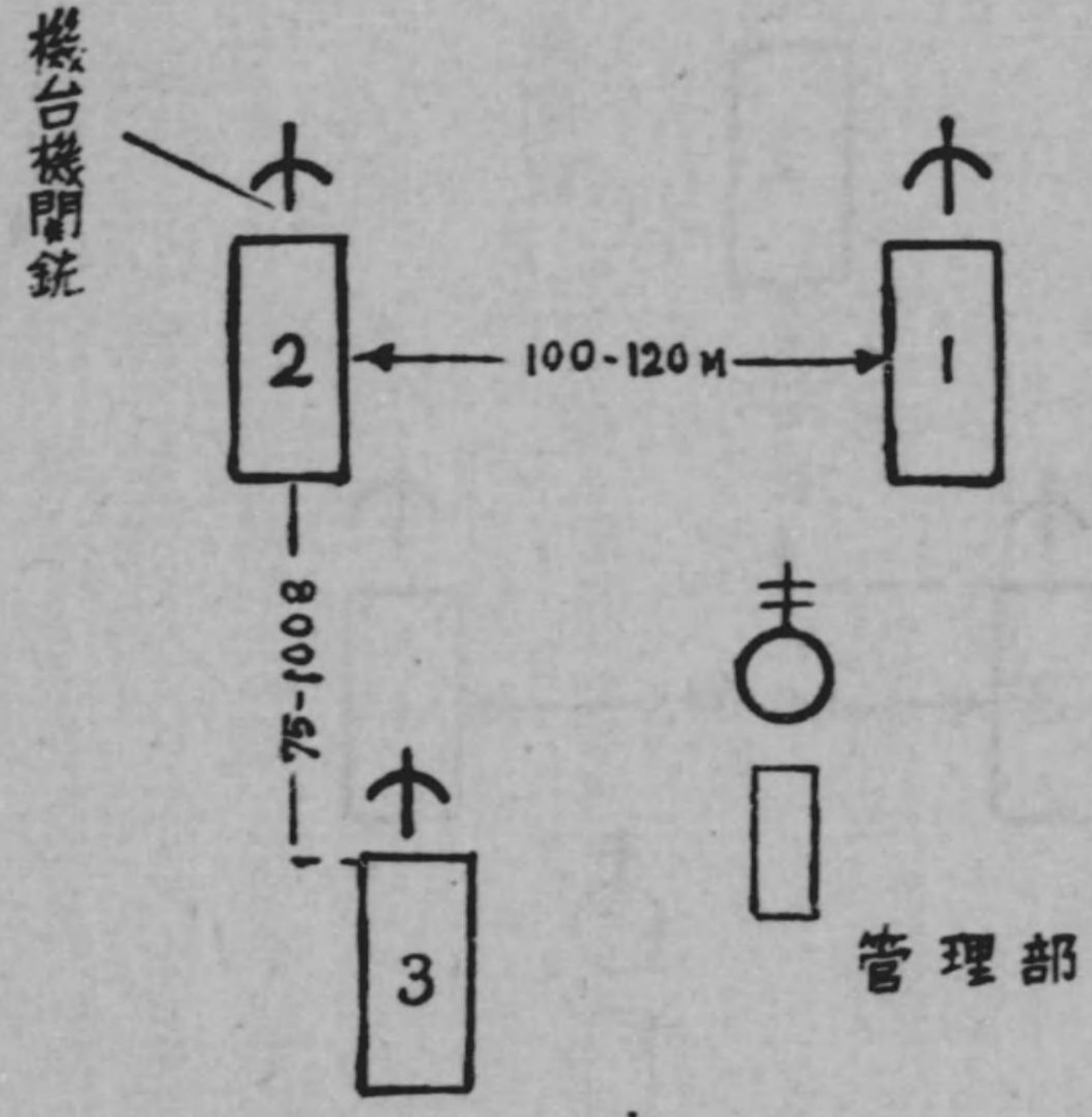
第二百十二 中隊ノ疎開隊形 中隊ノ三角形疎開及中隊ノ逆三角形疎開

機關銃中隊ハ「何々小隊基準目標何々三角形(逆三角形)ニ疎開中隊作レ」ノ號令(合圖)ニテ縱隊ヨリ疎開隊形ニ移ル

基準小隊ハ示サレタル目標ニ向ヒテ前進シ他ノ小隊ハ第六十七、第六十八圖ニ示シタル位置ヲ



開疎形角三ノ隊中銃關機 圖七十六第



開疎形角三逆ノ隊中銃關機 圖八十六第

占ム此ノ際各小隊ハ縦隊又ハ疎開隊形ニテ行進ヲ續行ス

中隊ノ疎開ト同時ニ小隊長ハ觀測手ニ中隊長ノ號令及合圖ヲ注視スベク命ズ

第二百十三 整頓、行進、方向變換、轉回、停止、集合、卸下、機關銃ノ車載及馱載、上官ヲ迎

フル敬禮ハ分隊ニ就キ示シタル順序ト號令トニ依リテ行フ但シ號令中「分隊」ノ語ヲ「中隊」

ニ換フ

第七篇 狙擊大隊

展開隊形

第二百十四 大隊ノ展開隊形ハ中隊縦隊及小隊縦隊ヨリ成ル

大隊ノ隊形ハ大隊長或ハ其ノ參謀部ヲ通シ左ノ内容ヲ示シ命令ヲ與フ

目的、場所、時間及隊形

第七篇 狙擊大隊

第二百十五 中隊縦隊ヨリ成ル大隊ハ左ノ如ク形成サル各小隊ハ行軍隊形ニ於テ一列ニ並ビ其ノ間隔ハ三米トス

大隊ノ特種部隊ハ隊ノ左翼ニ整頓ス(第六十九圖)

第二百十六 小隊縦隊ヨリ成ル大隊ハ一列ニ並ブ中隊及一列ニ並ブ小隊ヨリ成ル中隊ノ間隔ハ一米トス

大隊ノ特種部隊ハ行軍隊形ニ在リテハ大隊左翼中隊ニ整頓シ間隔ハ一米トス(第七十圖)

第二百十七 展開隊形ニ於ケル大隊ノ行進及方向變換ハ中隊ニ對スル號令、命令ニ準ジ行フ

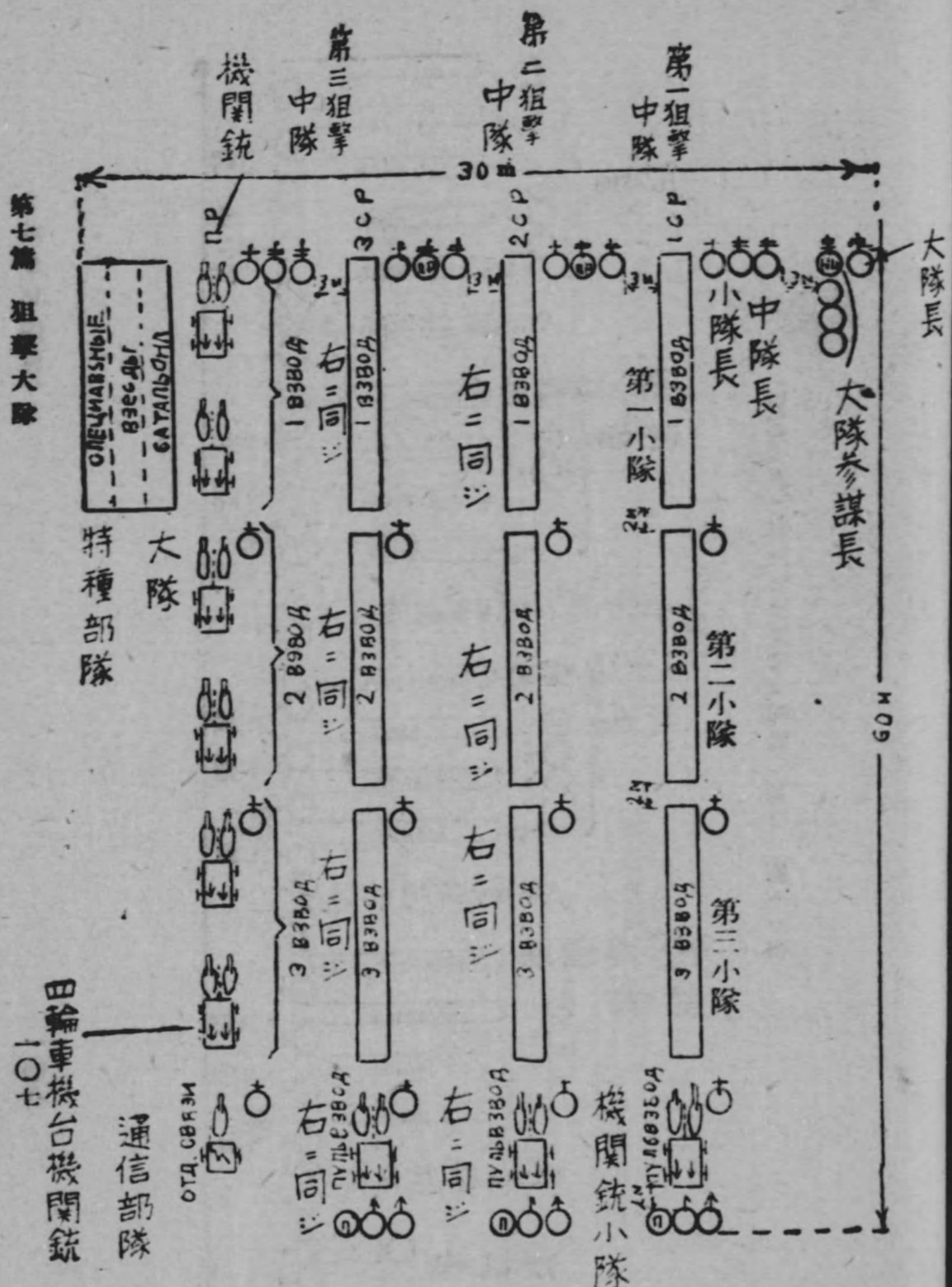
行軍隊形

第二百十八 大隊ノ行軍隊形ハ五米ノ間隔ヲ取リタル中隊及特種部隊ヨリ成ル

第二百十九 大隊ノ展開隊形ヨリ行軍隊形ヲ成サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「大隊行軍隊形ニ行進順序、通信部隊、機關銃中隊 前へ進メ」

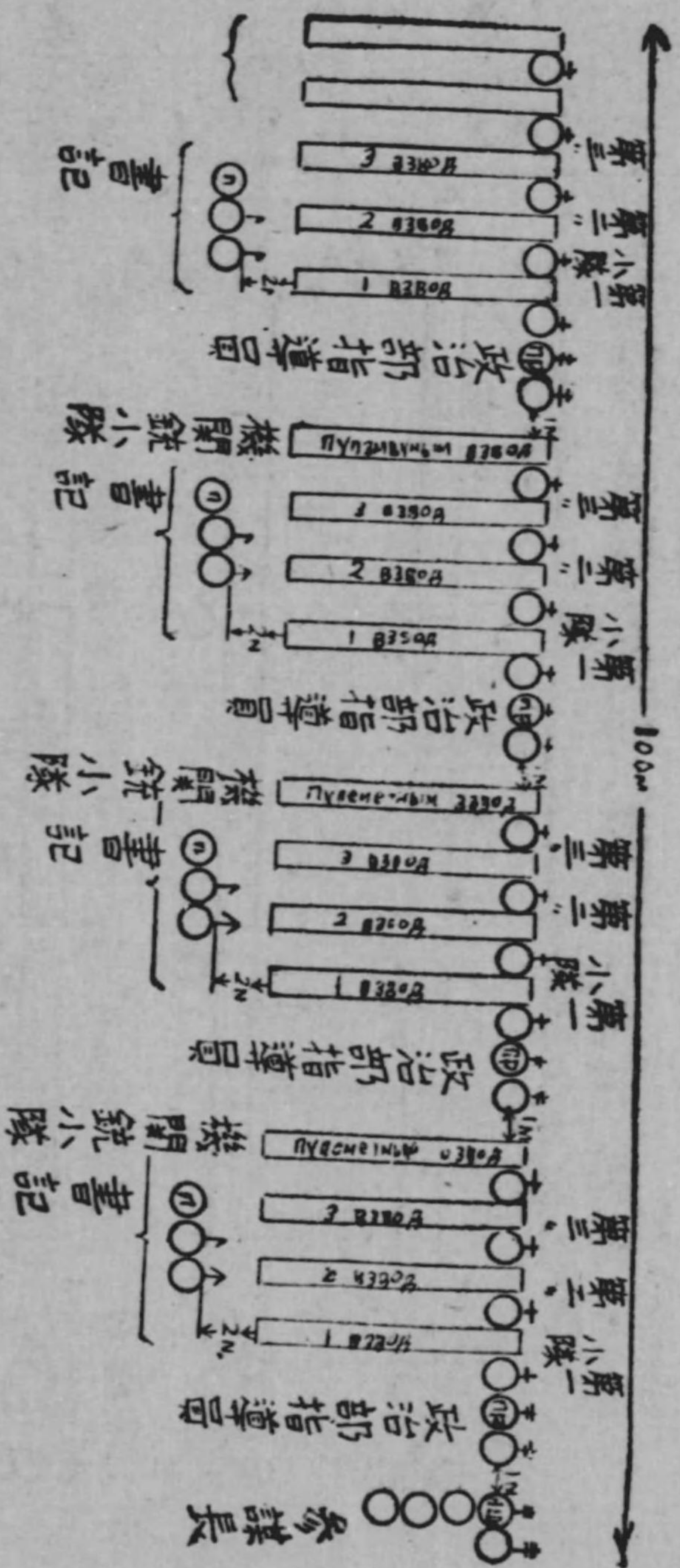
豫令ニテ中隊長及小隊長ハ隊列ヨリ離レ中隊長ハ五米、小隊長ハ三米前方ニ位置シ勅令ニテ先



圖九十六第 中隊縦隊ヨリ成ル大隊ノ隊形

第七篇 狙撃大隊

田輪車機台機關銃 一〇七



形隊隊廣ノ隊大ルセ列併ヲ隊縱ノ隊小 圖十七第

頭部隊ハ其ノ指揮官ノ號令ニ依リ行進ヲ起シ殘餘ノ部隊ハ五米ノ距離ヲ間シ續行ス

第二百二十 行軍隊形ヨリ大隊ヲ展開隊形ニ變換セシムルニハドノ中隊ガ如何ナル隊形ニ依レバ

大隊隊形ノ正面ヲ爲スヤ及其ノ關係位置ヲ示ス命令ニ依リ行フ

示サレタル中隊ノ指揮官ハ中隊ヲ整列シ殘餘ノ中隊、特種部隊ハ之ニ準フ

大隊ノ方向變換ハ中隊ニ準シ行フ

第二百二十一 行軍縱隊ヨリ大隊ヲ疎開スルニハ狀況ニ依リ大隊長ノ命令(信號)ニテ行フ

第八篇 狙撃聯隊

第二百二十二 狙撃聯隊ノ展開隊形ハ中隊縱隊、大隊縱隊ヨリ成ル

第二百二十三 聯隊ノ隊形ハ聯隊長又ハ其ノ參謀部ヲ通シ左ノ命令ニ依リ行フ

- (イ) 隊形ノ目的
- (ロ) 隊形ノ位置及時間

ソ軍歩兵操典

如何ナル軍裝

(二)(ハ) 部隊ハ如何ナル材料班ヲ有スベキヤ

第二百二十四 大隊横隊ノ聯隊ハ左ノ如ク形成セラル

右翼ニ小隊横隊ヨリ成ル聯隊學校、行軍隊形ノ中隊ヨリ成ル大隊、該大隊ノ右側ニ聯隊ノ特種部隊其ノ間隔ハ三米トス

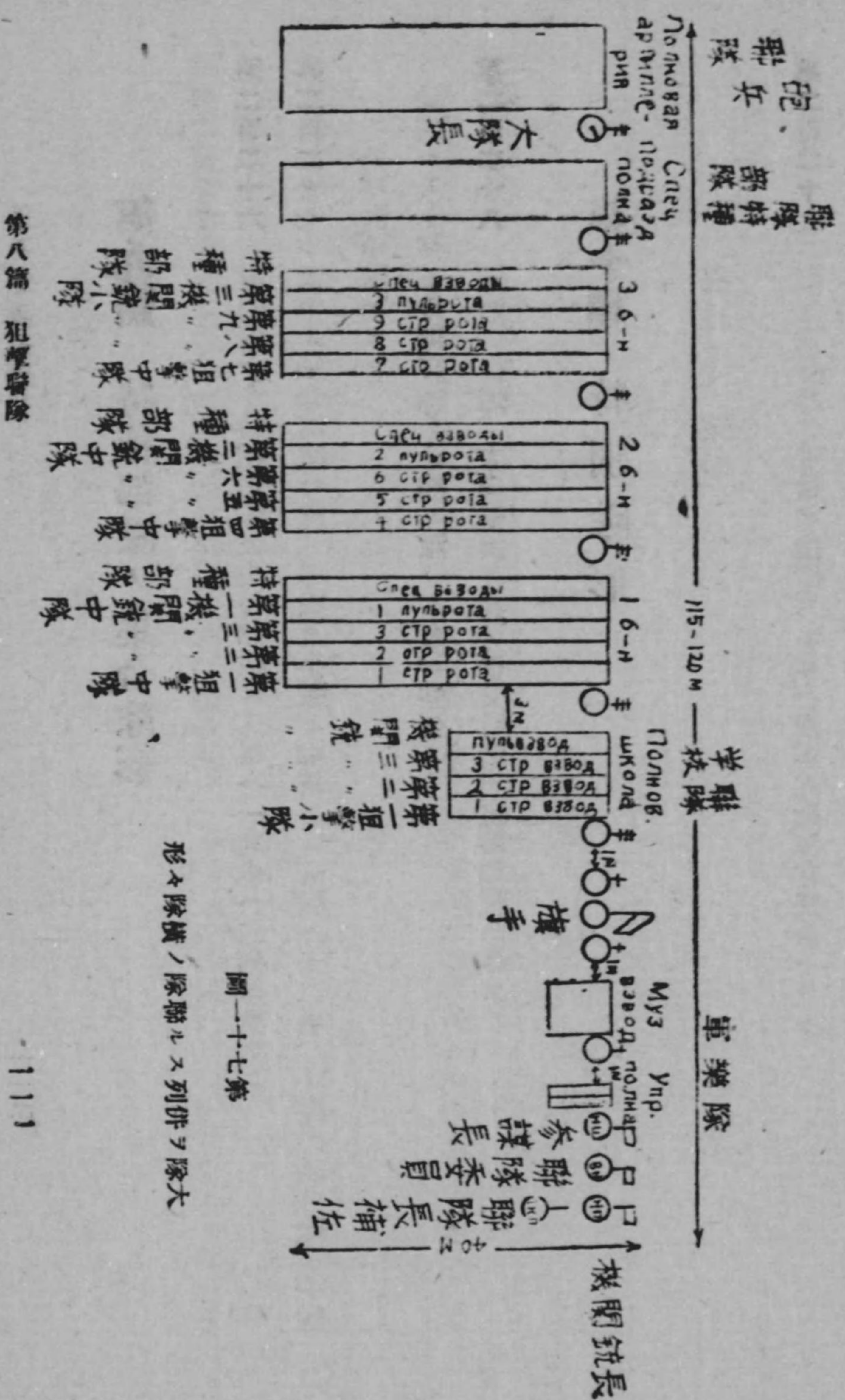
砲兵及騎兵部隊ハ其ノ隊列規定ニ依リ整列ス

聯隊ノ編成ニ加ハラザル幹部及指揮官ハ聯隊ノ命令ニ依リ整列ス(第七十一圖)

第二百二十五 聯隊ノ展開隊形ヨリ行軍隊形ヘノ變換ハ左ノ號令ニ依ル

「聯隊右ヨリ行軍隊形、道路上、(部隊ノ行進順序ヲ示ス)進メ」

號令ハ第二百十九ニ準ズ



圖一十七第

形々隊横ノ隊聯ルヌ列併ヲ隊大

第九篇 特種部隊ノ集合隊形

第二百二十六 材料廠ナキ特種部隊及集合部隊ノ人員ハ一列或ハ二列ニ整列ス

第二百二十七 大ナル集合部隊ハ豫メ分隊及小隊ニ編成ス（分隊ハ十二名、小隊ハ四分隊、中隊ハ三乃至四中隊ナリ）

隊列ニ入ラザル指揮官並ニ幹部ハ隊ノ右翼ニ整列ス

第二百二十八 隊形、行進、方向變換及其ノ他ノ行動ハ狙撃部隊ニ準ズ

第十篇 特別隊形

觀兵式ノ隊形

第二百二十九 觀兵式參加ノ軍隊ヲ指揮スルニハ觀兵式指揮官任命セララル

第二百三十 觀兵式ニ參加スル兵員及被服ハ衛戍地司令官之ヲ規定ス

第二百三十一 觀兵式ニハ部隊ノミ參加シ各部隊内ノ伍數ハ等シクス

第二百三十二 觀兵式ニ於ケル部隊ノ編成ニ加ハラザル幹部ハ特別集成部隊ニ加ハル

觀兵式ノ爲ノ隊形

第二百三十三 觀兵式參加ノ各部隊ハ指揮官ノ命令ニ依リ觀兵式ノ爲各隊ヨリ標兵ヲ出ス中隊ハ四名、騎兵中隊、砲兵中隊ハ二名、機械化部隊ハ其ノ都度觀兵式指揮官ノ特別命令ニ依リ人員ヲ定ム

標兵ハ銃劍ニ部隊ヲ標示スル旗ヲ著ク其ノ大キサハ縦二十纏、横十五纏トシ旗ノ綠色ニハ兵種ノ色ヲ用フ

第二百三十四 觀兵式場ニ到着セル部隊ハ衛戍地ニ關スル命令ニ依リ標兵ノ位置ニ整列ス整列終レバ標兵ハ部隊ノ後列ニ入ル

第二百三十五 觀兵式ハ左ノ順序ニ依リ行フ

第九篇 特種部隊ノ集合隊形
第十篇 特別隊形

狙撃部隊、材料部隊ヲ有セザル技術部隊、徒歩隊形ノ騎兵及砲兵、乘馬隊形ノ騎兵並ニ砲兵、材料部隊ヲ有スル車載及機械化部隊

第二百三十六 聯隊ハ大隊縱隊ニ、各大隊ハ中隊縱隊ニ整列ス大隊間ノ距離ハ五米トス部隊ノ指揮官ハ右翼ニ位置ス其ノ前列ニ參謀長、指揮官ノ左右ニ軍事委員、軍事委員ノ左ニ軍樂隊、軍樂隊ノ第一列ハ中隊ノ右翼第二列ニ準ヒ其ノ左ニ第一助手、旗手、第二助手ノ順ニ列ブ此ノ列ハ中隊ノ右翼第一列ニ準フ先頭大隊ノ指揮官ハ第二助手ノ二步左ニ、殘餘ノ指揮官ハ各自ノ定位ニ位置ス

第二百三十七 觀兵式ニ參加セル部隊ノ上級長官ハ隊列ニ加ハリ指揮ヲ爲ス但シ隸下部隊ノ半數以上ガ式ニ參列セルトキ指揮官ハ部隊ノ右翼ニ位置シ背後ニ補佐官及參謀長ヲ從フ左側ニ軍事委員ヲ從フ

第二百三十八 部隊ノ各指揮官ハ部隊ト共ニ觀兵式場ニ來ル
觀兵式指揮官ト觀兵式接見官トノ謁見

第二百三十九 觀兵式場ニ到着セル部隊ハ觀兵式受禮者ノ來ル迄ニ左ノ報告ヲ爲ス

(イ) 部隊ハ部隊ノ指揮官

(ロ) 參列ノ全部隊ハ觀兵式指揮官及衛戍地司令官

報告スルニハ左ノ號令ヲ以テス、「氣ヲ著ケ 右ニ準ヘ」(左ニ、中央ニ)軍樂ハ吹奏セズ

第二百四十 觀兵式受禮者ハ觀兵式ノ右翼ニ位置ス而シテ百五十乃至百二十米迄部隊ニ接近ス此ノ際觀兵式指揮官ハ左ノ號令ヲ下ス

「觀兵氣ヲ著ケ右ニ準ヘ」(左ニ、中央ニ)

分隊長以上逐次全指揮官ハ該號令ヲ反復ス此ノ號令ニテ左ノ動作ヲ行フ

(イ) 部隊ハ「氣ヲ著ケ」ノ姿勢ヲ取り頭ヲ整列ノ方向ニ向ケル

(ロ) 分隊長以上全指揮官及幹部ハ舉手ノ禮ヲ爲ス

(ハ) 軍樂隊ハ「歡迎行進曲」ヲ吹奏ス

(ニ) 觀兵式指揮官ハ申告ヲ爲シツツ觀兵式受禮者ニ近ヅク

・觀兵式受禮者乘馬ノ際ハ指揮官モ亦乘馬シテ之ヲ迎ヘ刀ノ敬禮ヲ爲シ報告ノ際刀ヲ下口ス

報告中ハ奏樂ヲ中止ス報告終レバ觀兵式指揮官ハ觀兵式受禮者ニ參列セル部隊ノ編成ニ關スル書類ヲ手交ス

觀兵式受禮者行動ヲ始ムルヤ先頭部隊ノ軍樂隊ハ「歡迎行進曲」ヲ吹奏ス部隊ニ對スル挨拶及答禮ノ際ハ一時之ヲ中止ス

第二百四十一 部隊ハ觀兵式受禮者ノ挨拶ニ對シ「今日ハ」、祝辭ニ對シテ「ウラー」ト答フ

第二百四十二 觀兵式受禮者ガ次ノ獨立部隊ノ先頭ニ達スルヤ軍樂隊ハ吹奏ヲ中止シ次ノ軍樂隊吹奏ヲ開始ス

第二百四十三 觀兵式受禮者ノ閱兵終レバ觀兵式指揮官ハ「觀兵 休メ」ノ號令ヲ下ス

分隊長以上ノ全指揮官ハ自己部隊ノ中央前面ニ出ヅ分隊長ハ一米五〇糎、中隊長ハ三米、大隊長ハ六米、部隊長ハ十二米、綜合部隊長ハ十八米ノ距離ヲ取り前面ニ出デタル各指揮官ニ竝ビ又左方ニ軍事委員竝フ

第二百四十四 觀兵式指揮官ハ宣誓ヲ部隊ニ爲サシムルニ左ノ號令ヲ以テス

「宣誓ノ爲觀兵氣ヲ著ケ」

宣誓ヲ行フ部隊ハ大聲ニ莊嚴ナル誓約文ヲ反復ス宣誓終了セバ軍樂隊ハ「インテルナチヨーナ」ヲ吹奏ス部隊ハ大聲ニ且長ク「ウラー」ト答フ

衛戍地司令官ノ特別命令ヲ以テ禮砲ヲモ爲シ得

「インテルナチヨーナ」ノ吹奏終レバ觀兵式指揮官ハ「休メ」ノ號令ヲ下ス

儀式行進ニ於ケル部隊通過ノ順序

第二百四十五 儀式行進ヲ行フ際觀兵式指揮官ハ左ノ號令ヲ下ス

「觀兵氣ヲ著ケ 儀式行進右ニ準ヘ 第一中隊（大隊）直進殘餘ハ右ニ準ヘ擔ヘ銃 進メ」
全指揮官ハ號令ヲ反復ス

第二百四十六 「儀式行進準備」ノ號令ニテ部隊指揮官ハ軍事委員ト共ニ先頭大隊ノ中央前面ニ出デ其ノ後方ニ米ニ參謀長、其ノ後方ニ米ニ旗手及助手標兵ハ隊列ヨリ進出シ標示ノ爲定メラレタル所ニ位置ス各部隊ノ軍樂隊ハ隊列ヲ離レ觀兵式受禮者ノ反對側儀式行進ノ通過地點ヨリ八米以外ニ位置ス

第二百四十七 「擔ヘ銃」ノ號令ニテ騎兵部隊ハ肩刀ヲ爲ス

第二百四十八 「進メ」ノ號令ニ際シ混成軍樂隊ハ行進曲ヲ吹奏シ先頭部隊ハ行進ヲ始ム殘餘ノ部隊ハ右ニ出デ先頭部隊ノ第一線ニ準ヒ前進シ第一翼部隊ノ停止セシ位置迄行進シテ右ニ轉ジ先行部隊ノ後ヲ追フ

第二百四十九 儀式行進ハ左ノ如ク行フ

- (イ) 中隊 (分隊縱隊ヨリ成ル)ノ徒歩部隊 大隊(二中隊ヨリ成リ各中隊ハ分隊縱隊)
- (ロ) 砲兵 中隊隊形
- (ハ) 騎兵 中隊隊形(分隊ヨリ成ル)
- (ニ) 車載機械化部隊(分隊ヨリ成ル)

附記 觀兵式指揮官ハ又別ノ儀式行進順序ヲ命ズルコトヲ得

第二百五十 徒歩部隊ノ行進速度ハ每分百二十歩、砲兵及騎兵ハ速歩、機械化部隊、牽引車並ニ車載機械化部隊ハ時速十五軒トス

第二百五十一 儀式行進ノ爲ノ各兵種分隊及部隊ノ間隔ハ觀兵式指揮官之ヲ定ム

第二百五十二 儀式行進ニ際シ指揮幹部並ニ軍事委員(政治部指導員)ハ部隊通過後ニ觀兵式受

禮者ガ退出スル爲所要ノ間隔ヲ保チ自己部隊ニ先行ス

第二百五十三 刀槍ノ禮ハ騎馬隊形中ニ在ル幹部ノミ行フ

分隊長以上ノ指揮官ハ順次ニ觀兵式受禮者ヨリ八米ノ所ニテ舉手ノ禮ヲ爲シ受禮者ヲ距ル五米ノ所ニテ手ヲ下ロス

中隊長ノ舉手ノ禮ヲ爲ス際通過シアル部隊ノ兵ハ頭ヲ右ニ向ケ受禮者ヨリ五米隔リシトキ頭ヲ舊ニ復ス

著劍セル銃ヲ持ツ狙撃部隊ノ兵ハ觀兵式受禮者ヨリ二十四米ノ位置ニテ「立テ銃」ノ號令ニ依リ銃ヲ取り頭ヲ廻ハシ受禮者ヨリ十六米離レシ所ニテ中隊長ノ號令ニ依リ擔銃ヲ爲ス

徒歩部隊ハ右翼ヲ以テ標兵ニ接シ前進ス第一翼ノモノハ觀兵式受禮者ノ方向ニ頭ヲ廻ハサズ

第二百五十四 獨立及綜合部隊ノ指揮官並ニ軍事委員ハ觀兵式受禮者ヲ距ルコト五米ニシテ手ヲ下ロシ右ニ進ミ受禮者ヨリ三米隔タレル所ニ高級ノ順序ニ進ミ自己ノ隸下部隊ノ到着迄其ノ位置ニ停ル

第二百五十五 最後ノ部隊ガ觀兵式受禮者ノ前ヲ通過セシトキ混成軍樂隊ハ集結サレ樂長ノ號令

ノ下ニ受禮者ノ面前ヲ儀式行進ス
觀兵式受禮者ヨリ五十米隔リタルトキ軍樂隊ハ解カレ各樂長ノ命令ニ依リ所屬部隊ニ追及ス

軍旗ノ出迎

第二百五十六 安置セル場所ヨリ軍旗ヲ迎ヘル爲ニ小隊ヲ徒步或ハ乘馬（兵種ニ依ル）隊形ニ整列セシム

小隊ニハ聯隊參謀次長、旗手及助手參加ス

第二百五十七 小隊ハ軍旗ヲ安置セル場所迄行進隊形ヲ爲シテ進ム其ノ順序左ノ如シ

參謀次長、其ノ後方一米五〇ニ小隊長、其ノ後方三米ニ旗手、旗手ト竝ンデ助手、其ヨリ更ニ十五米後方ニ小隊續行ス

第二百五十八 軍旗ノ安置シアル場所ニ到ルヤ小隊ハ出口ヲ中心トシテ整列シ參謀次長ハ旗手ト共ニ軍旗ヲ出迎ニ入ル

第二百五十九 出口ヨリ軍旗ノ出ヅル際小隊長ハ左ノ如ク號令ス「旗ノ下 氣ヲ著ケ」

參謀次長ハ舉手ノ禮ヲ爲シツツ旗手ヲ助手ノ中間ノ場所ニ導ク爾後小隊ハ前ノ順序ニ依リ部隊ノ隊形ノ整列位置ニ到ル

第二百六十 小隊ガ部隊ニ二十五乃至三十米ノ地點ニ接近セルトキ部隊長ハ左ノ號令ヲ下ス

「旗ノ下氣ヲ著ケ」

此ノ號令ニテ軍樂隊ハ歡迎ノ曲ヲ吹奏ス兵ハ「氣ヲ著ケ」ノ姿勢ヲ取ル小隊長ハ小隊、旗手及其ノ助手ヲ殘置シ參謀次長ノ命令ニ依リ捷路ヲ經テ軍旗ヲ部隊ニ於ケル定メラレタル位置ニ移ス軍旗停止セル際軍樂隊ハ吹奏ヲ中止ス軍旗ヲ捧持セル小隊長ハ部隊隊形ニ小隊ヲ導ク

軍旗ノ送出

第二百六十一 軍旗ヲ送出スルニハ小隊ヲ軍旗ニ對シ十五米ノ地點ニ整列セシム部隊長ノ「旗ノ下氣ヲ著ケ」ノ號令ニテ軍樂隊ハ出迎ノ曲ヲ吹奏ス參謀次長ハ旗手及其ノ助手ニ「後ニ續ケ進メ」ト號令ヲ下シ軍旗ヲ送出ヲ定メラレシ小隊ノ方向ニ進ム

部隊長ノ合圖ニ依リ軍樂隊ハ吹奏ヲ中止ス小隊ハ軍旗ヲ擁シテ其ノ安置ノ位置ニ進ム小隊ガ部

隊ヨリ二十五乃至三十米離レシトキ部隊長ハ「休メ」ノ號令ヲ下ス

第二百六十二 軍旗安置ノ場所ニ近ヅクヤ小隊長ハ入口ニ面シ小隊ヲ停止セシメ號令ヲ下ス

「旗ノ下 氣ヲ著ケ」

此ノ號令ニテ旗手ニ「後ニ續ケ 進メ」ト命ジタル參謀次長ハ安置ノ場所ニ軍旗ヲ運ブ軍旗ヲ安置セバ小隊長ハ小隊ヲ指揮シテ去ル

迎送儀仗衛兵

第二百六十三 迎送儀仗衛兵ハ其ノ都度衛戍地司令官ノ命令ヲ以テ設定セラル軍樂隊ハ全兵種部隊ヨリ選定セラル

第二百六十四 儀仗兵ノ服裝ハ彈藥筒及防濤面ヲ除キタル儀仗制服トス

第二百六十五 儀仗兵ハ迎送ノ際左ノ如ク整列ス即チ中隊ハ展開隊形、大隊ハ中隊縱隊、各中隊ハ小隊縱隊、右翼ヨリ二歩ノ所ニ助手ノ捧持スル軍旗、軍旗ヨリ右四歩右翼小隊ノ第一列ニ軍樂隊ト其ノ第一列ニ列ブ

第二百六十六 迎送サルベキ上官ノ接近（退出）ニ際シ儀仗長ハ號令ヲ下ス「氣ヲ著ケ右ニ

（左、中央）準ヘ」

此ノ際軍樂隊ハ出迎ノ曲（「インテルナチヨナル」）ヲ奏シ儀仗長ハ迎送サルベキ上官ニ報告ノ爲接近ス（一例）儀仗長「コミンテルン」狙撃第十六聯隊第一中隊長、上級中尉「アンドレーフ」ハ百五十名ヨリ成ル儀仗兵ト共ニ貴下ノ迎送ヲ爲ス

ソレヨリ側ニ歩ヲ進メ迎送者ヲ通過セシメ外側ヨリ後ロニ續ク

第二百六十七 迎送者ノ閱兵後儀仗兵ハ迎送者ノ前ヲ儀式行進ニテ通過ス

此ノ通過ノ際儀仗長ハ迎送者ヨリ五米隔リタルトキ右方ニ行キ迎送者ノ右側ニ米ノ所ニ到リ全儀仗兵ノ接近スル迄其ノ位置ニ停ル其ノ後許可ヲ得タル上儀仗兵ノ列ニ加ハル

送葬儀仗衛兵

第二百六十八 勞農「ソ」軍軍人ノ軍人タル名譽ニ酬ユル爲葬送ニ際シ衛戍地司令官ノ特別ナル指令ノ場合儀仗兵ヲ附ス

第二百六十九 服装ハ儀仗兵ニ同ジ但シ防毒面ナク兵ハ小銃及三發ノ空包ヲ携行ス
第二百七十 指定サレタル場所ニ到着セシ儀仗兵ハ展開隊形或ハ行軍縱隊ヲ取ル斯クシテ出棺ニ
際シ軍隊ニ從ヒ行クヲ得サシム(翼ノ方向ニ行軍縱隊ヲ展開ス)
若干ノ兵種ノ部隊參加シアルトキハ出棺ノ場所ニ近ク狙撃部隊、徒歩部隊、續イテ騎兵及砲兵
部隊整列ス

第二百七十一 埋葬ニ臨ミタル兵科部隊長ハ到着スル上官ニ接スルモ號令ヲ下サズ

第二百七十二 出棺ニ際シ「氣ヲ著ケ」ノ號令ヲ下ス軍樂隊ハ葬送行進曲ヲ吹奏ス

第二百七十三 棺ガ儀仗兵ノ正面ヲ過グルヤ儀仗兵ハ棺ノ後ロヲ進ム

送葬ノ行動順序左ノ如シ

(イ) 勳章及名譽戰鬪銃、花環

(ロ) 棺

(ハ) 故人ヲ徒歩ニテ送ル人々

(ニ) 軍樂隊ヲ先頭ニセル儀仗兵

第二百七十四

埋葬ノ場所ニ於テ儀仗兵ハ墓地ノ正面ニ整列ス棺ヲ墓地ニ埋メルニ際シ左ノ號令
ヲ下ス「氣ヲ著ケ」狙撃部隊(中隊以下)ハ三發ノ空砲ヲ齊發ス儀仗兵ニ砲兵參加シアルトキ
砲兵ハ三度一齊射撃ヲ爲ス

小銃ノ射撃ハ墓地ニ於テ、砲兵ノ射撃ハ墓地域外ノ安全ナル場所ニ於テ行フ

附 録 一

信號及記號表

信號

信號傳達ノ方法

- 一、注意
片手ヲ頭ノ高サニ舉グ
- 二、理解シアリ(呼戻)
兩手ヲ頭ノ高サニ舉ゲ又下ロス
- 三、反復セヨ(理解シアラス)
兩手ヲ頭ノ高サニ伸バシ顔ノ上ニテ十字ニ振ル
- 四、來レ(集合)
片手ヲ上ニ舉ゲ頭上ニテ廻ハシ激シク下ロス
- 五、展開セヨ(部隊ノ解散及展開)
兩手ヲ脇ニ數回擴ゲル
- 六、止レ(伏セ)
片手ヲ上ニ舉ゲ急ニ下ロス(止ル迄反復ス)
- 七、行動繼續セヨ(前面ニ新方向ニ)片手ヲ頭ノ高サニ舉ゲ、他ノ手ヲ數回激シク振り新方向ヲ指ス

註記 前述ノ信號、記號ハ手旗、單旗、圓匙等ニテ傳達シテモ可ナリ

附 録 二

行軍間兵ノ裝備法

- 一、裝備品ノ調整ノ爲全員ノ有ユル携行品ノ實在竝ニ程度ヲ検査ス
修理及掃除ヲ要スル物ハ整頓セラレ
若シ修理ガ兵自身ニ依リ處置シ得ザルトキ及全員ニ若干ノ物品不足シアル際ハ指揮官ニ申出ツ
- 二、裝備品ノ調整ノ爲肩紐ノ長サヲ定メ身長ニ應ジ各紐孔ガ帶革ノ革條ニ通ズル如クニス曳紐ヲ背中ノ中央肩胛骨ノ上ニテ交叉スル如ク調整シ曳紐ノ前面ノ長サヲ可動ノ留金ニテ調整ス
- 三、肩紐ノ調整終レバ自己ノ前ニ携行スベキ裝備品ヲ竝ベ豫備品、附屬品ハ背囊及袋ニ應ズベシ
- 四、裝備品ノ調整順序左ノ如シ

附録一 信號及記號表
附録二 行軍間兵ノ裝備法

(ロ)(イ)

帶革ハ裏返シテ置キ留金ヲ右ニス
 帶革ニ逐次著クベキモノ左ノ如シ
 第一ノ紐孔ヲ以テ左彈藥囊次デ肩紐ノ左前端、左彈藥囊ノ第二ノ紐孔、銃劍鞘ノ紐孔、手榴彈囊ノ紐孔、身長ニ應ジ肩紐ノ末端(下、中又ハ上)ノ孔、水筒ノ紐、圓匙(斧)ノ紐、右彈藥囊ノ第一紐孔、肩紐ノ右前端、右彈藥囊ノ第二紐孔、三筒ノ彈藥囊ヲ著ケシ際ハ右ノ肩紐ヲ掛ケ終リタル後豫備彈藥囊ノ一方ノ紐孔ヲ掛ケ次ノ紐孔ハ右彈藥囊ノ第二紐孔ノ次ニ掛ク豫備彈藥囊ハ右ノ彈藥囊ノ下ニ置ク
 全裝備品ハ身體ニ接スル内側ヲ上ニス

五、背囊ノ裝備ハ左ノ順序ニ依ル

(イ)(ロ)

背囊ハ背ニ接スル後壁ヲ下ニ、上蓋ヲ前方ニ置ク
 外套革條ヲ背囊胴體左側ノ上部革環及上壁ノ環ニ留金ヲ手前ニシ又飯盒革環ヲ背囊ノ上蓋革環ニ留金ヲ前方ニシテ通ス
 背囊ノ内部ニ左ノモノヲ納ム

(ハ)

第一列(下部) 底ニ下著一對、背囊胴體下壁ニ接シテ豫備(清潔ナル)「タオル」、下著ノ上胴體上壁ニ接シテ「足布」一組ヲ置ク
 第二列(上部) 胴體下壁ニ密著シテ携帶天幕ノ木及鐵控杭、下著及「タオル」ノ上胴體下壁ニ密著シテ横ニ豫備糧食袋、下著ノ上胴體右側壁及豫備糧食袋ニ密著シテ使用中ノ「タオル」ニ納メタル洗面用具、下著ノ上豫備糧食袋ニ底ヲ接シ把手ヲ右ニシ袋入ノ茶、砂糖及鹽ヲ納メタル「コップ」、右上隅ニ銃用屬品袋、左上隅「コップ」ノ下ニ修理袋、豫備糧食袋ト「タオル」トノ間ニ横ニ食匙ヲ置ク

註記 品名目錄表以外ノ些細ナ個人用物品(封筒、ノート、紙等)ハ背囊ノ内部ノ適當ナル箇所ニ入ル

- 六、裝備セル背囊胴體ハ内部留革ヲ以テ先ツ縦ニ次ニ二方向ヨリ斜メニ縛ル
- 七、携帶天幕ノ支柱ヲ重ネテ控網ト共ニ網ノ端末ヲ以テ背囊覆上蓋下ノ孔ニ強ク縛著ス
- 八、携帶天幕ニ卷キテ内物入蓋ノ上ニ支柱ニ密著シテ置ク

九、背囊ノ蓋ヲ閉チ留金ヲ掛ケル

十、卷外套ヲ背囊ニ裝著スル順序左ノ如シ

(イ) 卷外套ハ裾ヲ下ニ裂目ヲ背囊ノ壁ニ當テ胴體上壁ノ中央ニ裝著ス
兩上隅ニ添ヒ平等ニ折曲ゲ生ジタル隅角ヲ均ス

(ハ) 下部外套革條ヲ背囊側壁ノ下部革環ニ通シ留金ヲ掛ク

(ニ) 背囊左側壁ノ上部外套革條ヲ強ク緊ム

外套ノ末端ハ背囊下壁ノ線ヨリ出デザルモノトシ外套革條ノ末端ハ卷キ止メトス

十一、飯盒ヲ覆ト共ニ底部ヲ左ニシテ背囊上蓋ニ結著ス

十二、防毒靴下ハ卷キテ飯盒ノ上方外套ニ密著シテ置キ背囊上壁ノ外套革條ヲ以テ外套ト共ニ

縛ル

十三、鐵兜ハ頸紐ヲ延バシ飯盒ヲ蔽ヒ包ム如ク其ノ周圍ニ縛著ス背囊ニ鐵兜ヲ縛著スルハ部隊

長ノ命令ニ依リ行フ

行軍用軍裝品ノ著脱及携行

十四、服裝ヲ整然ト正シクス即チ肌著及作業服ノ皺ヲ特ニ肩ノ部分ヲ綿密ニ直シ釦及「ホツク」

ハ總テ之ヲ掛ケ外套ノ後皺ヲ正シ襟ヲ整フ

十五、作業服ノ左物入ニハ繻帶包及記念章ヲ納ム

十六、裝備品ヲ左ノ如ク著ケル

(イ) 帶革ハ身體ニ緊密ニ締ム帶革ノ留金ハ身體ノ真中ニ位置シ遊端ハ革條ノ固定革及左彈藥
囊ノ携帶孔或ハ囊留金革條下ニ裝ス

(ロ) 肩紐ノ前端ハ延バシタル形ノ儘ニ又後端ハ背ノ真中ニ位ス

(ハ) 彈藥囊ハ前方ヨリ帶金ノ兩側ニソレヨリ二本ノ指幅ダケ離シ豫備彈藥囊ハ右ヨリ右彈藥

囊ノ下ニ裝著ス

(ニ) 手榴彈囊ハ左脇ノ彈藥囊及劍鞘ノ後ロニ著ク

(ホ) 水筒ハ右脇斧(圓匙)ノ後ロニ下グ

(ヘ) 斧(圓匙)ハ右臀上ニ下グ

裝備品ノ著裝終レバ作業服(外套)ノ裝ヲ正ス若シ必要アラバ肩紐ノ前面末端ノ留金ヲ

附錄二 行軍間兵ノ裝備法

止メル

十七、防毒囊（防毒服ヲ内ニ納ム）ハ肩平紐ヲ以テ右肩裝具肩紐上ニ掛ケ囊ヲ左脇手榴彈囊ノ後方ニ於テ上邊ヲ帶革上邊ト同高ニ且蓋ヲ外方ニ在ル如ク之ヲ裝著ス

十八、整頓セル背囊ヲ背負フニハ左ノ如クス

左ノ斜紐ヲ背囊下壁ノ留金ニテ止ム

（イ）（ロ） 兩手ヲ以テ肩紐ヲ取り背後ニ背囊ヲ負フ同時ニ肘ヲ曲ゲツツ左手ヲ肩紐及斜紐ノ中ニ通ス

（ハ）（ニ）（ホ）（ヘ）（ト） 左手ニテ背囊ヲ保チツツ右手ニテ背囊下壁ノ留金ニ右ノ斜紐ヲ著ク

作業服ノ袖及襖ヲ正ス

背囊ノ留金ヲ革條ニ掛ク

右肩紐ノ前面末端ヲ留金ニテ右ノ彈藥筒ニ掛ク

左ノ肩紐ノ前面末端ヲ防毒面ノ下ニ置ケル左ノ彈藥筒ニ留金ヲ以テ掛ク

背囊ヲ背負ヒテ肩紐ヲ正ス

正シク負ハレタル背囊ノ胴ノ上部ハ肩ト同高度ニ在リ運動ニ際シ動搖スルコトナク背ニ負ハレアリ

註記一、彈藥筒ヲ具備スルカ又ハ具備セザル背囊ヲ負フトキハ肩紐ノ前面末端ノ留金ニテ革條ノ下端ト結ブ此ノ際肩紐ハ所要ノ長サニ調整ス

二、卷外套ヲ著ケタル背囊ヲ負ヒタルトキ背囊ハ襟ノ高サト等シクス

十九、裝備ヲ脱スルニハ著裝ノ反對順序ニ依ル

二十、行軍中ノ休止ニ際シ肩紐ノ前面末端ノ留金ヲ脱シ革條ヲ弛メルコトヲ許サル
狀況ニ依リ部隊長ノ命令ヲ以テ鐵兜及背囊ヲ脱スルコトヲ許サル
大行軍竝ニ野營ニ際シテハ背囊及裝備品ヲ著セズ

附 錄 三

兵ノ被服著脱法

一、作業服短袴及外套ハ各兵ノ身長竝ニ肥滿ノ度ニ依リ寸法ヲ揃フ

附錄三 兵ノ被服著脱法

二、作業服、短袴及外套ハ常ニ全部釦ヲ掛ケ外套着用ノ際ハ其ノ襲ハ延バシ襟ノ「ホツク」ヲ掛ク

三、行軍及教練ノ場合上官ノ命令ニ依リ外套ノ裾ヲ上げ革條ニ留金ニテ止ムルヲ許サル但シ襟ハ「ホツク」ヲ脱ス

四、略帽及冬帽ハ眞直ニ星ノ中央ガ顔ノ中央線上ニ在ル如ク冠ルベシ略帽ノ前部ノ上縁ヲ高ク上げ後方ヲ縮メル

五、戦闘帽ハ若干右斜メ耳ニ偏ラシメテ冠リ星ノ中心ハ顔ノ中央ニ在ル如ク冠ル
註記 鐵兜ヲ冠ル際戦闘帽ハ物入ニ納ム

六、鐵兜及帽子ハ無造作ニ又ハ擴ゲタル儘ニテ冠ルトキ、前ノ場合帽子ノ後部ハ上釦ニ掛ケ後ノ場合下釦ニ掛ク

七、鐵兜ヲ傾斜セシメズ眞直ニ冠レバ星ノ中心ハ顔ノ中央ニ在リ顎紐ハ確實ニ締ム冬季ハ鐵兜ノ下ニ編ミシ布片ヲ装ス

八、作業服及外套ハ常ニ革條ヲ以テ身體ニ密著スル如ク締メ作業服ノ襲ハ正シク整頓ス

外套ヲ密著セシムルニハ革條ノ釦ヲ掛ケ革條ノ前面部ハ其ノ後部ヨリ若干低ク爲ス留金ハ胴體ノ眞中ニ在ル如クシ其ノ末端ハ左方ニ向ク

九、長靴（短靴）ハ蹠ノ長サ及脚ノ太サニ依リ寸法ヲ合ハス靴ハ受領ノ際夏冬二様ノ巻脚絆ニ合ハスコト必要ナリ

十、正シキ寸法ニ適ヘル靴ハ左ノ如シ
脚及其ノ運動ヲ壓迫セザルコト

(イ) 拇指ハ窮屈ナルベカラズ指ト前部革トノ間ニ（外ヨリ觸知シ得ル）小ナル間隙アルコト
(ロ) 皮革ノ前部ハ甲ノ所ニテ硬ク張ラズ外ヨリ指ニテ検査スルトキ少シシ革ヲ撮ミ上げ得ルコト
(ハ) 歩行ノ場合足ハ靴ノ中特ニ踵ノ部分ニ於テ足ガ不安定ナラザルコト

(ニ) 半長靴（短靴）ハ靴紐ガ密著シ而モ硬カラザルコト新シキ短靴ハ履慣ルル迄上部ノ孔ニ細紐ヲ通スベカラズ

十一、夏季ニ於テ靴使用ノ際ハ足布一組毎ニ必ズ差込ミ敷革一組ヲ用フ

十二、靴（長靴、短靴）ハ常ニ整頓且清潔ニ爲ス
 十三、足布ヲ卷ク際ハ皺及溝ヲ作ルベカラズ
 十四、極寒時ニハ新聞紙ニテ足ヲ包ミ足頭以下ニ鹽分ナキ豚或ハ鷲鳥ノ脂肪ヲ塗込ミ靴ニ「フ
 エルト」敷革ヲ入レ且足ハ窮屈ナルベカラズ「スキー」行進ノ際ハ靴ノ前部ニ羅紗製履ヲ
 装着ス足ハ緊メ附ケラレザル如クニス

右足ヲ包ム要領

細紐ハ清潔ニシ兩手ニテ整頓シ且引ク
 右足ヲ包ムニハ踵ヲ卷脚絆ノ右端ヨリ二十程ノ所ニ置キ指ノ末端方卷脚絆ヨリ僅カニ内側ニ在
 ル如クス（第七十二圖操作一）
 右手ニテ卷脚絆ノ前端ヲ取り皺ヲ整ヘツツ踵ノ上ヲ包ム最モ隅トナル部分ハ裏ニ差込ム左手ハ
 他ノ端ヲ捉ヘ此ノ補助ニ依リ上述ノ如ク保持ス（第七十二圖操作二）
 足ノ部分又ハ踵ノ部分ノ皺ヲ作ラザル如ク整頓シ卷脚絆ノ長キ末端ヲ裏返シニ爲シ（此ノ際兩

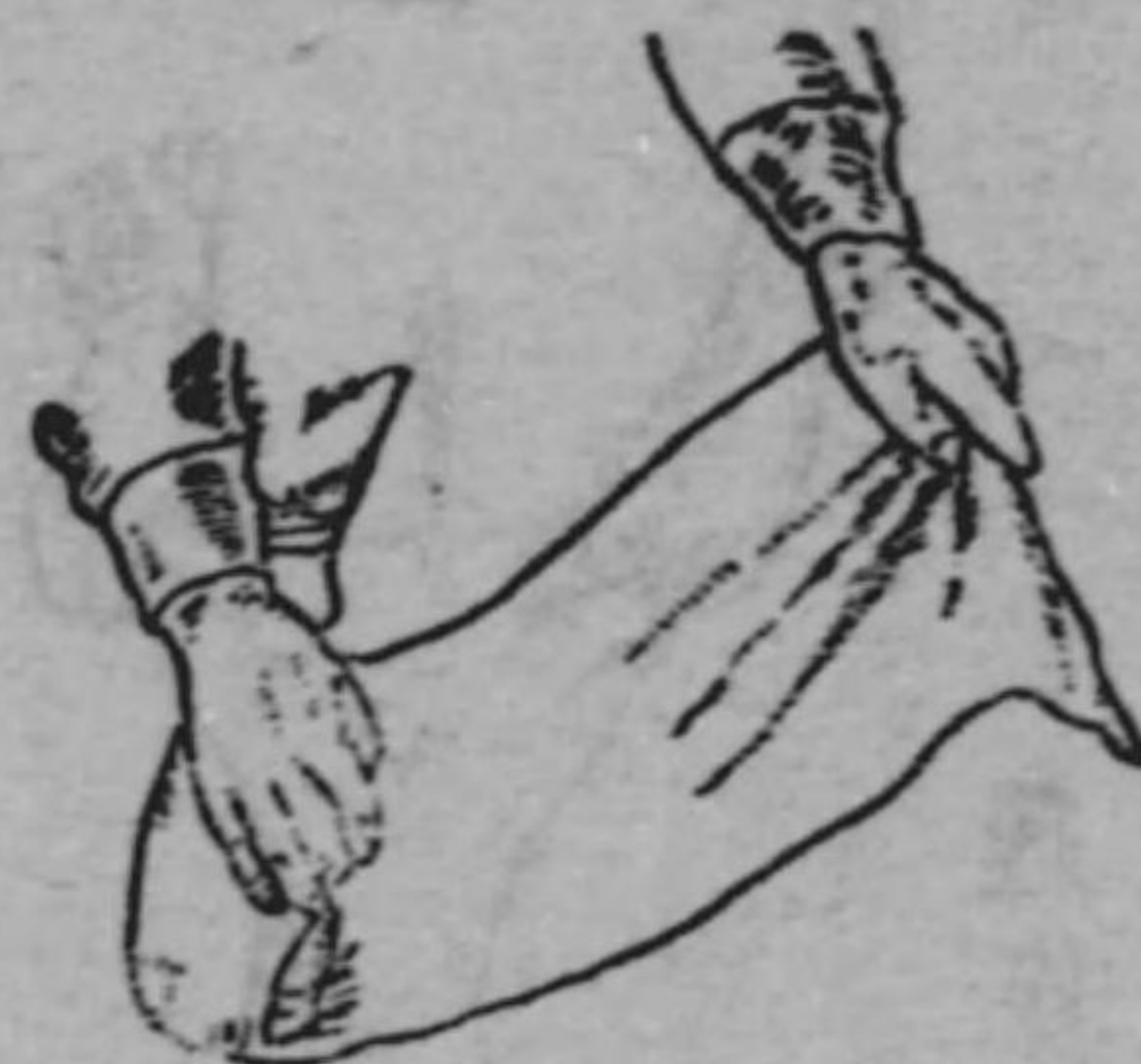


Primen 1 操作一



操作四

Primen 4



操作二

Primen 2



操作五

Primen 5



操作三

Primen 3

(足右) 著装ノ布足 圖二十七第



ПРИЕМ 1.

操作一



ПРИЕМ 2.

操作二



操作三

ПРИЕМ 3.



操作五

ПРИЕМ 5.

操作四

ПРИЕМ 4.

(足左) 著装ノ布足 圖三十七第

手ヲ變ヘル) 踵ノ裏、踝及踵ヲ包ム(第七十二圖操作三)
卷脚絆特ニ其ノ前部ヲ脛骨ニ添ヒテ上部ニ伸バシ脛骨ノ下部ヲ卷脚絆ノ後部ニテ蔽フ(第七十二圖操作四) 此ノ際踵ハ脛ノ内側ノ襞ニ依リ緊密ニ包マル(第七十二圖操作五)

左足ヲ包ム要領

左足ヲ包ミ蔽フニハ右足ノ場合ニ準ズ(第七十三圖)

附 錄 四

機關銃材料廠勤務

一、材料廠内ニ於ケル機關銃及輓具ノ整備

材料廠ニ於テ車載(二輪車)機關銃ハ遮蔽下ニ於テ銃口ヲ前方ニ轆桿ヲ後方ニシテ整置ス車輛ノ間隔ハ二乃至三米ナリ車輛ノ下ニ車輪ガ地ニ觸レザル爲木製下敷ヲ敷置ス轆桿ノ下ニハ制式品ナ

附錄四 機關銃材料廠勤務

キ際ハ適宜ノ支柱ヲ置ク極寒ノ際冷却液ハ銃套ヨリ容易ニ移シ屋内ニ保存ス又夏季長期ニ互リ保管スル際液ヲ銃套ヨリ抽出ス

馬ノ鞍具即チ韃及金具ノ馬勒ハ騎坐ニ置ク尻帶竝ニ挽革ヲ附シタル頸環ハ共ニ曲棒ヲ以テ騎坐ノ臺ニ前面ヲ轆桿ニ向ケテ置ク尻帶ハ轆ヲ以テ、挽索ハ十文字ニ組合ハセ頸環ノ覆ヒ上ニ置ク材料及馬具ハ防水布ニテ覆フ乾燥期ニ於テハ馬具ノ乾燥ヲ行フヲ要シ臺上ニ置ク之ガ爲頸環ハ其ノ柄ヲ上方ニ置ク

二、車輛ノ繫駕

車輛ヲ繫駕スルニハ「繫ケ」ノ號令ヲ下ス

馭者ハ馬ヲ車輛ノ傍ニ導ク彈藥手ハ勒、尻帶、挽革、頸環ヲ裝シタル後馬ヲ轆桿ニ導キ挽索ヲ副トニ著ケ轆ヲ著ケ其ノ末端ヲ頸環ノ環ニ通シ馭者ハ馬ノ挽索ヲ正確ニ著ケシヤ否ヤヲ検査シ轆桿縛革ヲ引締メ勒ヲ掛ク繫駕ヲ終了セバ馬ノ前ニ到リ之ニ面シ轆桿ノ末端ニ左ノ腰ヲ觸レツツ馬勒ノ内側末端銜ニ近ク兩手ニテ支フ全機關銃手ハ自己ノ位置ニ停ル

繫駕及分隊長ノ材料品検査ノ後「馭者乗レ」ノ號令ヲ下ス馭者ハ左側ヨリ車輛ニ近寄り左手ニテ上ヨリ轆ヲ取り車上ノ定位ニ著キ兩手ニ轆ヲ分ツ轆ハ銜ニ於ケル馬ノ抵抗ヲ兩轆平等ニ手中ニ感ズル如ク伸バシ兩手ハ稍、肘ヲ曲グ
馭者ハ腰及肩ヲ引緊メズ眞直ニ肩幅ニ應ジ兩足ハ擴ゲテ坐ス

三、騎 乗

「速歩 進メ」ノ號令ニテ馭者ハ轆ヲ取ル次ニ轆ヲ僅カニ前方ニ動カシ輕キ打撃ヲ馬ノ背ニ與ヘ發進セシム運動ハ常ニ速歩ヲ以テ始メ挽馬ガ良ク協同挽曳ヲ爲スヤヲ注視ス

馬ヲ進ムル爲メニテ控制スルハ豫メ禁止サル

車ヲ後退セシムル爲「第何番車 後退始メ」ノ號令ヲ下ス（聲ヲ延バシテ言フ）

馭者ハ轆ヲ取り後退スル體勢ヲ辨ノ抵抗中ニ與ヘ馬ヲ控ヘ車ヲ後退セシメ馬ヲ停止セシム次ニ再ビ車ヲ二米後退セシム車ノ後退ハ四米以上爲サズ

四、斷絶地ニ沿フ騎乘

坂路ニ際シ轆革ヲ弛メ引緊ムルコトナク均等ノ轆曳ニテ馬ヲ推進ス

困難ナル登坂路ニ在リテ砲手ハ車輛ヲ後方ヨリ押上グベシ

休憩ノ爲停止スル際ハ車輛ノ逆走ヲ防止スル爲車輪ノ下ニ石又ハ芝等ヲ置ク

長ク急ナル降坂路ニ於テハ車ヲ支フル爲一車輪ニ特別ノ輪止メヲ爲シ又之ナキトキハ適宜ノ手段ヲ講ズ

短小ナル急斜面ヲ有スル溝渠ヲ通過スル場合ニハ馬ヲ降斜面ニ停ムルコトナク車輪ノ滑走ヲ利用シ一氣ニ馬ヲ前方ニ追上グベシ然ルトキハ登降容易ナリ但シ登降ニ際シ急ナル屈曲アルトキハ車ノ顛倒ヲ防グ爲上述ノ方法ヲ適用スベカラズ坂路急峻ナル岸ヲ有スル溝渠ヲ通過スル爲ニハ四脚ヲ以テ困難ナル箇所ヲ切取り登降ヲ容易ナラシム

五、裝 鞍

裝鞍ニ方リテハ豫メ鞍ヲ周密ニ検査シ鞍褥ノ塵埃ヲ拂ヒ鞍ヲ靜カニ馬背ニ置ク此ノ際被毛ヲ逆立タシメザル爲前方ヨリ裝ス前橋ヲ髯中ノ中央ニ在ラシムル如ク腹帶ヲ裝著スルニハ前方腹帶ヲ豫メ鞅ノ胸下革條ノ孔ニ通シ前肢ヨリ一三乃至一四種ノ所ニ在ラシムル如ク之ヲ裝シ後方腹帶ハ前方腹帶ヨリ兩腹帶ヲ結合シアル革條ノ幅ダケ離ス腹帶ハ前後序々ニ之ヲ緊メ前方腹帶ハ鞍ノ動搖セザル如ク強ク、後方ノ腹帶ハ馬ノ呼吸ヲ壓迫セザル如ク稍々弛メ鞅、鞍ハ胸及後肢トノ間ニ指三本ヲ挿入シテ動カシ得ル程度ノ餘裕ヲ有セシム

六、機關銃駄載物ノ積載

機關銃ヲ駄載セシムルニハ「機關銃載セ」ノ號令ヲ下ス
馭兵ハ各馬ノ頭ヲ内方ニ尻ヲ外方ニシテ之ヲ抑フ照準手竝ニ其ノ助手ハ機關銃駄載物ヲ、彈藥手ハ彈藥ヲ駄載ス之ガ爲照準手竝ニ其ノ助手ハ銃ヲ銃架ヨリ脱シ標準手ハ駐梁方齒弧ノ第一溝ニ吻合スル如ク銃架臺ヲ後方ニ動カシ助手ハ彈藥箱ヲ吊籠ニ納ム照準手ハ右方ヨリ銃架軸固定環ノ上部ヲ、助手ハ銃架定環ノ上部ヲ弛メ兩者ハ彈藥箱ヲ容レタル吊籠ヲ鞍體橫木ノ後方ニ懸ケ銃架ヲ

馱載物ノ右方ヨリ架尾ヲ前橋及後橋ノ間ヲ經テ馱載物ノ左方ニ移シ左側鞍褥ニ密著スル如ク置ク
銃架軸ハ車輪中間ノ特設安定座ニ納メ緊定螺ヲ緊ム
次ニ照準手竝ニ其ノ助手ハ銃ヲ舉ゲ照準手ハ銃口部ヲ、助手ハ握把ヲ持チ之ヲ左方ヨリ銃口ヲ後
方ニ（馬ノ尻ニ向ケ）尾筒ヲ鈎部ハ銃套ノ中央ヲ緊定環ノ下部ニ當テテ置キタル後照準手ハ緊定
環上部「ボルト」及固定鉸ヲ以テ緊著ス

七、彈藥 馱 載

彈藥手ハ彈藥冷却液、屬品箱ヲ三箇ツツ吊籠ノ中ニ置キ革條ニテ緊メ吊籠ヲ取り同時ニソレヲ鞍
ノ左右ヨリ水平突出部ヲ前橋、後橋ノ順ニ其ノ後ロニ裝著ス結合馱載筐ハ上ヨリ前、後橋ノ銃ニ
對シ突出部ヲ向ケテ裝置シ吊籠ニ縫著セル革條ヲ以テ縛著ス吊籠ヲ附著シアル腹帶ヲ緊メ一馬ノ
馱載筐ニ防楯ヲ、他ノ馬ニ彈藥箱及照尺ヲ置キ之ヲ緊ム馱載ヲ終ルヤ馱兵ハ馬ヲ揃ヘ前後ニ重ナ
ラシメ不動ノ姿勢ニテ之ヲ保持ス全機關銃手ハ其ノ場ニ停止ス
機關銃ヲ卸スニハ「卸セ」ノ號令ヲ以テス

其ノ順序ハ馱載ノ際ノ正反對ナリ

八、裝勒及馱載セシ馬ノ處置

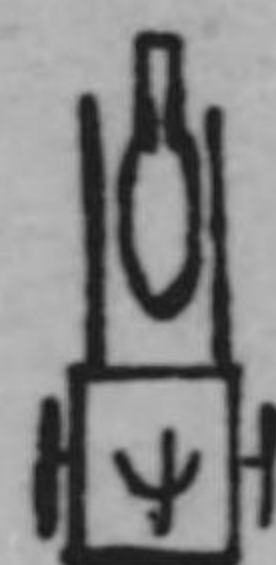
「右ニ準ヘ」ノ號令ニテ馱兵ハ右ニ方向ヲ轉ジ同時ニ左方ニ左足ヲ出シ之ニ右足ヲ引著ケ右足ノ
引著ケト同時ニ指示サレシ方向ニ頭ヲ向ケ馬ヲ他ノ馬ノ線ニ準ハシム
「氣ヲ著ケ」ノ號令ニテ馬ハ左方ヨリ停止ス肘ヲ曲ゲシ右手ニテ韁ヲ取りテ捌ク韁ノ末端ハ左手
ニ握ル此ノ際馬ハ四肢ニ其ノ體重ヲ均等ニ置キテ立ツ馬ノ頸ハ馱兵ノ肩ノ高サト等シクス
行進セシムルニハ馬ヲ右手ニテ序々ニ前方ニ發進セシメ停止スルニハ韁ヲ引緊ム此ノ際頭ヲ低ク
下ゲシムルヲ許サズ

附 錄 五

軍隊符號 (次頁)



連絡二輪車



二輪車，
機台機關銃



四輪車，
機台機關銃



馱載機關銃



彈藥馱載



射手



連絡



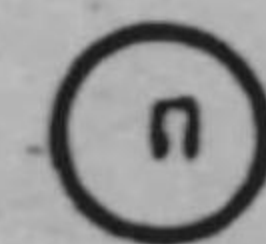
彈藥運搬手



手榴彈手



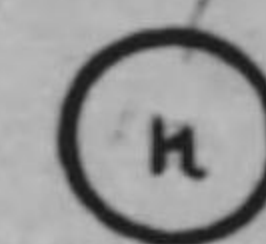
手榴彈手助員



書記



騎乘者



手馬兵



機台機關銃



政治部指導員



小隊長



中隊曹長



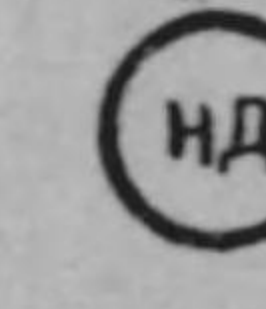
中隊曹長補佐員



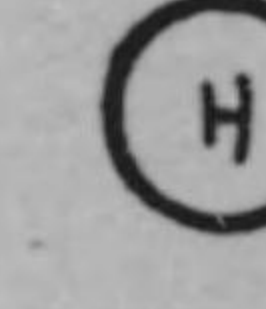
分隊長



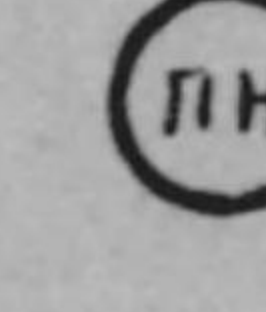
機關銃長



距離測定手



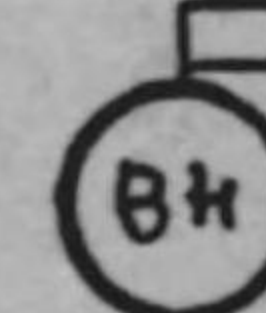
照準手



照準手助員



聯隊長



聯隊委員



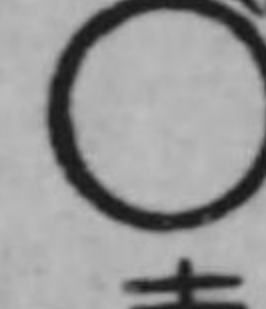
聯隊長補佐員



參謀長



參謀長補佐員



旗手



大隊長



大隊參謀長



中隊長

ソ軍歩兵操典 終

昭和十五年七月二十日印刷
昭和十五年七月二十五日發行

ソ軍歩兵操典
定價金二十五錢

製本控

783 函	259 號	年	月	日
千九百三十八年發布 ソ軍歩兵操典 (別式教範) 帝國在御軍人会本部訳稿 1 冊				
備考				

昭和十五年七月二十日印刷

ソ軍歩兵操典終

昭和十五年七月二十日印刷
昭和十五年七月二十五日發行

ソ軍歩兵操典

定價金二十五錢

日本新

昭和十五年七月二十日印刷
昭和十五年七月二十五日發行



發行者

東京市麹町區九段一丁目五番地

帝國在郷軍人會本部

右代表者 田 北 惟

印刷者

横山才四郎

東京市麹町區九段一丁目五番地

印刷所

財團法人 軍人會館印刷所

東京市麹町區九段一丁目五番地

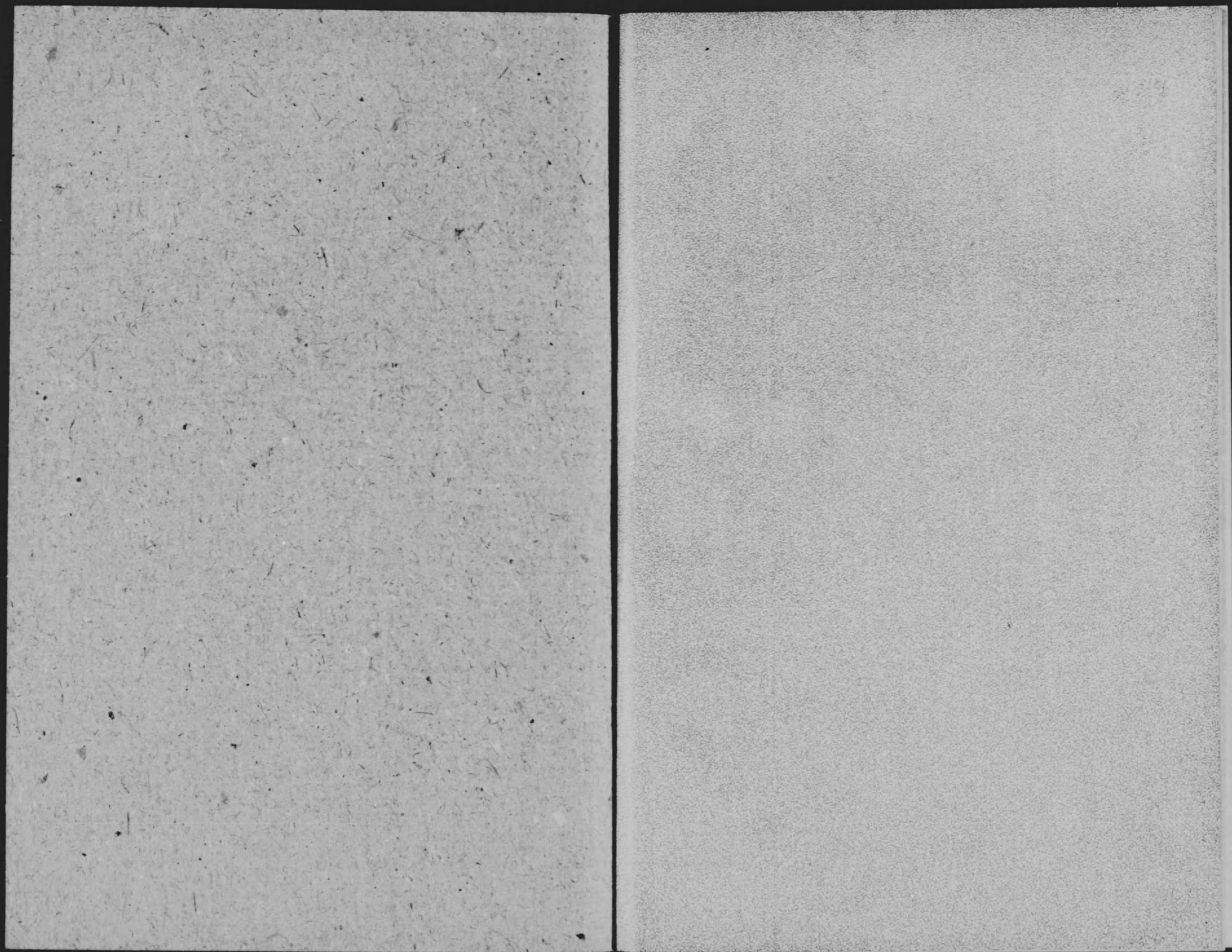
發行所

財團法人 軍人會館出版課

電話九段四一〇一—四一〇八番
攝替口座東京二〇〇七番



Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is faint and difficult to read, but appears to contain several lines of characters.





3
9